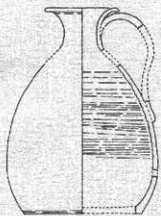


# 史跡 齋宮跡

平成4年度発掘調査概報



1993

齋宮歴史博物館

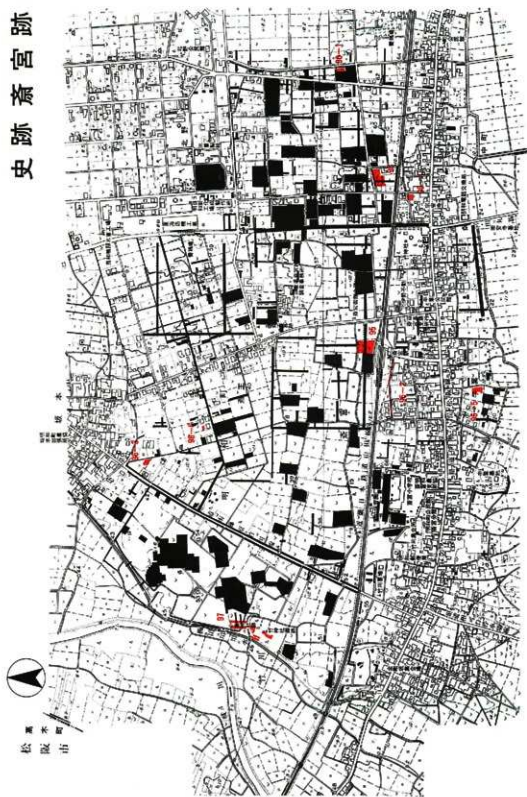


第95次調査区遠景（南から）



第98次調査区遠景（東から）

# 史跡 齋宮跡



第1図 平成4年度発掘調査地区 (1 : 10,000)

## はじめに

我が国の古代・中世において他に類を見ない政治的・経済的・宗教的かつ文化的に貴重な遺産であるといわれる斎宮跡の保存も地域住民の皆様をはじめとする関係各位のご理解とご協力により着実に進み、その調査と活用についても一層の充実を図るべく、地元明和町とも協力しつつ努めているところでございます。

とりわけ近年の調査成果は、昭和45年の古里地区に始まる20数年間にわたる発掘調査成果の積み上げを基にようやく調査率が史跡全体の12%に達したばかりではありますが、斎宮跡の全容解明にとって画期的とも言えるものとなってまいりました。

今回ここに発掘調査概報として公表させていただく平成4年度の発掘調査の中では特に史跡西部の古里地区で、従来から知られていた奈良時代の大溝が旧竹神社及び旧小倉神社の敷地を貫くように延びていることが明らかとなりました。また、史跡東部では1辺100mを超える広範囲を囲む楕円や大型掘立柱建物が検出され、斎宮跡の中枢部の一角であることが窺えるなど多大な成果を得ることができました。

これらの調査成果は今後の発掘調査の進め方にとって極めて重要な意義を持つものであり、これまでの文化庁並びに斎宮跡調査指導委員をはじめ諸先生方のご指導の賜物と感謝するとともに、今後一層のご指導・ご検討をいただき、併せて地元及び関係各位のご理解とご協力をお願いして刊行のご挨拶とさせていただきます。

平成5年3月

斎宮歴史博物館

館長 久保富子

## 例 言

1. 本書は、斎宮歴史博物館が国庫補助金の交付を受けて平成4年度に実施した史跡斎宮跡の発掘調査の概要をまとめたものである。
2. 明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の報告書は別途、明和町教育委員会が刊行している。
3. 遺構の実測にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
4. 遺構の時期区分は、「斎宮の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。
5. 遺構表示記号は次の通りである。  
SB；建物 SK；土塚 SD；溝 SE；井戸 SA；柵 SF；道路 SX；その他
6. 遺物実測図は、特に標示がない限り実物の4分の1である。
7. 斎宮跡の調査全般については、次の先生方の指導を得た。

京 都 府 立 大 学 名 譽 教 授 門 脇 禎 二  
千 葉 大 学 教 授 北 原 理 雄  
福 山 女 学 園 大 学 名 譽 教 授 久 徳 高 文  
財 大 阪 文 化 財 セ ン タ ー 理 事 長 坪 井 清 足  
名 古 屋 学 院 大 学 教 授 榎 崎 彰 一  
三 重 大 学 教 授 八 賀 晋  
名 古 屋 大 学 教 授 早 川 庄 八  
財 京 都 府 埋 蔵 文 化 財 調 査 研 究 セ ン タ ー 理 事 長 福 山 敏 男  
皇 学 館 大 学 教 授 渡 辺 寛

8. 本概報の編集・執筆は斎宮歴史博物館調査研究課の吉水康夫、野原宏司、大川勝宏があたり、赤岩操、大滝靖子がこれを補佐した。

また、遺物整理には島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子の協力を得た。

## 目 次

I. 調査の経過と概要 .....	1
II. 第95次調査 .....	3
III. 第97次調査 .....	18
IV. 第98次調査 .....	37

## 表・挿図目次

[表] 1. 平成4年度発掘調査地区一覧 .....	2
2. 第95次調査時期別遺構分類表 .....	4
3. 第97次調査時期別遺構分類表 .....	18
4. 第98次調査時期別遺構分類表 .....	38
5. 奈良時代古遺検出調査区一覧表 .....	53
6. 掘立柱建物・楕円一覧表 .....	58
7. 竪穴住居一覧表 .....	59
8. 遺物（土器）観察表 .....	60
9. 竪穴跡発掘調査次数一覧表 .....	70
[図] 1. 平成4年度発掘調査区位置図（1：10,000） .....	i
2. 第95次調査区位置図（1：2,000） .....	3
3.     ◇ 遺構実測図（1：200） .....	5・6
4. S B 6660遺構実測図（1：80） .....	7
5. S X 6666、S X 6635遺構実測図（1：20、1：40） .....	8
6. 第95次調査出土遺物実測図（S X 6666） .....	11
7.     ◇ 出土遺物実測図（S D 0244・S K 6658） .....	12
8.     ◇ 出土遺物実測図（S X 6652） .....	13
9.     ◇ 出土遺物実測図（S X 6633・S D 6671・S K 6651・6654・6661 ・S K 6647・S D 0244・S B 6660・その他） .....	15
10. 第93次、第95次調査区遺構変遷図（1：800） .....	16
11. 第97次調査区位置図（1：2,000） .....	19
12. 第97-1次調査遺構実測図（1：200） .....	21・22
13. S K 6692遺構実測図（1：20） .....	23
14. S D 6700土層断面図（B区西壁 1：80） .....	23
15. 第97-2次調査遺構実測図（1：200） .....	25・26
16. S B 6706遺構実測図（1：40） .....	27
17. S D 4500土層断面図（C区西壁 1：80） .....	28
18. 第97-1次調査出土遺物実測図（S B 6692・6690・6686・S K 6685・6689・6692 ・S X 6696） .....	30
19.     ◇ 出土遺物実測図（S D 6700・包含層） .....	31
20. 第97-2次調査出土遺物実測図（S D 4500・6702） .....	32
21.     ◇ 出土遺物実測図（S K 6703） .....	33
22.     ◇ 出土遺物実測図（S K 6704・6710・6715・S B 6706・包含層） .....	34

23. 第98次調査奈良時代古道関連調査区配置図 (1:10,000) .....	39
24.     ◇ 遺構実測図 (1:200) .....	41・42
25.     ◇ S K6743遺構実測図 (1:20)・土器出土状況模式図 (1:16) .....	47
26.     ◇ 出土遺物実測図 (S K6753) .....	49
27.     ◇ 出土遺物実測図 (S K6743) .....	50
28.     ◇ 出土遺物実測図 (S K6762・6752・S D6750・6810) .....	51
29.     ◇ 出土遺物実測図 (その他の出土遺物) .....	52
30. 周辺遺構配置図 (1:1,200) .....	55・56
31. 斎宮跡地区表示 .....	74

## 写 真 図 版

巻頭 上: 第95次調査区遠景 (南から)	下: 第98次調査遠景 (東から)
1. 第95次調査区全景 (真上から)	
2. 上: S B6637 (南から)	下: S B6642・6643 (北から)
3. 上: S B6660 (南から)	下: 調査区東南部 (北から)
4. 上: SD0244・6671・SA6645 (南から)	下: S X6635 (東から)
5. 上: S X6666 (東から)	下: S X6666土師器壺半截状況 (東から)
6. 上: S K6644 (南から)	下: S X6652 (南から)
7. 上: 第97次調査 A区全景 (北から)	下: A区 S D6700 (東から)
8. 上: B区 全景 (北から)	下: S B6693・6694 (北東から)
9. 上: S K6692 (南から)	下: S K6689・S B6690 (東から)
10. 上: S X6696 (東から)	下: C区 S D4500 (東から)
11. 上: D区 全景 (南西から)	下: S B6706 (北西から)
12. 上: S B6708・6709 (南西から)	下: S B6713・6714 (北西から)
13. 第98次調査区全景 (真上から)	
14. 上: SF6800・SD6801・6802 (東から)	下: S A6760・6770・6780・6790 (東から)
15. 上: S A6770・6790 (北から)	下: S D6810 (東から)
16. 上: S B6720・6721・6722 (東から)	下:     ◇ (南から)
17. 上: S B6730 (西から)	下:     ◇ (南から)
18. 上: S B6720・6725 (北から)	下: S B6735 (西から)
19. 上: S K6753 (南から)	下: S K6743 (北から)
20. 第95次調査 出土遺物	
21.     ◇	
22. 第97次調査 出土遺物	
23.     ◇	
24. 第98次調査 出土遺物	
25.     ◇	
26.     ◇	

## I. 調査の経過と概要

斎宮跡のほぼ中央に位置する近鉄斎宮駅の北側一帯は、昭和54年の国史跡指定以来積極的に土地公有化事業が進められ、その整備・活用を求める声は年々強くなってきている。

そこで、将来の史跡整備の前提となる遺構の実態を把握するため今年度の計画調査の一つ第95次調査を昨年度に続いて駅北側の字内山地内で実施することとした。これは例年6月上旬に開催される「斎王まつり」にあわせ発掘調査の現地説明会も実施しており、近鉄を利用して訪れる観客にもより多く参加してもらうことも併せて考慮したものである。

調査は1,280㎡を対象に平成4年4月8日より開始し、7月31日に埋め戻しを含め全ての調査を完了した。その間、5月28日には調査指導委員会を開催して委員の先生方から多岐にわたる指導を得たほか、6月14日には上記の現地説明会を開催し、約310名の参加者があった。

調査結果は後述のとおりで、奈良時代後期から鎌倉時代前葉にわたる遺構・遺物があり、なかでも平安時代中期以降の特殊土坑の検出は「斎宮」の性格を考え合わせ、当該時期におけるこの地域の位置づけを考えるうえで示唆的である。

続いて実施した第97次調査は竹川字古里の公有地とこれに隣接する字中垣内の旧竹神社及び小倉神社跡の山林でトレンチを計6か所設定して行った。特に両神社跡は旧氏子の皆さんによる共有地となっており、竹川地区自治会長の協力と旧氏子各位のご理解によるものである。

古里地区は斎宮跡の調査の端緒ともなった地区で、当時の発掘調査によって奈良時代及び鎌倉時代の大溝が検出されている。これらの溝は、現在の地形から旧神社跡の北に接する農道に沿って西側の水田地帯に続くと考えており、これを確認することが主たる目的であった。

一方、旧神社跡については近代まで神社として信仰の対象となっており、現在でも地元の人々によって祀り、護られているところである。また、従来から斎宮跡にとっても極めて重要な性格を持つ一画であることも想定される地域であった。そこで、今回立木をさけての限られた調査ではあるものの、とりあえず遺構・遺物の広がりやその時期等を把握する目的で平成4年7月7日から9月25日まで、約630㎡について調査を実施したものである。

なお、例年夏休みを利用して小・中学生を対象に斎宮跡の普及啓発事業の一環として開催している「体験発掘教室」もこの第97次発掘調査現地を中心に、7月21日から24日までの4日間に34名の児童達の参加を得て賑やかに実施した。

さらに、本年3か所目の計画調査は斎宮字鍛冶山で約1,150㎡を対象に平成4年9月28日から第98次調査として実施した。史跡東部では従来から方格地割の存することが知られており、今回の調査区はその中央部付近に相当し、これまでの調査によって同一区画内には夥しい量の土器が出土し、祭祀を想定させる土坑群の所在や方格地割に沿った構列、大型掘立柱建物群等



が検出されている。調査の結果、欄列がより詳細に把握され、大型掘立柱建物の一部が明らかになる等、一時期の斎宮に於ける中樞部を想起させる多大の成果を得ることができた。その調査結果については平成5年1月27日の指導委員会で現地指導を受け、1月24日には現地説明会を開催し、斎宮跡でもこれまでにない400名にも及ぶ熱心な参加者を得た。なお、調査は当初の予定から大幅に遅れ、平成5年3月4日ようやく全ての作業を完了することができた。

その他、管理団体である明和町が事業主体となる、史跡現状変更に伴う事前発掘調査を6件実施した。その概要は別途明和町から刊行されるが、ここでも多大の成果を得ている。

その一つは個人住宅新築に伴う第96-4次調査である。調査面積は130㎡と狭く、既に深く削平を受けており、わずかに10か所の大型柱穴を検出したに過ぎない。遺物の出土もほとんど無いが、大型掘立柱建物3棟が規格的に配されているものと考えられ、第96次調査の成果とともに、当該地域が一時期の斎宮に於ける中樞部であることを傍証する成果である。

さらに、第96-5次調査では、これまで22年に及ぶ斎宮跡の発掘調査の中でも初めての発見である八脚門を検出した。わずか230㎡の調査面積であるが、門とこれに取りつく欄列の一部及び区画内に配された掘立柱建物1棟を検出したもので、方格地割の広がりや斎宮跡の南限を画するうえで極めて重要な成果を得た調査である。

以上のように平成4年度の調査は貴重な成果の連続で、とりわけ年度末に集中したことから現場での対応は、ようやく平成5年3月30日をもってその全てを完了した。(吉水康夫)

調査次数	地区名	調査面積㎡	調査期間	地籍・地番	所有者	備考	区分
95	6ADN	1,280	H.4.4.8~H.4.7.31	明和町斎宮字内山3045-18 他	山本 泰 他	計画発掘調査	1
96-1	6AGM	320	H.4.5.28~H.4.6.10	明和町斎宮字東加座2374	丸山 源左右	盛土工事	2
96-2	6ADO	70	H.4.11.24~H.4.12.3	明和町斎宮字内山3068-3 他	明 和 町	道路拡張	3
96-3	6ACA-D	120	H.4.12.12~H.5.1.11	明和町斎宮字古里3290	清水 五 郎	住宅の新築	3
96-4	6AFN	130	H.5.2.10~H.5.3.10	明和町斎宮字中西2749-1	本 山 尚	住宅の新築	3
96-5	6ADR-T	230	H.5.2.15~H.5.3.30	明和町斎宮字木葉山128-3	加藤 すみ子	住宅の新築	3
96-6	6ADD-D	25	H.5.3.5~H.5.3.18	明和町斎宮字篠林3138-1	藤 井 友 二	住宅の新築	3
97	6AEM	630	H.4.7.7~H.4.9.25	明和町竹川字中里内482 他	明 和 町 他	計画発掘調査	1・3
98	6AFM-C-E	1,150	H.4.9.28~H.5.3.4	明和町斎宮字鞍治山2745 他	七 林 晃 作	計画発掘調査	2

第1表 平成4年度発掘調査地区一覧

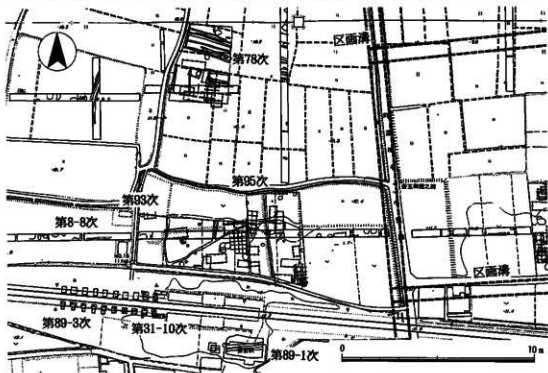
## II. 第95次調査

6ADN (内山地区)

### 1. はじめに

平成4年度第1回目の計画調査は、近鉄斎宮駅のすぐ北側で、昨年度の第93次調査のすぐ東隣の約1,280㎡を対象に実施した。今次調査は、従来調査例が少なく、遺構の分布等の詳細な実態が解明されることの少なかった当地域を、数年次にかけて重点的に調査し、将来予想される駅北側の史跡環境整備のための情報を得ると共に、これまでに確認されてきている史跡東部の方格地割の西側一帯の状況を明らかにする事を主たる目的としている。

かねて可能性が指摘されている、現在合計20ブロック確認されている方格地割の西へのさらなる広がり、第93次調査などの周辺の調査では確認されていない。これまでに第93次調査で見つかったSB0241やSB0242などの平安時代初期に遡るとみられる掘立柱建物は方格地割に合うE4°Nの軸線に沿っているが、逆に今回の調査地の北方の水田面で実施された第78次調査(昭和63年度)では、史跡を斜めに横断する奈良時代の古道の側溝とみられるSD5266に建物方向を描いた平安時代前期の掘立柱建物も検出され、明らかに方格地割に規制されたと思われる遺構は発見されていない。この他周辺では、史跡範囲確認のための第8-8次調査のMト



第2図 調査区位置図 (1:2,000)

レンチが当地に及んでおり、近鉄斎宮駅の改修に伴う第31-10次（昭和55年度）や第89-1次、第89-2次調査などが実施されているが遺構の良好な遺存は確認されていない。史跡中央部一帯の遺構の状況はまだまだ不明な点が多いと言える。

今回の調査地は、現況が畑地で、北の水田面に向かってゆるやかに傾斜しており、黄灰色の耕土と黄色～黒褐色の遺物包含層の下部で検出した明黄褐色を基調とする粘質土を遺構面（地山）として捉えている。遺構面の標高は、調査区北端で約9.4m、南端で約10.3mである。なお、調査区の中央部からおおむね北東に向かって大きく地山面が落ち込んでおり、遺構もかなり削平されているものとみられる。

調査は平成4年4月8日から7月31日にかけて実施され、奈良時代から鎌倉時代の遺構・遺物が見つかり、わけても10～13世紀とみられる時期の比較的良好的な遺物が多数出土している。遺構では奈良時代のものと考えられる竪穴住居1棟、平安時代の掘立柱建物14棟、平安時代後半～鎌倉時代の溝9条、土竈17基等の他、平安時代の墓、不明遺構、生垣状遺構が見つかった。

## 2. 遺 構

### (1) 奈良時代後期の遺構

調査区の西端で竪穴住居S B6640が見つかった。カマド等の付属施設は不明である。西隣の第93次調査ではS B6640の約3m南東に奈良時代後期の竪穴住居S B6553が見つかってお

		遺 構 の 種 類					
		S B	S K	S E	S X	S D	S A
奈良時代後期		6640					
平 安 時 代	初 期	6660	6655				
	前I期	6649 6663	6656				6646
	前II期	6670 6679	6644 0246	6636			6645
	中 期				6666		
	後II期	6642 6650	6651 6657			6671 0244	
	末 期	6637 6643 6648 6675 6676 6677 6678	6641 6647 6654 6658 6659 6661 6662 6665 6667 6668 0245		6635	6669 6672 6673	6674
鎌倉時代前葉					6652	6638 6639 0243	
時 期 不 明			6653 6664				

第2表 時期別遺構分類表



第3圖 遺構実測圖 (1 : 200)



り、一辺が3m～4mとほぼ同規模である。土師器皿・須恵器甕が出土しており、奈良時代後期に属するとみられる。

## (2) 平安時代初期の遺構

掘立柱建物1棟、土坑1基がある。調査区の南東に単独で見つかった2間×2間の南北棟の掘立柱建物SB6660は、北東隅の柱穴のみがややずれた位置にあるが、柱間約1.8m等間の身舎に南側に1間分の庇がつくものとみられ、史跡東部の方格地割と軸線を揃える。また、この柱掘形埋土中からは縄文時代の石鏃と灰釉陶器広口壺が出土している。調査区北端で見つかった土坑SK6655は、長径70cmの小規模なもので、土師器壺片が出土している。

## (3) 平安時代前I期の遺構

掘立柱建物2棟、土坑1基、楯列1条がある。

調査区のほぼ中央に位置するSB6649は、柱間寸法が桁行で約2.8m、梁行で約2.3mの4間×2間の南北棟で、5間×2間の東西棟SB6663は、地形の落ち込みのため西辺と北辺の柱穴が欠落している。柱間寸法は約2.0mで、土師器片が出土しているが、SB6663の方が若干時期的に下がるものと見られる。

調査区北端のSA6646は、東西方向で5間分見つかっており、柱穴の径は40cm弱である。柱間寸法は約2.1mでさらに北へ広がる5間×2間の掘立柱建物の可能性もある。

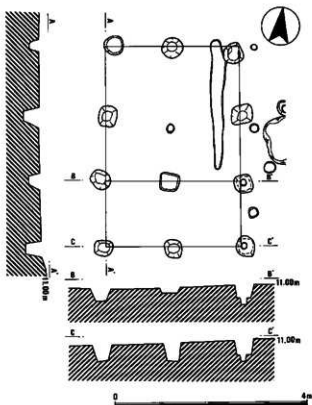
土坑SK6656は長径2.2mの楕円形土坑で、土師器皿・壺片が出土している。

## (4) 平安時代前II期の遺構

掘立柱建物2棟、土坑2基、井戸1基の他、生垣状遺構1列がある。

調査区南端で見つかったSB6670は、4間×2間の東西棟で、位置的に前I期のSB6663と棟方向を揃え、この建て替えの可能性がある。また、調査区東南端のSB6679は柱掘形の一辺が約50cmの総柱建物とみられるものだが、全体の規模は不明である。

SK6644は、直径1.4m、深さ1.6mの土坑で、遺物は僅少である。調査区東端のSK0246は



第4図 SB6660 遺構実測図(1:80)

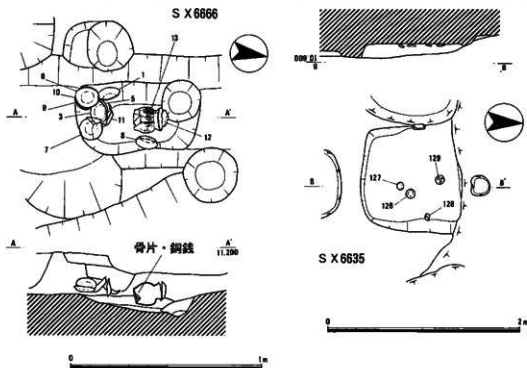
第8-8次調査で掘削されており、土師器片が出土している。

井戸SE6636は、調査区の西北隅で検出された。直径約1.8m以上あると見られるが半分以上が調査区外に出るため、深さ約1.5mで掘削を中止した。

今回新たに発見した生垣状遺構SA6645は平安時代後Ⅱ期に埋没したと見られるSD0244や平安時代末期のSK6641に明らかに重複されており、また主体となる茶褐色の埋土のピットから出土した土器類から、少なくとも平安時代前Ⅱ期以前には遡るものとみられる。SD0244とN4°Wと方向を描えており、この溝と同様史跡東部の方格地割との関連する性格の区画施設と考えられる。

### (5) 平安時代中期の遺構

調査区中央部で見つかったSX6666は、平安時代末期の溝SD0244を掘削する過程で検出され、遺構上面は明確にできなかったが、約1.5m×1.0mの土域内に骨片と銅銭を納めた土師器壺を、同じく土師器杯で蓋をしたものが横倒しになっており、その周辺にはほぼ同形の土師器杯が11個ほど置かれていたとみられる。壺は肩部に6.5cm×4.0cmの焼成後穿孔がある。銅銭は21枚まで確認されたが、腐蝕が著しく、うち4枚程がかろうじて「延喜通寶」と判読できる。残りの内2枚がやや大振りなのを除きほぼ同一のサイズで、大多数がこの「延喜通寶」であるとされる。斎宮跡で初の皇朝銭の出土であり、木簡の出土例のない斎宮にあっては、10世紀



第5図 SX6666, SX6635 遺構実測図 (1:20, 1:40)

前葉の土器の実年代を示す貴重な資料である。

#### (6) 平安時代後Ⅱ期の遺構

掘立柱建物2棟、土塚2基、溝2条がある。

調査区西端のS B 6642は、3間×2間の東西棟で、一辺約40cmの方形の柱掘形を持ち、径約15cmの柱痕跡がある。調査区中央のS B 6650は2間×2間の規模で、柱穴の径が約30cmの小規模な建物で、小屋掛け程度のものが想定される。

土塚はS K 6651とS K 6657がある。前者からは土師器・ロクロ土師器類が、後者からは灰釉陶器写しの台付椀を始めとしたロクロ土師器類・土師器類・須恵器類や直径約7cmの軽石が出土している。

溝には、S D 6671とS D 0244とがある。重複関係ではS D 6671の方が先行する。S D 6671は幅約60cmの溝で、溝底は北に向かって傾斜しており、S D 6638まで続く。最深部で遺構面から約25cmまで掘り込まれている。土師器杯・壺、須恵器片、灰釉陶器片や土錘が出土している。東接するS D 0244は調査区を南北に縦断しており、北に向かって傾斜するが、遺構の掘り込みは南部の方が深い。溝断面の形状は逆台形で、特に調査区の南半ではオリーブ黒色埴土の上層とそれに黄色土ブロックが混在する下層に明確に分離される。両者にふくまれる土器類には形式差は認められないが、溝底部の形状が侵食されずよく残っており、また下層に地山の黄色土が多量に含まれている点から、S D 0244は掘削後短期間で埋没した様子が窺われる。遺物は土師器皿・高杯、ロクロ土師器杯・小皿・台付椀や瀬戸古窯址編年のⅠ-2～Ⅱ-3形式とみられる山茶碗・山皿、百代寺窯式期の灰釉陶器碗、越州窯系青磁碗、須恵器片、土錘など多量の遺物が出土している。後Ⅱ期でも末葉に位置付けられるとみられる。

#### (7) 平安時代末期の遺構

掘立柱建物は7棟、土塚11基、土塚墓1基、溝3条、櫛列1条が見つかっている。

竪柱建物S B 6637は5間×2間の規模が想定される南北棟で、N 4° Eの棟方向を取り、柱穴はおおむね径50cmほどである。第93次調査で確認されているS B 6657も全く同規模のものとみられ、並立して建てられていたものと考えられる。調査区西南端のS B 6643は3間×2間の身舎に1間分の北面庇がつくもので、E 7° Nの棟方向を取る。調査区中央の5間×2間の南北棟S B 6648は径20cm～30cmの小規模な柱穴を持つ。瀬戸窯Ⅱ-3形式の山茶碗が出土しており、12世紀でも前葉のものと考えられる。S B 6675・6676・6677・6678は調査区東南部に密集して検出された掘立柱建物で、いずれも柱穴の径は約30cm前後と小規模なものばかりである。すべて調査区外まで広がっているものとみられ、詳細な内容は今後の調査の成果を待ちたい。土師器やロクロ土師器の小片などが出土しており、12世紀中葉以後に集中して建て替えられたものと考えられる。



土坑 S K 6641は長径約1.9mの楕円形土坑で、ロクロ土師器や土師器の小片を多量に包含する。S K 6647からは山茶碗を忠実に模倣したロクロ土師器碗(146)が出土している。調査区北東部の S K 6654・S K 6658はいずれもやや不整の円形で、前者からは12世紀前半、後者からは12世紀後半のロクロ土師器・土師器類が多量に出土した。また、S K 6654からは京都系「て」の字口縁の土師器小皿が出土している。調査区東南部に分布する S K 6659・6661・6662・6665・0245は12世紀後半のもので、ロクロ土師器類・土師器類が出土している。

調査区北端では土坑墓 S X 6635があるが、これは一辺約1.5mの方形の土坑に土師器の小皿4枚が置かれていたものである。

溝 S D 6669は断面が浅い舟底状になる溝で、土師器片・ロクロ土師器片・山茶碗片などがみられ、12世紀中葉に位置付けられ、東接する掘立柱建物群と関連が深いものとみられる。S D 6672・6673は重複関係は明らかにできなかったが、いずれも断面U字状で、12世紀の後半のものと思われる。S B 6677より後出する。

### (8) 鎌倉時代前葉の遺構

13世紀前葉のものと思われる溝3条がある。S D 6638は調査区を東西にやや蛇行しながら横断する。断面は浅い舟底状を呈し、溝底の高低差は少ないが、ゆるやかに西に傾斜しているようである。S D 0243は調査区の西端にかかり、北に向かって傾斜する南北溝で、第93次調査でも確認されている。断面は弱いV字状で、埋土中程に多量の円礫が投棄された様子が窺われる。遺物では土師器片が出土している。S D 6639はS D 0243から派生して北東に流れ、S D 6638につながる。これらの合流部分に第8-8次調査区が重なるが、埋土からみるとS D 0243はS D 6639より後出のものである。

次に13世紀中葉までの遺構とみられるものにS X 6652がある。今次調査区の中央から北東に向けて、段差をもって地山面が落ち込んでいるが、この埋土を掘削する段階で、掘形は確認されなかったが、意図的に埋められたとみられる土師器皿・小皿が約50cm×30cmの範囲に一括集中して検出された。一部細片になっているが、ほぼ同一形式のものが土師器皿で20枚以上、土師器小皿で40枚以上出土している。

## 3. 遺物

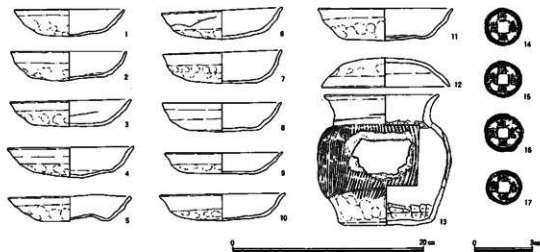
今回の調査では、10世紀～13世紀のものを中心に整理箱で約55箱の遺物が出土している。この中で主だった土器類について順に概述してみたい。

平安時代中期の遺物として、S X 6666から一括して出土した土師器が注目される。平底の土師器広口壺(13)は、黒色がかった堅緻な焼成で、従来の在地系土師器にはみられなかった形状である。外面に須恵器の叩き目を思わせる粗いタテハケが施され、第31-4次調査のS E 2000や第59次調査のS D 3890出土の須恵器甕(いずれも後I期)との関連が想起される。また、先

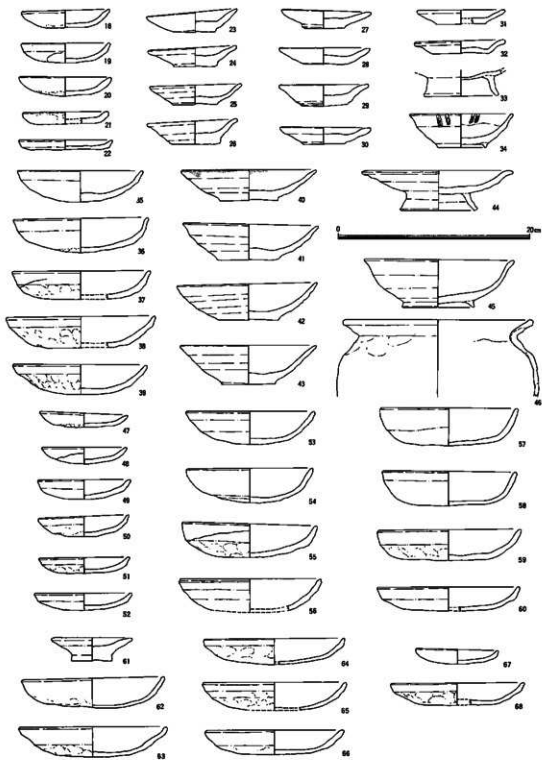
述したように肩部に焼成後に打ち欠いたとみられる穿孔があるが、同様の例を知らない。共伴する土師器杯は径12cm~14cmのもので、器壁は薄手で淡黄色を主体とする砂粒の少ない胎土を用いたものである。(13)の内部から出土した銅銭約21枚は腐蝕がすすみ、2枚を除き直径が1.9cm前後と小振りで、うち4枚が「延喜通寶」と判読され、大半が同種のものともみられる。「延喜通寶」は西暦907年に初鑄されており、従来平安時代中期に位置づけられてきた土師器類に10世紀の前葉~中葉の絶対年代を付与する好資料であるといえる。同時に出土した骨片については、小動物のものである可能性もあり、これらを墓出土とするかどうかはなお検討が必要である。

平安時代後Ⅱ期に位置づけたS D0244は出土土器は大型破片が多く、地山土を多量に含む埋土の状況からも掘削後短期間のうちに人為的に埋められたものとみられる。整理箱7箱の出土量で、土師器とロクロ土師器の割合が5:4ほどになる。(34)は2本の指ナデによる輪花表現を施した灰釉陶器で、百代寺窯式期のものとみられる。土師器では、丸い体部をもち、口縁部を幅1.5cmほどヨコナデし、器壁が厚手の皿A(35~37)と、これよりやや浅く、肥厚する口縁端部を強くヨコナデする皿B(38,39)、小皿では口径7cm~8cmの小皿A(18~20)と口縁部の立ち上がりのよわい浅い小皿B(21,22)がある。ロクロ土師器では、口径14cm~15cmで底部に疑高台風に立ち上がりがつく杯A(40~43)、小型杯では山皿模倣の小型杯A(23~31)とやや肥厚気味の口縁部が短く外反する器高の低い小型杯B(32)がある。少ないながら共伴する灰釉陶器から後Ⅱ期に相当するものとみられるが、土師器皿類の口縁部の肥厚化傾向から後Ⅱ期でも末葉、11世紀末に位置づけたい。

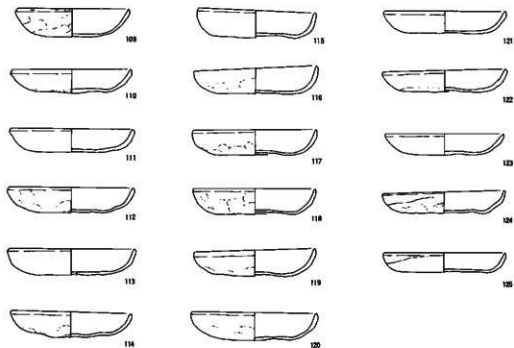
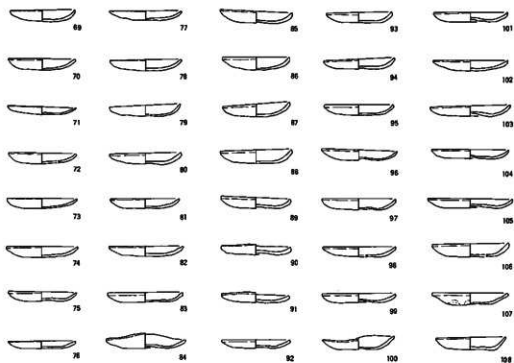
これに続くものとしてSK6658がある。土師器皿Aの体部の丸みが増し、皿Bも口縁端部の



第6図 出土遺物実測図 SX6666: 1~13(1:4), 14~17(1:2)



第7图 出土遺物実測図 SD0244: 18~44, SK6658: 45~68



第 8 圖 出土遺物実測圖 SX6652 : 69~125

肥厚が進み従来平安末期前半に位置づけられている第37-4次調査のS K 2480の形態に近づいている。S K 2480段階に併行するとみられるものにS K 6651、S K 6654、S K 6671がある。土師器皿Bの口縁部肥厚は進み、ロクロ土師器では杯Aのロクロナデ調整がやや粗雑になり、小型杯Aは器高を減じて平べったくなる。S K 6654からは京都系「て」の字口縁の土師器皿(139)も出土しており、周辺遺跡では松阪市曲遺跡でも同様のタイプのもので出土している。平安京の土師器皿編年でも、12世紀前葉の段階でこのタイプの口縁部の屈曲が退化していく事が指摘されており、S K 6654の位置付けとも大きく齟齬をきたさないとと思われる。

平安時代末期中葉の基準資料である第50次調査のS D 3052併行のものとしてはS X 6635出土の土師器小皿が考えられる。S D 3052は瀬戸窯編年でⅡ形式5段階とされる山茶碗と共伴し、12世紀中頃に比定されている。

今回図示はしていないが、これに続くとみられるものにS K 6662やS K 6665の資料がある。土師器杯の低平化が進み、口縁端部のヨコナデ調整が弱くなる。山茶碗類は共伴していないが、S D 3052併行の資料と、後述するS X 2990併行資料の中間的な形態を示すものと考えられる。

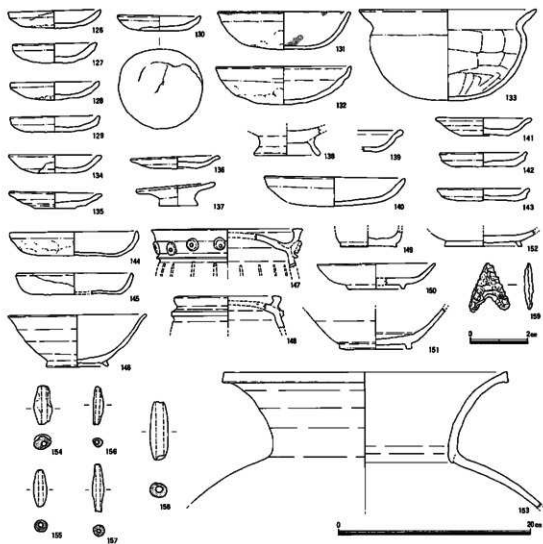
多量の皿類が集中して出土したS X 6652やS K 6661のタイプの土師器は、瀬戸窯編年でⅢ-6形式の山茶碗を伴い、13世紀前葉に比定されている、直径12cm~13cmの皿A(109~125)と、直径7cm~9cmの小皿A(69~107)がある。同じ瀬戸山茶碗Ⅲ-6形式段階でも、皿Aの直径が14cm程になる第49次のS X 2990よりも新相のものとみられる。(108)は唯一のロクロ土師器で、器壁が2mm前後と薄く、淡黄色で砂粒の少ない胎土を持ち、橙色系の他の土師器とは差異がある。これまで斎宮跡の調査では、13世紀代のロクロ土師器は報告されていない。現在南勢地方では松阪市曲遺跡S D 1上層でⅡ-5形式の山茶碗を伴うロクロ土師器が報告されているが、それよりも期的的にやや後出のものであり、南勢地方でのロクロ土師器出土の最終段階の資料であろう。

この他注目されるものにS K 6647出土のロクロ土師器碗(146)がある。精良な胎土を用い、瀬戸窯Ⅱ-4~Ⅱ-5形式の山茶碗を忠実に模倣しており、第15次調査のS E 710などで11世紀初頭には現れる灰胎陶器模倣のロクロ土師器碗の系譜上にあるものである。須恵器円面碗は2個体分出土している。(147)は縁部外周に竹管文の装飾を施した円形浮文が貼付され、脚台部には幅3mm程の細長い透かしを入れる。こうした装飾は岡山県美作国府跡などで出土例がある。

緑釉陶器は細片で約90点出土している。(149)は唾壺の底部で、猿投産のものとみられる。

(150、151)は青磁で、ともに越州窯系のものである。

(159)は縄文時代のもものとみられるサヌカイト製の石鏃で、S B 6660柱掘形埋土から出土しているが、斎宮以前の当地域での人間活動を示す資料である。

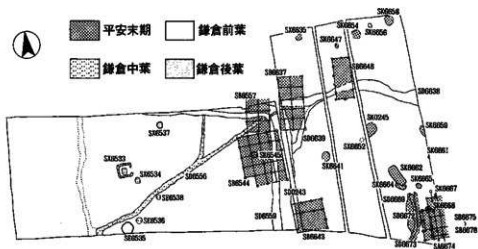
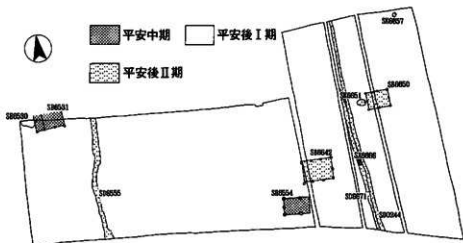


第9図 出土遺物実測 SX0635: 126~129, SD0671: 130~133, 157, 158, SK0661: 134~138,  
SK0654: 139~143, SK0681: 144, 146, SK0647: 148, SD0244: 154~156,  
SB6660: 153, 158. その他の出土遺物: 147~152 (159のみ1:1)

#### 4. まとめ

昨年度第93次調査に続いて近鉄斎宮駅裏で実施された第95次調査だったが、特に平安時代後半～鎌倉時代の遺構が多く発見され、また10世紀～13世紀の斎宮の土師器編年を考える上で有益な知見を得ることができた。

遺構の上では、平安時代初期のSB6660がN4°Wの棟方向をとる他、平安時代前II期以前に遡るとみられる生垣状遺構SA6645および、これを踏襲したとみられる南北方向の区画溝SD6671・SD0244がやはり史跡東部の方格地割に方向を描いている。西に接する第93次調査



第10図 第93次、第95次調査区 遺構変遷図 (1:800)

のS B 0241・S B 0242やL字形の生垣状遺構などもこの方向に沿っており、これらの点からも、区画の上では11世紀代、建物配置の上でも9世紀前半までは当調査区一帯まで方格地割の規制が生きていたと考えられる。特にS A 6645やS D 0241などは現在町道坂本・牛業線にはほぼ重複し、第8-8次調査MトレンチのS D 0254を西側側溝とする方格地割の区画道路の約60m西に並行している。これは、方格地割を構成する方形区画の一辺約120mの半分の長さであり、方格地割と無関係ではない事を窺わせる。また、今年度に第95次調査区の南南西で実施された第95-5次調査で、八脚門と櫓列による方形区画の存在が確認されており、これともあわせ考えると、外周道路やその側溝または周濠などといったものは現在確認されていないものの、方格地割がさらに2ブロック分ほど西に広がる可能性が高くなってきたと言える。

この他、調査区の東南隅から平安時代末期を中心に多数の掘立柱建物と見られる柱穴がみられるが、集中した建て替えの状況は窺われるものの、柱穴の規模の小さい点などから屋敷的な別の機能を考慮する必要がある。また、この段階のものとみられる総柱建物S B 6637や第93次調査でのS B 6544やS B 6557なども同様な性格をもつのではないだろうか。

遺物の上では、S X 6666出土の一括土器が平安時代中期の土師器編年を考える上で、貴重な資料を提供したと言えるが、遺構そのものの性格は、銅銭等を納めて蓋をした土師器壺の肩部に穿孔を施すという、周辺地域でも他に例を見ないもので、これを墳墓とみるかどうかは慎重な検討が必要とみられる。これが墓とみられるならば、10世紀においても当地域の斎宮寮に対する位置づけを考える上で大きな問題となるだろう。

(大川勝宏)

#### 〈参考文献〉

- ・横田洋三 「出土土師器編年試案」『平安京跡研究調査報告』第5輯 平安京左京五条三坊十五町 財団法人古代学協会 1981
- ・伊野近富 「かわらけ考」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987
- ・伊藤裕博 「中世前期における伊勢の土師器皿について」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念考古学論叢』 1993
- ・「斎宮跡の土師器」『史跡斎宮跡発掘調査概報』三重県教育委員会・三重県斎宮跡調査事務所 1984
- ・藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ・「(2)平安時代末葉における土師器の様相」『史跡斎宮跡第37-4次発掘調査報告』明和町・三重県斎宮跡調査事務所 1985



### Ⅲ. 第97次調査

6ABG・6ABI-A, B (古里・中垣内地区)

#### 1. はじめに

古里地区や中垣内地区では、第2～7次調査(古里遺跡A～E地区)や博物館建設に先立つ第68次調査などで奈良時代のSD4500とそれに続くとみられる溝、史跡北辺を大きくカーブを描いて巡る鎌倉時代の大溝が見つかってきており、現在山林となっている旧竹神社・小倉神社跡地の北部で重複・並走して蔵川段丘崖に続くと思われている。

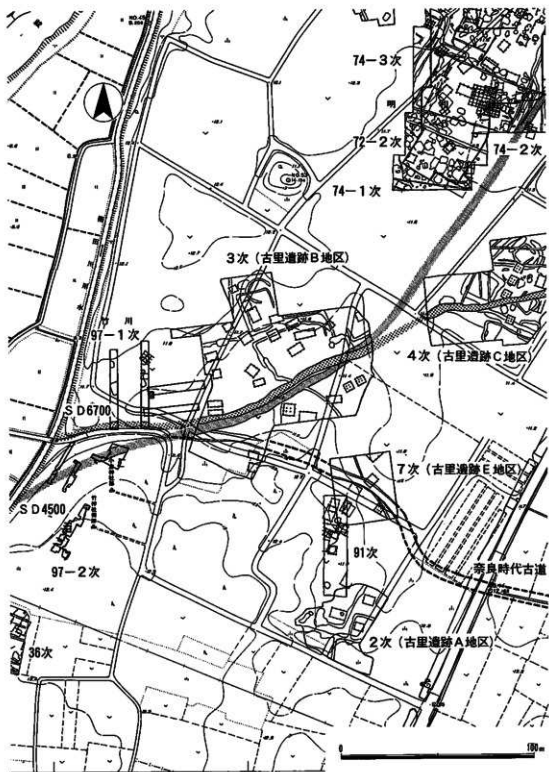
また、昨年度実施した第91次調査では、第49次、第50次、第78次、第88次調査や、県道南藤原・竹川線の道路拡幅工事に先立つ事前調査などで史跡東部から直線的に延びる奈良時代の古道の側溝が調査区内を通らず、この古里地区南部で旧竹神社・小倉神社を北に迂回する形でカーブすることがわかってきている。

第97次調査は、このような状況にある両神社跡地内の性格と遺構の分布状況を明らかにするとともに、奈良・鎌倉時代の溝と奈良時代古道の側溝がどの位置を通過して蔵川の段丘崖に続くのかを明らかにすることを目的として、平成4年7月8日から9月25日にかけて実施した。

調査地区は、古里地区に含まれる地点に第97-1次として2ヶ所(A区、B区)、その南側の中垣内地区に含まれる竹神社・小倉神社跡地内に第97-2次として4ヶ所(C区～F区)のトレンチを設定した。

		遺 構 の 種 類									
		S	B	S	K	S	D	S	X	S	E
弥生時代				6	7	1	2				
飛鳥時代		6	7	0	6						
奈良時代		6	6	6	6	6	6	4	5	6	7
		6	6	6	6	6	6	6	7	0	4
		6	7	0	9	6	7	1	0	6	7
平安時代	前Ⅱ			6	7	1	5				
	末期							6	7	0	
鎌倉時代	前期			6	6	8	9	6	6	9	1
	中期			6	6	9	2	6	6	9	7
室町時代								6	6	8	7
時期不明		6	7	0	1						

第3表 時期別遺構分類表



第11圖 調査区位置圖 (1 : 2,000)

## 2. 第97-1次調査 (A区, B区)

A区、B区は幅4m、長さがそれぞれ42m、46mのトレンチを設定した。それぞれの調査区は南に向かって傾斜しており、地山面での比高差は約1mある。また、調査区の北端部では地山面に通称斎宮台地の礫層が露出しており、その上面に網状細流の痕跡が見られた。

### (1) 奈良時代前期の遺構

竪穴住居4棟、掘立柱建物1棟、土坑1基がある。

S B 6686は一辺6.6mほどの大型の竪穴住居だが柱穴は確認できなかった。土師器甕片、高蔵寺2号窯式期のものとみられる須恵器の無台杯が出土したが遺物量は少ない。S B 6690は鎌倉時代の土坑に大半が削り落とされているが、一辺3m程度の小規模な竪穴住居とみられる。東壁の南端からカマドの残骸とみられる焼土や土師器長胴甕の破片が集中して出土した。他に土師器皿が出土している。S B 6693は一辺が2.6m程の極めて小規模な竪穴住居で、北壁東端からカマド跡とみられる焼土が検出された。柱穴は明確ではなく、土師器皿・甕片、須恵器の無台杯などが出土している。S B 6694は一辺約3.0mの竪穴住居で、最も遺構の形状が残っている。遺構の中央に直径30cm強で、深さが床面から50cmほどの支柱穴が1つある。北壁やや東寄りからカマド跡とみられる焼土塊が検出された。遺物は床面やや上部に廃棄された形で散在しており、土師器甕類、皿、在地系の土師器碗が出土している。今回見つかった竪穴住居のうちS B 6686は、他の3棟が一辺3m前後の小型のものであるのに対して非常に大型である。遺構埋土も他が灰色系のものに対して茶褐色系とやや様相が異なり、遺構の存続時期や性格について同一には考えるべきではないだろう。

B区のS B 6688は、柱掘形の一辺が約90cm、柱間寸法が1.6mと2.2mを測る総柱建物で、2間×2間分が検出されたが、棟方向が真北に対して大きく傾いているために、正確な規模や棟方向は不明である。

土坑S K 6685はA区の北部で見つかった不整形のもので、岩崎41号窯式期～高蔵寺2号窯式期にかけての須恵器杯・壺類や土師器杯・甕・壺・皿などが出土している。第97-1次調査区内では比較的遺物の出土量は多い。

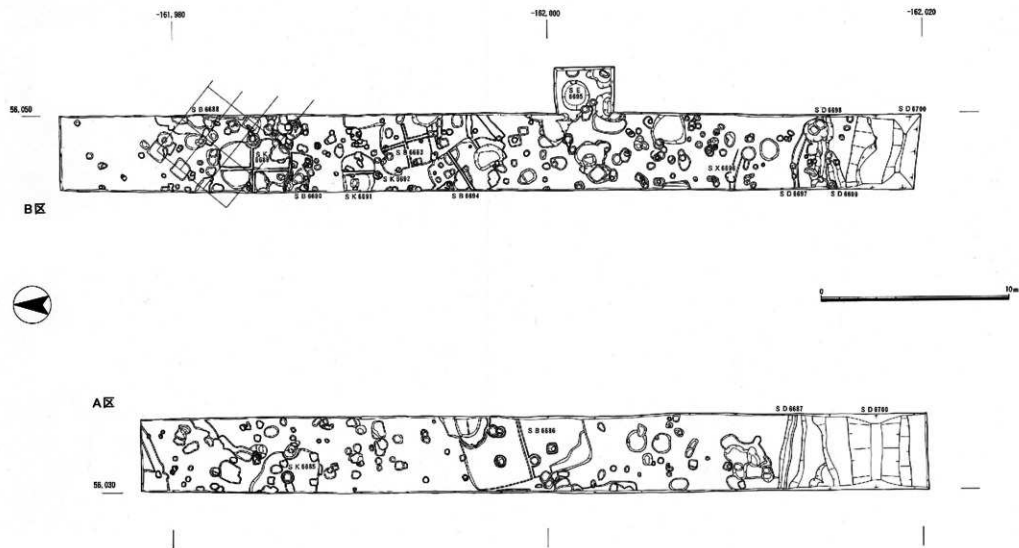
### (2) 平安時代末期～鎌倉時代の遺構

土坑3基、溝3条がある。

S K 6689はS B 6690に重複する長径4mほどの楕円形土坑、S K 6691は短径1.8mの楕円形土坑で、いずれも地山面の礫層まで掘削しており、土師器鍋片や山茶碗が出土している。13世紀前葉のものと見られる。S K 6692はS B 6693に重複する長径1.3mの小土坑で、土師器皿13枚、土師器鍋1個が埋納されていた。14世紀前葉のものであろう。

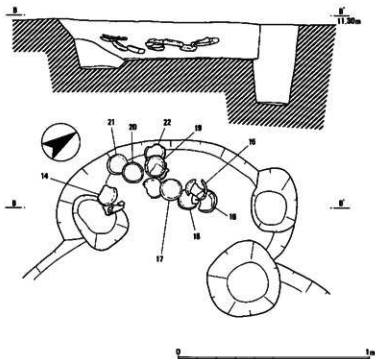
A区、B区の南端にまたがって発掘されたS D 6700は、史跡の北辺都を巡る鎌倉時代の大溝

97-1次

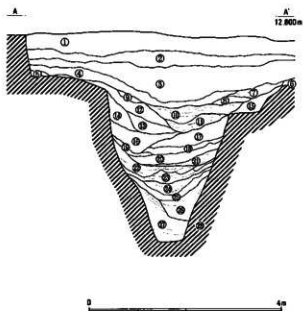


第12図 第97-1次調査 遺構実測図 (1:200)





第13図 SK6692 遺構実測図 (1:20)



第14図 SD6700 土層断面 (B区西壁 1:80)

- ① 小円錐を含む灰褐色土 S15/1
- ② 小円錐を含む灰褐色土 S11/4
- ③ 砂質・シルト質のオリブ風色礫土 S13/1
- ④ 黄褐色土を含む淡色砂質土 S11/3
- ⑤ 土器片を含むオリブ風色礫質土 T. S11/3
- ⑥ わずかに黄褐色土ブロックを含む風色礫土 S12/1
- ⑦ 小円錐を含むオリブ褐色砂質土 2. S14/3
- ⑧ 小円錐を多量に含むオリブ褐色砂質土 2. S14/4
- ⑨ 5~10cmの円錐を多量に含むオリブ褐色砂質土 2. S14/4
- ⑩ 5~10cmの円錐を多量に含むオリブ褐色砂質土 2. S14/2
- ⑪ 黄褐色土ブロックと2~3cmの小錐を多量に含む等灰褐色砂質土 1. S12/4
- ⑫ 5cm前後の円錐を多量に含むオリブ風色砂質土 S13/2
- ⑬ 10cm前後の円錐を多量に含むオリブ風色砂質土 S13/2
- ⑭ 5~15cmの円錐を多量に含むオリブ風色砂質土 S12/2
- ⑮ 円錐を多量に含む明黄褐色砂質土 (堆山土) 2. S12/6 の間礫土
- ⑯ 10cm前後の円錐を含むオリブ色砂質礫土 S14/2
- ⑰ 小錐と黄褐色土を含む淡オリブ色砂質礫土 S14/2
- ⑱ 黄褐色土ブロックが多量に混入するオリブ風色礫質土 S12/1
- ⑲ 10cm前後の円錐を多量に含む風褐色土 10192/1
- ⑳ 風色の混入する風褐色土 10192/1
- ㉑ 小錐の混入する風褐色土 10192/1
- ㉒ 1~10cmの円錐を多量に含む風褐色砂質土 T. S192/2
- ㉓ 黄褐色土ブロックと小錐を多量に含む風褐色土 10192/1
- ㉔ 黄褐色土ブロックと小錐を多量に含む等灰褐色砂質礫土 2. S14/2
- ㉕ 砂質を含む風褐色土 T. S192/2
- ㉖ 5~10cmの円錐を含む暗オリブ色砂質土 S14/2
- ㉗ 5~10cmの円錐と堆山質土ブロックが多量に混入する風褐色砂質土 1. S12/1
- ㉘ 円錐を多量に含む明黄褐色砂質土 (堆山土) 2. S14/4

である。幅約3.4m、遺構面からの深さ約3.4mで、断面の形状は底部はやや平坦になるものの鋭いV字形に掘り込まれている。埋没の過程は概ね五段階に区分できる。遺物は第14図で示した埋土中層の⑫～⑰層と下層上部の⑱～㉔層に多いが、特に⑳、㉑層の部分から瀬戸窯編年でⅡ-3～4形式、渥美窯編年でⅡ期に位置づけられる多量の山茶碗と、12世紀後葉の土師器・ロクロ土師器が含まれており、これまで完掘されることがほとんどなかった所謂「鎌倉時代」大溝の掘削年代を12世紀中葉前後に遡らせて考え得る。

S D 6697、S D 6699は深さ6cm～10cm程の浅い溝で、少量の山茶碗片や土師器片が出土している。13世紀代のものとみられる。

### (3) 室町時代の遺構

土塚2基、井戸1基、不明遺構1基がある。

溝S D 6687、S D 6698はS D 6700の北側を通る東西溝で、両者は連続する可能性がある。幅50cm～60cm、深さ10cm～20cmで、土師器皿・鍋などの細片が出土している。

井戸S E 6695は、第3次調査(古里遺跡B地区)でも確認されている。今回も調査区間の位置関係を確認するためB地区を一部東に拡張して再検出した。直径約1.6mで、肩部に1段30cm前後の礫を並べているが、以下は素掘りで石組みはみられない。遺構面から約50cmの深さで掘削を中止した。

S X 6696は直径40cm強、深さ約35cmのピットで、内部に土師器鍋2個体を納める。これらはいずれも割れた状態で上下に埋没しており、この内上部に埋められた鍋には二枚貝の殻が入っていた。すべて左右殻が揃うようで、内訳はハマグリ4個体分、アサリ12個体分、シジミ1個体分である。土師器鍋は貝殻を納めた上から口縁部の破片で覆っている。遺構の性格は不明である。

## 3. 第97-2次調査(C区～F区)

旧竹神社・小倉神社の跡地内は現在区有林となっており、樹木を伐採することができないため、立木の間隙をぬって不整形な調査区を設定することとなった。ただし、調査区内に小地区を作るために、調査区は座標北に対して30°東に振った軸線を設定した。遺構検出面までは深く、最北のC区で約1.1m、最南のF区の南壁でも約1.1mの深さがある。

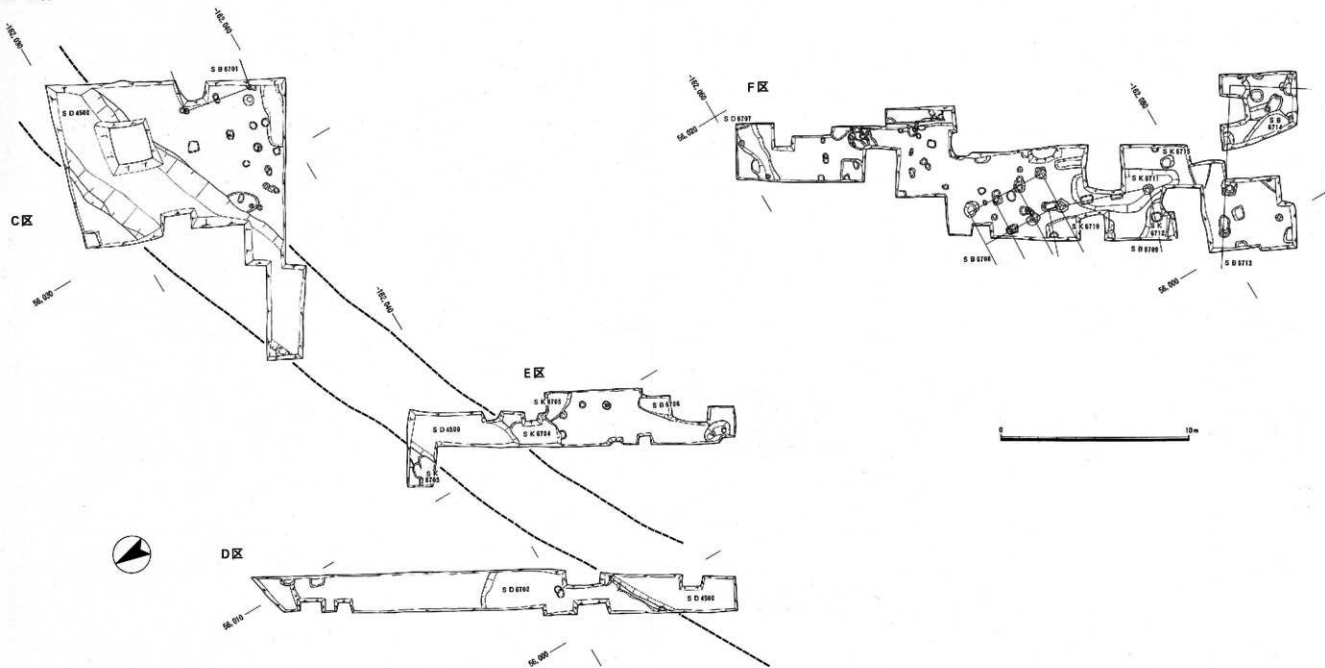
### (1) 弥生時代の遺構

F区の土塚S K 6712がある。深さ約20cmの不整形土塚で、弥生土器壺・甕の破片が出土している。また、F区の包含層からは弥生時代中期や後期の土器片も出土しており、周辺にはさらに遺構が分布しているものとみられる。

### (2) 飛鳥時代の遺構

E区の堅穴住居S B 6706がある。北辺部を検出したにとどまるが、推定で一辺3.5m程のも

97-2次



第15图 第97-2次調査 透視測量図 (1:200)





のと思われる。遺構面から約20cmの深さがある。遺物には須恵器平瓶(84)と土師器甕(85)が調査区東壁近くでかたまってお出しましたが、検出した床面の直上ではない。須恵器は岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。7世紀半ばに位置付けられよう。

### (3) 奈良時代前期の遺構

掘立柱建物2棟、土坑2基、溝2条がある。

掘立柱建物SB6709は一辺約50cmの方形の柱掘形を持ち、南北に3間分が確認された。柱穴から土師器杯・甕片が出土している。また、SB6713は柱間寸法が約2.5mで、東西方向で3間分、南北方向で1間分が想定される。土師器片、須恵器片が出土している。

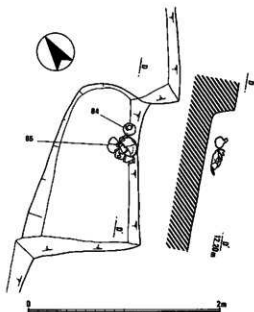
F区のSK6711は長径5.6m、深さ約30cmの長楕円形土坑で、SB6709より後出のものである。遺物は少なく土師器片が出土したのみである。

溝SD4500は古里地区北部の第68次調査で検出され、道路遺構の可能性も指摘されているSD4500の延長と考えられる。また、第4次調査(古里遺跡C地区)でSD50とされている溝とも同一のものと考えられる。今回の調査ではC区、D区、E区で確認された。D区とE区は調査範囲が狭いため遺構上面を確認するに止めたが、C区では底部まで完掘した。断面の形状はゆるやかなU字状で、幅約4.6m、深さ約1.8mである。埋土断面の地層から埋没の状況が4段階ほどに分けられるようだが、第17図の⑤層～⑩層で土師器甕類を中心に多量の遺物が出土した。須恵器では岩崎17号窯式期の杯甕などが出土している。D区のSD6702はSD4500に沿って掘削されたもので、最深部で遺構面から30cm強の深さで、底面の形状は平坦である。遺構の規模は明確ではなく、土坑になるものかもしれない。遺物では土師器杯・甕、岩崎17号窯式の前段階に相当するとみられる須恵器杯などが出土している。奈良時代前期でも古相のものとなしう。SD4500やSD6702は出土遺物からみても、掘削年代は7世紀代に遡らせて考えるべきかもしれない。

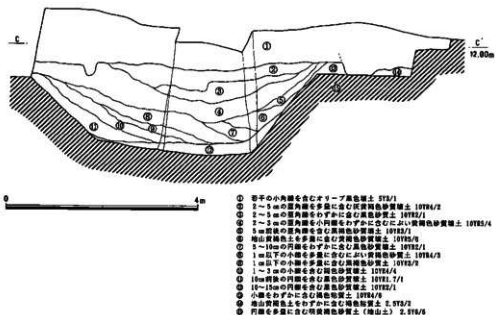
### (4) 奈良時代中期の遺構

竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土坑2基、溝1条がある。

建物跡はすべてF区からの検出で、竪穴住居SB6714は一辺約3.2mの竪穴住居で、遺構面



第16図 SB6706 遺構実測図(1:40)



第17図 SD4500 土層断面図 (C区西壁 1:80)

から約20cmの深さがある。遺物の出土量は少なく、土師器片などが出土したのみである。調査区の制約もあるが、SB6714からは柱穴を確認することができなかった。掘立柱建物としてはSB6708がある。柱間寸法が約2.0mと約1.5mの縦柱建物で南北3間分が検出されている。土師器片が出土しているが、奈良時代中期より若干下る可能性もある。

E区の土坑SK6704からは多量の遺物が出土している。土師器では杯・皿・甕・高杯・カマドなどや平城Ⅲ期の遺物に認められる上面の平らなつまみを持つ杯蓋が、須恵器では杯蓋・長頸瓶・甕や無台杯などが出土している。F区のSK6710は方形の土坑で北東角の部分が発掘された。推定で一辺約3.0mほどの規模と思われる。遺構面からの深さは20cm弱である。床面は明確でないが、堅穴住居の可能性もある。土師器碗・皿・甕・高杯の破片が出土している。

F区のSD6707からは遺物の出土が見られなかったが、他の奈良時代前期～中期の遺構と同様の暗茶褐色土の埋土を持ち、この時期に比定されるものと考えられる。

#### (5) 奈良時代後期の遺構

この段階には遺構の数は減少する。D区の土坑SK6703は不整形の小規模な土坑だが、土師器甕類を中心として多量の土器類が出土している。

#### (6) 平安時代前Ⅱ期の遺構

F区の土坑SK6715のみである。70cm×60cmの隅丸方形の土坑で、約30cmの深さがある。土師器杯・甕片や焼成の不十分な須恵器類の他、志摩式製埴土器が出土している。

#### (7) 時期不明の遺構

F区の掘立柱建物S B6701がある。柱間寸法は1.8mで、柱穴は直径約25cm、建て替えの可能性もある。遺物はまったく出土しなかったが、近世以降のものと考えられる。

#### 4. 遺物

遺物については第97-1次、第97-2次あわせて概説する。第97次調査全体では整理箱で55箱分の遺物が出土している。遺構同様に奈良時代と鎌倉時代の土器類が大半を占める。

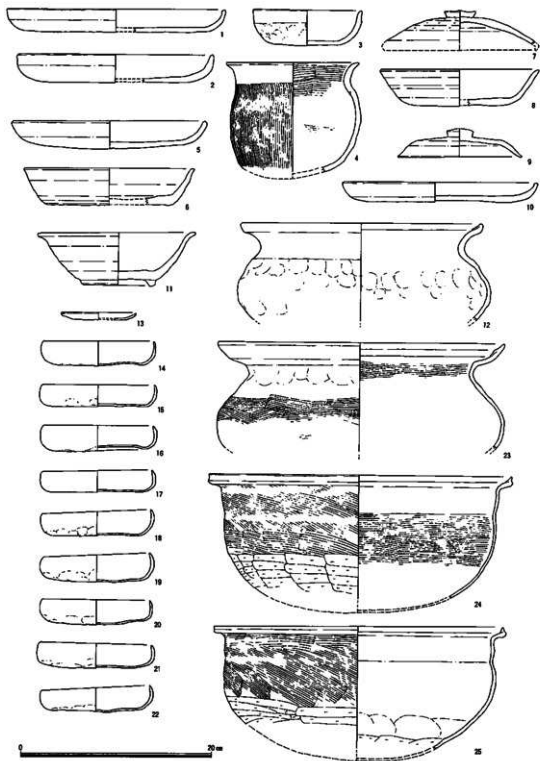
飛鳥時代の遺物として、S B6716出土の土器がある。(84)は岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。共伴の土師器甕(85)は、口径14.6cm、器高26.9cmのもので、この胴部最大径に対し口径が小さいタイプのもので大型である。これらは飛鳥・藤原京の土器編年で飛鳥Ⅱ期、7世紀の第2四半期に位置づけられるものと考ええる。

奈良時代前期では、まず第97-2次調査区のS D4500の⑤層～⑩層から、土師器甕類を中心とした土器が出土している。在地系土師器碗の(54)、(55)は口径が12cm程と小型で口縁部下を2cm程度ヨコナアしe手法による調整で、また甕類は口縁部の端部を外方につまみだすものが多く、胴部最大径に対して口径の小さい(57)～(59)や(62)など、奈良時代でも古い要素を残している。須恵器では、弱いかえりを持つ杯蓋(64)などがあり、岩崎17号窯式期に相当すると考えられる。S D6702からも口縁部のたちあがりがかろうじて残る須恵器の杯身(66)や横瓶(67)が出土しており、これらは7世紀の半ばから末葉のものが中心になると考えられる。これに後続するとみられるものとして、第97-1次調査区のS B6686から出土した内面に放射状暗文を施す土師器皿や、底部をへら切りする高蔵寺2号窯式期に相当するとみられる須恵器無台杯の小片などがある。S B6690からもb手法による土師器皿などがみられ、ほぼ同様の時期と考えられる。土塚ではS K6685から高蔵寺2号窯式期とみられる無台杯などが出土した。第97-2次調査区ではS B6693から高蔵寺2号窯式段階の須恵器杯がみられ、S B6694からも床面に散乱した状況で土師器類が出土している。これらは8世紀前葉のものと考えられよう。

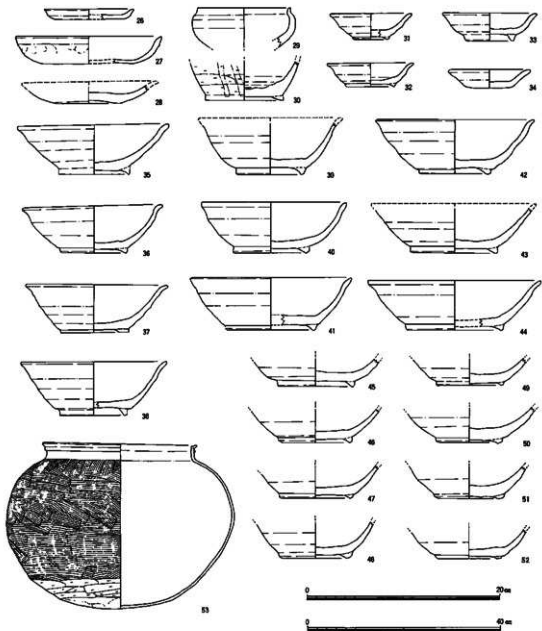
奈良時代中期では、第97-2次調査のS K6704やS K6710がある。在地系土師器碗は口径12cm前後で、口縁部を2cmほどの幅でヨコナアする。奈良時代中期でも古相のものと考ええる。土師器皿(83)などはb手法による調整がみられる。

奈良時代後期ではS K6703から奈良時代後期の土師器が出土している。在地系土師器碗は口径12cm～14cmで、皿と同様に口縁部を1cmほどの幅で狭くヨコナアするe手法によっている。共伴する土師器皿(70)もe手法による調整である。

平安時代の遺物として、前Ⅱ期に相当するS K6715の土器がある。土師器杯は口径13cm前後で、e手法によっている。この他口径13.8cmの製塩土器の大破片(89)や焼成が不十分な須恵器壺の底部が出土している。また、平安時代末期～鎌倉時代初頭ののものとして所謂「鎌倉大溝」

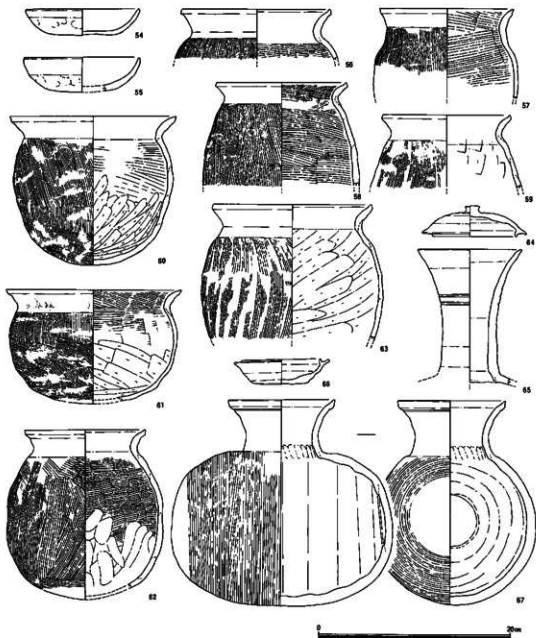


第18図 第97-1次調査 出土遺物実測図 SB0003: 1~4, SB0090: 5, SB0096: 6, SK0005: 7~10,  
SK0000: 11,12, SK0002: 13~23, SX0000: 24,25



第19図 第97-1次調査 出土遺物実測図 SD6700：26～52，包含層：53（1：8）

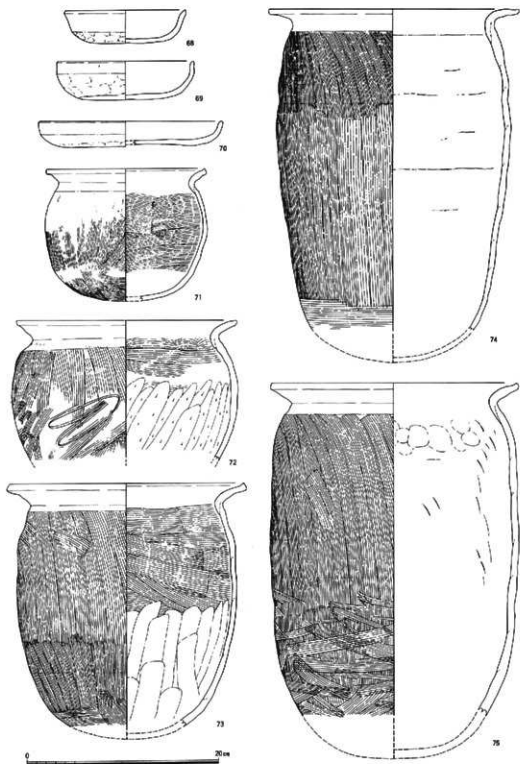
と呼称されてきたSD6700の遺物がある。埋土下層上部からは瀬戸窯の山茶碗編年でⅡ-3～4形式、瀬美窯の編年でⅡ期に位置づけられる山茶碗が多量に出土しており、共存する土師器やロクロ土師器の皿なども年代観の上で齟齬はないと思われる。また、中層以上からは瀬戸窯編年でⅢ-5～6形式の山茶碗が出土している点から、当調査区のSD6700は13世紀前半には



第20図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SD4500: 54~65, SD6702: 66.67

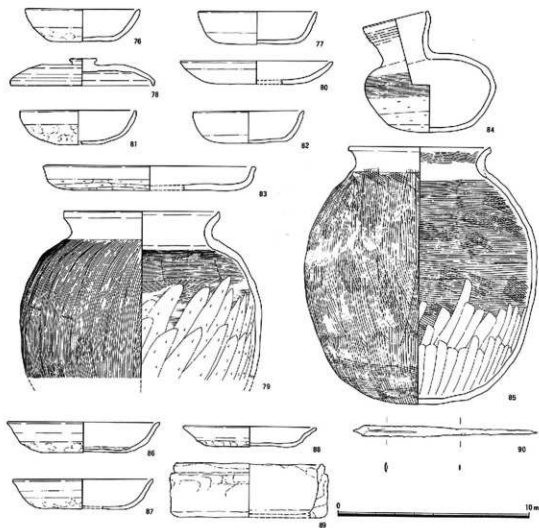
大半が埋没していたとみることができる。

鎌倉時代の遺物としては他にS K6689とS K6692出土の遺物がある。S K6689からは伊藤氏の編年で第1段階b型式の土師器鍋や渥美編年でⅡ段階の中葉とみられる山茶碗があり、13世紀前半のものである。13枚の土師器皿が出土したS K6692には伊藤氏編年で第3段階a型式の



第21図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SK 6703 : 68~75





第22図 第97-2次調査 出土遺物実測図 SK6704：76～79，SK6710：80～83，SB6706：84,85，SK6715：86～89，包含層：90

土師器鍋の破片が上面に混入しており、これらは概ね14世紀代に位置づけられる。

室町時代の遺物ではS X 6696の土師器鍋があるが、伊藤氏編年の第4段階の範疇に入る。15世紀後半以後のものと考えられる。また、包含層ながら大型の土師器鍋（53）がA区から出土している。口径31.4cm、器高35.0cmで、ほぼ完形に復元された。

特殊遺物としては、細片のみながら緑釉陶器が4片出土している点は、平安時代の遺構の乏しい当地域にあっては注意されるべきかもしれない。輸入陶磁ではA区、B区から同安窯系の青磁碗、玉縁口縁の白磁碗が出土している。また、包含層から青銅製の簪（90）が出土している。詳細は不明だが、近世のものであろうか。

## 5. まとめ

今回発掘した遺構でまず注目されるのは奈良時代の大溝 S D 4500 である。第 68 次調査では幅 3.5m、深さ 0.1m～0.2m で底部が平坦であり、また、第 3 次調査（古里遺跡 B 地区）で見つかった奈良時代大溝の北端も同様な形状をしているため、これらは同一溝とみられており、道路跡の可能性も指摘されている。これらの溝底部のレベルをみると、第 68 次で北から 10.35m～10.20m、今回調査の F 区内で約 9.7m で、南西に向かって傾斜してきていることがわかる。しかし、側溝などの施設は確認されておらず、また、第 3 次調査の南半や今回発掘された部分は北部とは異なり U 字形の断面を呈しており、底部の形状や埋土の状況から明らかな流水の痕跡が見いだせなかったものの、道路遺構とするには躊躇する結果となった。

また、この大溝に第 3 次調査区内でその側溝が合流するといわれる奈良時代の古道は、A 区・B 区で見つかった平安時代末期の S D 6700 の南を並走し、現在の農道とはほぼ重複するものと考えられる。

もう一つの大溝 S D 6700 は、これまでの調査で史跡北部の各地で確認されている所謂「鎌倉時代」大溝の西端にあたる。しかしながら従来溝底まで完全に掘削されて確認される例は少なく、その機能などの詳細な性格はいまだに不明な点が多い。しかしながら今回の調査で、溝の比較的底部から出土した土器類の編年観から、この大溝の掘削年代が 12 世紀中頃、平安時代末期に求める可能性が考えられるようになった。この時期の斎宮における大規模な土木工事としては、平信範の長承元年（1132）から承安元年（1171）までの日記である「兵範記」の紙背文書の「平行光申文」に記載がある。これは、久安六年（1150）以前に「斎宮寮溝造二十余町」を成功の対象として掘削させるべきところ「全以要人無」いため、内舎人の成功によりこれを請け負わせるという宣旨が出されたのを受けて、平行光なる人物がこれを掘削したので、内舎人の昇任を請う、という仁安三年（1168）の申文である。この溝造は 20 余町（約 2 km 以上）という大きな規模からも、この S D 6700 がこれに相当する可能性が高く、この史料からもこの溝造を掘削する理由や実際の掘削の規模などは窺えないが、発掘された遺構と文献史料が一致する可能性を持つ、斎宮では数少ない例と言えるだろう。この大溝の機能を考える材料はまだ多いとは言えないが、溝底部まで完掘された少ない調査例では、これまでに第 3 次調査（古里遺跡 B 地区）、第 4 次調査（古里遺跡 C 地区）、第 37-4 次調査、第 37-7 次調査、第 41 次調査などで全体あるいは部分的に完掘されている。溝底レベルをみてみると、東部の第 37-4 次で標高が 8.3m、史跡中央部の第 37-7 次と第 41 次でそれぞれ 8.6m、7.8m、第 97 次調査の A 区で 8.0m ほどになっており、全長 2 km 以上の遺構としては溝底の高低差は僅かであり、不規則でもある。取水の面からみても現在の戦川沖積平野の標高は、この S D 6700 の西端付近で 9.3m あるが、実際の水位はさらに下がるので、溝が大規模な割には効率は決してよいとはいえない。また、

今回のS D6700の底部は円礫を多量に含む砂質土である。これは斎宮台地を構成する基盤層として広範囲にみられるもので透水性は高く、この大溝が巡る地域全般に広がっている。この二点からこのS D6700は流水・滲水していた状況は考え難く、用水や運搬などの機能は認められない。次に考えられるのは区画溝としての性格だが、先の「平行光申文」でもこの溝を「斎宮寮四保内溝道」と呼んでおり、大きく史跡地内を囲むようにカーブする形状からも、むしろ当時伝統的に理解されてきていた斎宮寮のエリアを確定する施設として、この大溝が必要な状況があったと考えることができるのではなかろうか。なお、遺構の上では確認されていないが、この掘削に伴う排土の量を考えると、大溝の南北いずれにかは土塁状の高まりを作っていたものとみておきたい。こうした中世城郭にも匹敵するような大規模な区画溝を掘削する背景には当時の斎宮寮と伊勢神宮あるいは神領との関連という重要な問題が絡むとみられる。この点については、さらに多面的な検討を要する。今後の課題としたい。

次に飛鳥時代～奈良時代の建物跡についてみてみたい。第97次調査全体では5棟の竪穴住居と3棟の掘立柱建物が見つかっている。特に竪穴住居については5棟が一辺3m前後で、主柱穴も不明瞭である。古里・中垣内地区でこれまで確認されている竪穴住居をみるとこれまでに飛鳥時代のものが40棟、奈良時代のもので80棟余りの竪穴住居が調査されているが、飛鳥時代には長辺で4.0m～5.0mのものが約50%を占めるが、奈良時代になると3.0m～4.0mのものが55%を占めるようになり規模の縮小化が認められる。奈良時代には一辺3m余りの小規模な竪穴住居が散在していたことになる。また、掘立柱建物は、位置的な重複はあるものの、棟方向や規模に統一性はみられない。今回調査できなかった立木の部分にも遺構が分布するとみられるが、現在の段階では、奈良時代の個別の時期決定を詳細に検討していないため、集落の在り方の面でも、今後の問題提起をしておくにとどめたい。

(大川勝宏)

【参考文献】

- ・藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ・吉田早苗 「兵範記」紙背文書にみえる官職申文(中)『東京大学史料編纂所報』第24号 東京大学史料編纂所 1988

【平行光申文】

〔<sup>(1)</sup>〕六位上平朝臣行光誠惶誠恐謹言、  
 請被<sup>(2)</sup>殊蒙 天恩、因准先例、依堀造斎宮寮四保内溝道功、拜<sup>(3)</sup>内舍人關

〔<sup>(4)</sup>〕行光謹按案内、依成功任要官者、承前之例也、不違<sup>(5)</sup>願<sup>(6)</sup>、爰行光齡及強仕志在奉公、然問去久安六年十<sup>(7)</sup>〇日、被下 宣旨<sup>(8)</sup>、得斎宮寮溝道二十余町者、一代一度<sup>(9)</sup>榮爵二人之功所令堀也、而近代全以無要人、仍賜内舍<sup>(10)</sup>功、欲令致其勳矣者、依請被 宣下之時、勳隨分之<sup>(11)</sup>〇〇、終不日之功畢、爾降久彌送年序、空以瀟雨露、情考旧貫、神社成功拙實異他、何況於太神宮事乎、就中<sup>(12)</sup>其功程已是過分也、望請 天恩、因准先例、被拜任件<sup>(13)</sup>者、知成功之不空、行光誠惶誠恐謹言、

仁安三年八月八日正六位上平朝臣行光

## IV. 第98次調査

6AFM-C・E (鍛冶山地区)

### 1. はじめに

本年度最後の計画調査として実施した第98次調査は、史跡東部、通称中町裏の鍛冶山地区で竹神社東方約150m、近鉄山田線の北側にあたる。当地区には明治2年に全焼した寺跡（蓮光寺）が存在し、明治15年からは斎宮尋常小学校を設置した場所と伝承される。また、本調査地の中央付近には、第29次調査として南北方向に幅4mのトレンチ（6AFM-C・E・F・G）調査が実施されている。調査期間は平成4年9月28日から5年3月4日までで、東西約45m×南北約30mの範囲を対象に調査区を設定し、調査面積は1,150㎡である。

これまでの調査で史跡東部には釜蓋目状に区画された地割りとして、一辺約120mごとに幅約12mの区画道路が東西南北に整然と続き、東西5列、南北4列、合計20区画の存在が知られ、このような方格地割りは奈良時代後期から平安時代初期にかけて造営されたものと考えられている。しかしながらこの方格地割りの東から3列目の南北列の区画については道路の両側側溝から内々で一辺約130mとその他の区画とは規模が異なり中心の区画としての位置づけがなされてきたところでもある。さらに年度末の3月には史跡現状変更に伴う第96-5次調査で八脚門SB6850とそれに取り付く東西欄干SA6849が発見され、方格地割りが西へ2列広がり、最大で東西7列、南北4列と考えられるようになった。

今回の調査地はこの方格地割りの北から3列目、東から3列目の区画の北東角にあたり、周辺の発掘調査も近年かなり進んでいる地域であるが、計画調査としてはいずれも近鉄沿線の北側に限られている。当調査区の東隣では第92次、21-1次、46次、88次調査が実施されており、奈良時代古道及び平安時代初期の区画道路側溝や建物を取り囲む大規模な構列を検出している。さらに現道を挟んだ北西側では第83次、84次調査において平安時代初期の掘立柱建物SB5780・5820やそれを取り囲む欄干SA5840と溝SD5832が発見されている。

今回の調査では第46次、88次、92次調査で確認された構列SA2800の西への延長部分とその構列に囲まれた区画内の建物を検出することが調査の主たる目的とされた。次に史跡西部古里地区から東部鍛冶山地区まで奈良時代古道が直線的に延びていることも第88次、92次調査で判明しており、方格地割りに先行する古道の確認も期待される場所であった。

基本的層序としては、Ⅰ：表土（耕作土）、Ⅱ：灰黄褐色土（遺物包含層）、Ⅲ：地山（黄褐色土または黒色土）である。調査区北端では地山面は黒色土で、それ以南は黄褐色土の上面で遺構検出を行った。地山面までの深さは南端で約40cm、北端で約60cmであり、調査区南辺で標高約9.6m、北辺で約9.4mと北へ向かって緩やかに傾斜し、その差は約20cmである。

## 2. 遺構

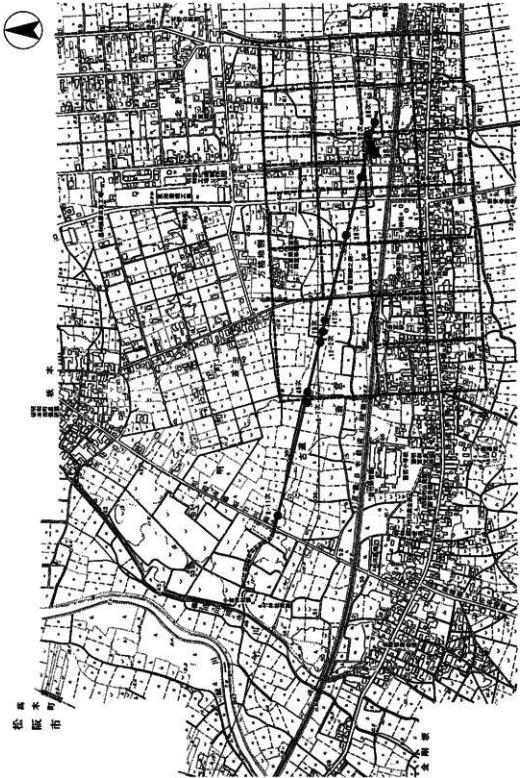
調査の結果、検出した遺構は欄列5条、掘立柱建物24棟、土坑49基、溝19条等があり、期的には奈良時代から近世に及ぶが、奈良時代後期～平安時代前期の掘立柱建物を中心となる。

### (1) 奈良時代前期の遺構

この時期の遺構には道路S F 6800とその両側に溝S D 6801・6802があり、調査区北西部に位置する。道路の北側溝と考えるS D 6801は部分的にしか確認できなかったが、幅0.7m～0.9mを測る。深さは10cm～30cmで断面は浅いU字形を呈しているが、やや深く掘り下げた部分も見られる。溝方向はE 15° Sでほぼ直線的に走るが、溝底の絶対高は西で標高9.2m、東で標高8.9mを測るが、欄列S A 6760との交差部付近では標高9.3mとやや高くなる。S D 6802はS D 6801に並走する道路の南側溝であり、調査区内でほぼ連続して検出された。西半では断面は深い逆台形で幅0.7m～0.9m、深さは35cm～45cmを測るが、東半では幅0.7m～1.0m、深さ10cm～25cmとやや浅い。溝底の絶対高は西で標高8.8m、東で9.2mとなるが、溝S D 6810の交差部では9.0m前後を測り、この付近を境に西・東に下るものと考えられる。溝埋土はいずれも黒褐色土で遺物は皆無であるが、第88次調査で検出された北側溝S D 2404と南側溝S D 6252の延長部分に相当することから当該時期の道路として位置づけられる。なお、S D 6801とS D 6802に挟まれた部分は道路遺構と考えられ、両側溝の心々間を計測すると8.8m～9.0mを測る。

		遺 構 の 種 類									
		S K			S F	S D		S B		S A	
奈良時代	前期				6800	6801 6802					
	中期	6755 6766 6769 6806 6807 6808 6809 6811 6812 6813 6814									
	後期	6747 6756 6757 6763									
平安時代	初期	6744 6753 6759 6815				6775 6776 6777	6723 6724 6745	A	6720 6721 6722 6730 6731 6740	6760 6770	6805
	前Ⅰ期	6764 6765 6767 6783 6784 6789 6791 6792 6793 6794				6785 6804	6727	B	6725 6726 6735 6736	6780 6790	
	前Ⅱ期	6743 6746 6758 6763 6771 6772 6773 6788				6748 6749 6786 6787 6810					
	中期	6751 6752				6750			6728 6729 6732 6733 6734 6737 6738 6739		
時期不明		6754 6761 6762 6774 6778 6779 6781 6782 6816 6817				6795 6796 6797 6798 6799 6803			6741 6742		

第4表 時期別遺構分類表



第23図 奈良時代古道関連調査区配置図 (1 : 10,000)

## (2) 奈良時代中期の遺構

調査区南西部に集中する土坑 S K 6755・6766・6769・6811～6814は、長径1.8m～2.2m、短径1.2m～1.5mの略長方形を呈し、深さは完掘できた S K 6755で80cm、S K 6766では60cmを測る。S K 6769は平面長楕円形で長径5.8m、短径3.2m、深さは南半の掘り下げた所で80cmを測る。上面では S B 6730～6732の北西隅の柱穴が検出されている。調査区北辺部の S D 6797の溝底で検出した S K 6806～6809は長径約4m×短径約2mで不定形な楕円形を呈する。いずれも埋土は黒色粘質土で遺物はほとんど出土していない。埋土の切合い関係では楯列 S A 6760より古く、奈良時代古道の側溝より新しいことから当該時期を想定する。

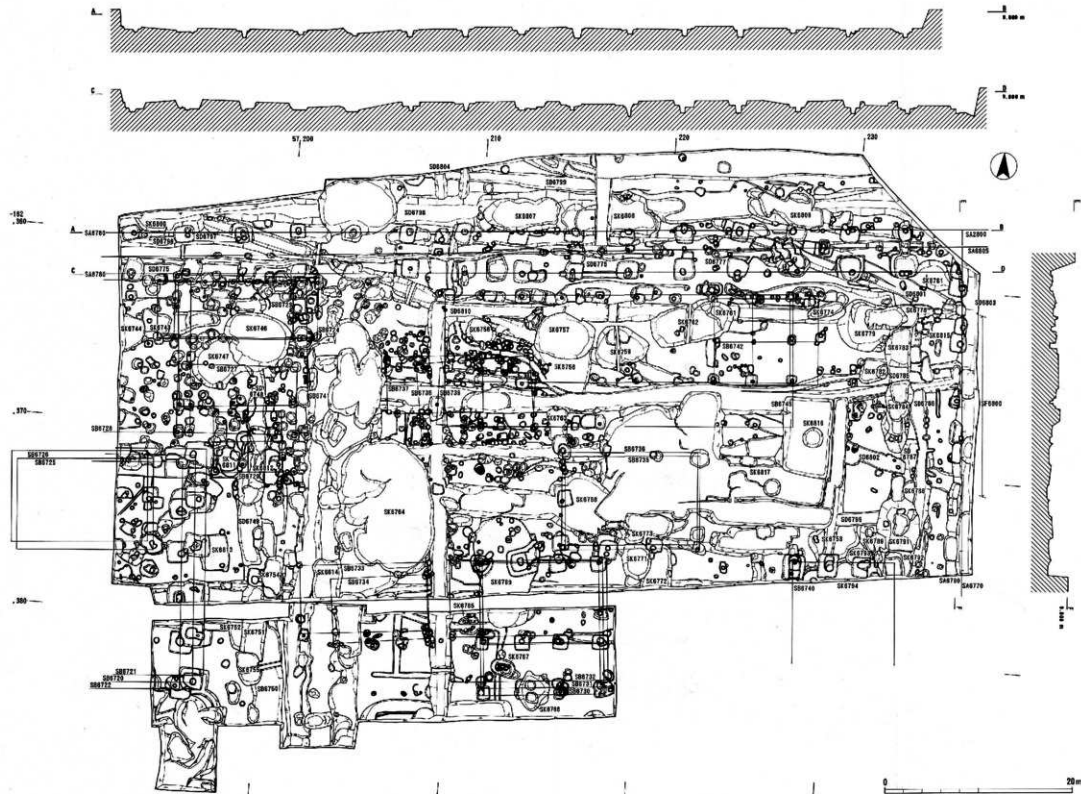
## (3) 奈良時代後期～平安時代前Ⅱ期の遺構

この時期の遺構には、楯列5条、掘立柱建物14棟、土坑26基、溝10条等があるが、楯列や掘立柱建物については柱穴からの出土遺物が乏しく、しかも建替え等で時期区分を明確にできないため楯列と掘立柱建物の新旧関係と配置をもとにA、Bの二つの配置を想定して概述する。  
・配置Aに属するもの (S A 6760・6770、S B 6720・6721・6722・6730・6731・6740)

東西楯列 S A 6760は調査区北辺で検出したが、この楯列は第46次調査で S A 2800として北東角部を確認し、東西4間以上、南北4間以上であることが判明している。第88次調査ではさらに南へ7間分延長することがわかり、第92次調査では西側延長部分として4間分が検出され、延べ14間以上西側へ続くことが確認された。今回の調査区内ではさらに西側延長部分として14間分(41.2m)検出し、北東角から31間以上延びることがわかった。楯列の方位はE 4°Nを示し、方格地割の道路側溝と並行する。柱列の北半は溝 S D 6797と重複するが、柱掘形は一辺0.8m～1.0mの方形で確認した深さは50cm前後である。埋土は黒褐色土で直径25cm～30cmの柱痕跡を検出した。柱間は2.94m(10尺)を基準としてほぼ一定である。

S A 6770は調査区東端で確認した南北楯列で5間分(15.0m)を検出した。この楯列は調査区外で確認できなかったが、柱穴が北側へ1間分延びて S A 6760と接続し、S A 2800の北東角からは16間目にあたる。柱穴は溝 S D 6803によって東半が削平され、完全な形では検出できなかったが、確認した柱掘形では一辺約1.0mの方形を呈し、深さは40cm～50cm、柱痕跡は直径約30cmを測る。埋土は黒褐色土と黄褐色土を基本とした2種類がある。柱間は3.0m(10尺)等間を測り、柱列の方向は S A 6760に直交してN 4°Wを示す。

掘立柱建物 S B 6720～6722は調査区南西部で検出した最大規模の南北棟建物で、少なくとも3回の建替えが見られる。梁行は1間分しか確認できなかったが、さらに西側に延びるものと考え、桁行5間×梁行2間を想定する。柱間は2.4m等間で棟方向はN 4°Wを示す。柱掘形は一辺約1.2mの方形で深さは約70cm、柱痕跡は直径約40cmを測り、柱穴としては最大級である。建物の新旧関係は柱穴の切合いより古い方から S B 6722→S B 6721→S B 6720である。



第24図 遺構実測図 (1:200)





調査区南辺部で確認した東西棟のS B 6730・6731は2回の建替えが考えられ、桁行3間×梁行2間の身舎で南に庇が付く。身舎は桁行、梁行の柱間が2.1m、2.15m、棟方向はE 5°Nであるが、それぞれの庇出は2.7m、2.4mと異なる。柱掘形は一辺約0.6mの方形で深さ約50cm、柱痕跡は直径20cmを測る。S B 6730の南面庇の柱通りはS B 6720の南妻柱筋とほぼ同じであり、同時期に併存するものと考えられる。新旧関係は古い方からS B 6730→S B 6731である。

掘立柱建物S B 6740は調査区南東部で桁行3間分のみ検出し、さらに南へ延びるものと考えられる。この柱通りはS B 6730の北桁筋と合致しており同時期に建ち並ぶものとする。柱間は1.8m等間、柱掘形は一辺約1.2mの方形で深さ約60cmを測り、柱痕跡も直径約40cmと大きい。

・配置Bに属するもの(S A 6780・6790、S B 6725・6726・6735・6736)

今回新たに発見した東西櫓列S A 6780はS A 6760の南側約2.0mに並行する。検出した柱列は15間分(44.2m)で柱間は2.94m(10尺)等間である。柱掘形はS A 6760よりもやや大きく、一辺約1.1mの方形で深さは50cm～70cm、柱痕跡は直径約30cmを測る。

S A 6790は調査区東端で検出したS A 6780の柱穴を北東角として南折する南北櫓列で5間分(14.7m)を確認した。柱穴はS A 6770の北側を切っており、新旧関係としてはS A 6770よりも新しい。柱間は2.94m(10尺)等間で柱穴の規模もS A 6790とほぼ同規模である。

掘立柱建物S B 6725・6726は調査区西辺部で梁行2間分のみを検出し、少なくとも2回の建替えが見られる。新旧関係は古いほうからS B 6726→S B 6725である。柱間は2.4m等間でさらに西側に広がる3間×2間の東西棟で棟方向はE 4°Nと考えられる。この柱穴の掘形は一辺50cm～60cmの方形、深さは約50cmで直径約20cmの柱痕跡が見られる。

S B 6735・6736は東西棟の桁行3間×梁行2間で棟方向はE 4°Nを示し、新旧関係は古いほうからS B 6736→S B 6735である。桁行の柱間は2.4m、梁行の柱間は2.5mを測る。完全な形で検出された柱掘形では一辺60cm～80cmの方形で深さは50cmを測り、柱痕跡も直径20cm程である。S B 6735・6736とS B 6725・6726はほぼ同規模で約21.6mの間隔をおいて並び建ち、また北桁筋の柱通りも通すことから同時期に併存したものと考えられる。

・奈良時代後期の遺構

奈良時代古道の南側溝を切る土堀S K 6756・6757やS K 6747・6763がある。S K 6756は直径約1.7m、深さ約20cm、S K 6757は深さ約60cmで3.0m×2.4mの長円形を呈する。S K 6747は直径約2.4m、深さ約30cmの円形土堀で東辺をS K 6746に切られる。S K 6763は1.6m×1.0mの略長方形で深さ約30cmを測り、南辺はS B 6735・6736の北東角の柱穴に切られる。

・平安時代初期の遺構

S A 6805はS A 6760とS A 6780のほぼ中間に位置する東西櫓列で、溝S D 6775～6777の北辺で接し、14間分(41.2m)を確認した。柱間は2.94m(10尺)等間であるが、柱穴の直径は約30

cm、深さは約30cmと小さい。櫛列の方向はS A 6760・6780と同様にE 4°Nを示す。

S D 6775～6777は連続的に続く東西溝でS A 6805の北辺で重複し、幅30cm～40cm、深さ15cm～40cmを測るが、溝底を5cm～10cmさらに深く掘り下げた掘削痕が残存する部分も見られる。東端は擾乱土壌のために明瞭でないが、溝の確認延長は約35mに及び、S D 6776とS D 6777では2.6mの間隔をあける。これらの溝と櫛列S A 6780、6805の新旧関係では溝の方が古い。

掘立柱建物S B 6745は、調査区北東部で確認した東西棟の桁行9間×梁行2間で南面に庇が付く。棟方向はE 4°Nで桁行、梁行の柱間はそれぞれ2.1m、2.3m、南庇出は2.4mを測る。柱掘形は一辺約60cmで深さは約40cm、柱痕跡は直径約20cmである。この建物はS A 6760、6805、6780の南側でそれぞれ3.6m、2.4m、1.2mと間隔をあけるが、位置関係から少なくともS A 6770に先行するものでS A 6760あるいはS A 6805との関連性が窺われる。

調査区北西部で検出したS B 6723は3間×2間、S B 6724は4間×2間でいずれも東西棟である。柱穴は直径20cm～50cm、深さ35cm～60cmと均一でない。

調査区南東隅の土壌S K 6753は遺構検出時には直径約3mの範囲で拡がっていたが、木炭・炭化物を含む焼土や華大の石礫及び土師器杯・皿等の完形品が多量に出土した。底面及び土器には被火された痕が見られないことから他の場所で焼かれた後、炭化物や焼土と共に土器を一括して投棄したものと考えられる。その形状は約2.8m×約2.1mの不定円形を呈し、深さは5cm～10cmと浅い。また、北・南端でS D 6795・S B 6740の埋土を切っている。

調査区北西隅のS K 6744はS K 6743の底面で検出した直径約2mの円形土壌であるが、井戸の可能性もあって約20cm掘り下げたのみで完掘できなかった。S K 6759は奈良時代古道の南側溝S D 6802を切る土壌で長径2.7m×短径2.3m、深さ約50cmを測る。埋土からは完形に近い土師器杯・皿が出土する。S K 6815は西半をS D 6785に切られており全体規模は明らかでないが、深さ約30cm、一辺約1.3mの方形土壌と考えられる。埋土からは須恵器長頸壺一個体分出土した。

#### ・平安時代前I期の遺構

調査区北西部のS B 6727は東西棟の3間×2間で柱間隔は桁間2.1m、梁間1.8mを測る。北側柱の一部がS K 6746に切られるため確認した柱穴は、直径約40cm、深さは50cm前後である。

S D 6810の南北溝に切られるS K 6764は7.2m×4.8mの平面楕円形を呈する大型土壌として捉えたが、上面は近世以降の擾乱を受けており複数の土壌が重複したものとする。S K 6765・6767は調査区南辺付近で検出した小土壌でいずれも遺構上面を擾乱の溝に切られるが、完形に近い土師器杯・皿等が一括して出土した。S K 6765は一辺約1mの隅丸方形で深さ10cm程の浅い土坑である。S K 6767は平面形は1.4m×0.9mの長方形で深さ約30cm、底部に直径40cm～50cm、深さ15cm前後の小穴が2箇所確認された。

調査区東辺部のS D 6785は北端をS K 6778・6979に切られる南北溝で確認長6.5m、幅1.2m、

深さ30cmを測り、溝底からS K 6783・6784が検出された。調査区南東隅で検出したS K 6789・6791～6794は、長径1.5m～2.8mの不定形な円形土坑が重複しており規模全体は明確でないが、平安時代前Ⅰ期の土師器杯・皿片が出土する。埋土の切合いからS K 6753より新しくS D 6786より古い。S K 6793は長径2.8m×短径2.3mの楕円形で深さ約1mのすり鉢状を呈する。

S D 6804は調査区中央部北端で検出した南北溝で幅約60cm、深さ約30cmを測る。S D 6798に切られるが、S D 6810の南北溝の北延長線上に位置するものである。

#### ・平安時代前Ⅱ期の遺構

調査区東半部のS D 6810は北東隅を角とする「」形状の区画溝で、溝方向は東西でS A 6780、南北ではS A 6790とそれぞれ並行する。遺構検出時では「」形状を呈したが、東端はS K 6778・6779に切られ不明瞭となる。確認した溝全長は東西約28m、南北約22mで南へさらに延びる。溝幅は1m前後で断面逆台形を呈し、検出面からの深さは東西溝で約30cmである。南北溝は南端で深さ約80cmを測るが、検出面より約30cm下では5cm～8cm厚の黄色粘土で固められ、上・下層で2時期の溝が考えられる。遺物は少量で下層溝底から須恵器甕片が出土した。溝底の絶対高は東西、南北方向のいずれもほぼ平坦であり、排水的機能を有するとは考えがたい。

調査区東辺部ではS D 6786・6787、S K 6788がある。S D 6787は北端でS D 6785に接する幅1.8m前後、深さ10cm程の浅い南北溝で調査区外へ続くものである。下層でS K 6788、S D 6786が重複して検出され、埋土の切合いより新→旧はS D 6787→S K 6788→S D 6786である。S D 6786は溝幅60cm～80cmで奈良時代古道の南側溝S D 6802との交差付近を頂点（標高9.2m）として北及び南へ斜行するが、その比高差は20cm、30cmとなる。この溝は区画溝S D 6810と比べると浅く明瞭でないが、S D 6810の東辺部となる可能性も窺える。

調査区中央部で土坑S K 6758・6768・6771～6773がある。S K 6758は北半でS K 6557と重複し、長径4.5m×短径3.0mの長円形で深さは約30cmを測る。S K 6768は直径約3mの円形土坑で深さ約30cmを測るが、底面からS B 6735・6736の柱穴が検出された。S K 6771～6773は遺構検出時では直径約3mの単独土坑と考えたが、掘り下げた結果3基の土坑で埋土からは土師器杯・皿等の破片が遺物整理箱4箱分出土した。S K 6771は長径1.9m×短径1.5mの長円形で深さは60cm程である。S K 6772は深さ約40cm、長径2.4m以上×短径1.8mの長円形で南端は調査区外に延びる。S K 6773は北半を擾乱土坑に切られるが、一辺約1mの方形土坑と考える。S K 6771～6773はS B 6735・6736の柱穴と重複するが、埋土の切合いからいずれも新しい。

調査区西辺部では南北方向に連続的に延びる溝S D 6748・6749やS K 6746がある。S D 6748は北端をS K 6746に切られるが、幅約1m、深さ約40cmで南端の溝底には不定形な土坑状の浅い掘り込みが見られるなどS D 6749との新旧関係は不明瞭である。S D 6749はS K 6811・6812と重複するやや浅い溝で幅約1.3m、深さ25cm前後を測る。S K 6746は南辺でS K 6747と重複す

るが、直径3m前後の円形で深さ約90cmを測る。S B 6723・6724・6727の柱穴がこの上面では確認されていないことからさらに古いものと考ええる。

調査区北西隅で検出した土坑S K 6743は、当初東西方向に延びる浅い溝と考えたが、西端で平安時代初期の土坑S K 6744を検出するなど、東西約1.8m×南北約1m、深さ90cm前後の土器溜であることが判明し、遺構上面から土師器片を中心に遺物整理箱4箱分が出土した。底面では土師器杯・皿を中心とした土器68個体分が投棄された状態で検出されたが、単に土器を一括して投げ入れたものでなく、ある程度まとまった形で投棄された様子が窺われる。第25図に模式的に表示したその特徴は下記のとおりである。

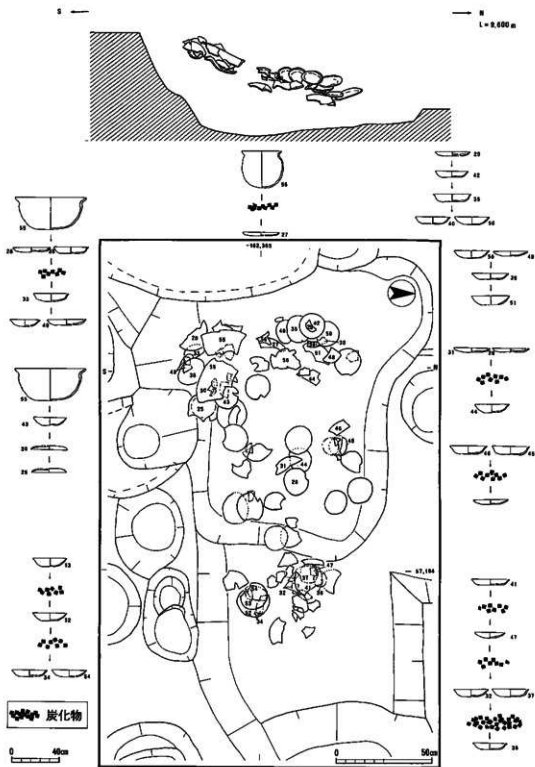
- ① やや器高のある杯タイプのもとの器高の浅い皿タイプのをセットとしてほぼ交互に重ねて投棄した場合と、杯タイプばかりを重ねて投棄した場合が見られる。
- ② 口径の近似した杯・皿ばかりをセットにして重ねているため個々の空間ができるが、その空間に炭及び炭化物が緊密に詰まった状態で検出されたセットも見られる。
- ③ 口縁端部等の細部まで類似した土器でセット関係を構成している。
- ④ 全体的に完形近い土器のままでしかも土器との重なりをよく残した状況で検出される等所謂廃棄土坑とは異なる様相を持っている。

以上、土器に内包物を残したままの状態検出された土器溜は例がなく、隣接調査地（第44次調査）で検出した土坑S K 2650とも違った祭祀的な様相を呈していると思われる。

#### （4）平安時代中期の遺構

調査区北西部の掘立柱建物S B 6728は南北棟で桁行4間×梁行1間分を検出し、調査区外の西側へ広がるものと考ええる。柱間は桁行2.0m、梁行2.3mを測り、柱掘形は一辺約50cm、深さ45cm前後、柱痕跡は20cm程である。S B 6729は東西棟で2間×2間の総柱建物と考ええる。柱間は桁行1.8m、梁行1.6mで、柱掘形は一辺約45cm、深さ50cm前後、柱痕跡は約20cmを測る。

調査区南半部ではS B 6732・6733・6734を検出した。S B 6732は東西棟の4間×2間で南面に庇が付く。身舎の柱間は梁行2.1m、桁行2.0mで庇出は2.4mを測る。柱穴は直径約30cmと小さく深さも約30cmと浅い。なお、S B 6730・6731と重複するが、西梁行筋が平安朝Ⅱ期の溝S D 6810を切っていることから当該時期とした。S B 6733・6734は東西棟でそれぞれ4間×3間、3間×2間である。柱間はS B 6733が桁行1.7m、梁行1.8m、S B 6734は1.7m等間である。柱穴はいずれも直径30cm前後を測るが、深さは50cm～60cmとやや深い。S D 6810と東梁行筋が重複しており、時期はさらに下るものと考ええる。調査区中央部のS B 6737～6739はいずれも東西棟の3間×2間でS B 6737・6739は柱間が桁行1.7m、梁行1.5m、S B 6738の柱間は桁行2.0m、梁行2.15m、柱穴の直径は30cm～40cm、深さ25cm前後を測る。また、S B 6738・6739の棟方向はE 9° N、E 1° Nで方格地割の東西方向E 4° Nに対してかなり振っている。



第26图 SK 6743实测图 (1:20)・土器出土状况模式图 (1:16)

調査区南西部のS D6750は遺構検出時には1条の溝として捉えたが、溝底でS K6751・6752と重複することが判明した。北端は調査区東西畦畔と接するため明確でないが、南端は調査区外へさらに延びるものと考えられる。溝幅は1.5m～1.7m、深さは15cm～35cmで断面は浅いU字形を呈する。遺構検出時から上面には土師器片が多量に確認され、埋土からは完形に近い平安時代中期の土師器杯・皿を中心に遺物整理箱で13箱分出土した。溝底で検出したS K6751は全長約4m、幅約1.3mの細長い溝状の土坑で深さは30cm程である。S K6752はS K6751に切られており、形状は明らかにできなかった。

#### (5) 時期不明の遺構

調査区西辺部のS B6741は東西棟の4間×3間で柱間は桁行1.7m、梁行2.2mである。確認された柱穴の柱掘形は一辺約50cm、深さ50cm強、柱痕跡は直径15cm～20cmを測る。S B6745の東半で重複するS B6742は南北棟で2間×2間の総柱建物で東面に1.4mの庇が付くものである。棟方向はN4°W、身舎の柱間は桁行2.3m、梁行2.0mである。柱穴の切合い関係からS B6745より新しい。これらの掘立柱建物が平安時代のどの時期に属するは不明である。

S D6795はS K6753・6791に切られる確認長2.2mの東西溝だが、幅約80cm、深さ約50cmで断面逆台形を呈する。S B6740の北側2.4mに位置することから区画溝としての可能性も窺える。

調査区北半でS D6810の東西溝を切る土坑としてS K6761・6762・6774・6778・6779、奈良時代古道の北側溝を切るS K6781やS K6782がある。S K6762・6779は長径2.7m～3.8m×短径2.0m～2.8mの楕円形で深さは50cm～80cmを測り、S K6762からは平安時代前I期の須恵器盤がほぼ完形で出土した。S K6781・6782は直径約1.5mの不定形な浅い土坑である。

調査区北辺部の東西溝S D6796～6799や調査区東端の南北溝S D6803があり、いずれも方格地割の方向性をほぼ踏襲するものである。S D6797は幅約2.5mで深さは約30cm、北半の大部分がS D6798に切られる。西端の溝底では幅約50cm、深さ約15cmと浅い溝S D6796を検出した。S D6798の溝幅は上面で約1.5m、溝底では50cm～90cmを測り、断面逆台形を呈する。溝底は標高8.8m前後でほぼ平坦だが、東端では約30cm下がっている。遺物としては、溝上層で完形の把手鋤付茶釜形注口土器を含む近世の陶器片が出土し、下層からは山茶碗・土師器の破片が少量確認された。S D6799は幅60cm～80cm、深さ20cm～30cmの溝でS D6798の北辺を切っている。S D6803は調査区東辺端で全体は確認できなかったが、溝幅は1m以上、深さ60cm前後で断面逆台形を呈するものとする。調査区外で明らかにできなかったが、東端はやや西へカーブしており、溝の規模・形状からS D6798に連結する区画溝と思われる。また、溝底では土坑状の浅い掘り込みが3箇所見られるが、出土遺物はなかった。

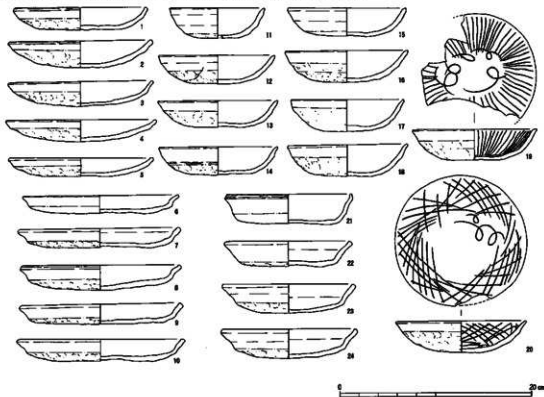
土坑S K6816は完掘できなかったが、深さ1m以上、直径1mの素掘り井戸で近世のものとする。S K6817は約90cm×約50cm、深さ約40cmの方形土坑で近世の陶器片が出土している。

### 3. 遺物

今回の調査で出土した遺物は整理作業の終了後、台帳登録を経たのちの収蔵段階での整理箱総数で約170箱である。大半は包含層からの出土で、平安時代を中心として近世に至るまでの様々な時期の遺物があるが、ここでは平安時代初期～中期の土坑及び溝から出土の一括資料を中心として概述することとし、加えて特殊な遺物として遺物整理作業の段階でピックアップしている遺物についても若干触れておきたい。

#### (1) SK6753出土土器(1~24)

平安時代初期のSK6753からは土師器杯・皿・壺・壺、須恵器杯・壺、製塩土器等があり、整理箱で8箱分出土している。土師器皿(1~10)は口径14cm~15cmで口縁部が外方にまっすぐのびるもの(1~5)や口径16cm~17cmで口縁部が外反するもの(6~10)があり、いずれも口縁端部をヨコナデするe手法である。土師器杯(11~24)には口縁部が外方にまっすぐのびる(11~20)と口縁部が外反気味にたちあがる(21~24)があり、調整はすべてe手法である。(11)は口径9.9cmと小型でやや碗形を呈する。(12~18)は口径12cm前後である。(19~20)は口径13cm前後で内面に放射状暗文及び螺旋状暗文が施される。(21~24)は、口径13cm~14cm、器高3cm前後のもので、(21)は口縁端部がやや内弯する。

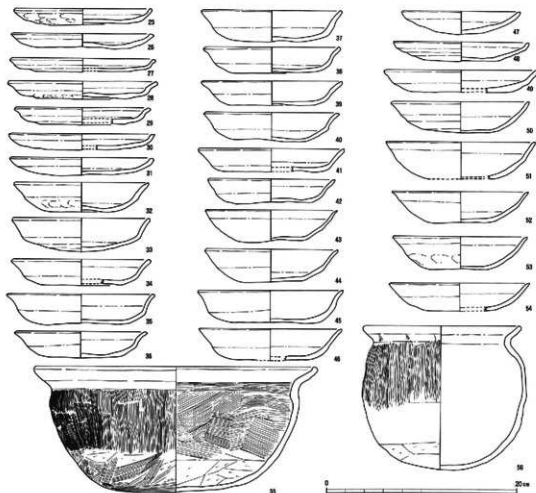


第26図 出土遺物実測図 SK6753: 1~24



(2) SK6743出土土器(25~56)

平安時代前II期と考える土坑SK6743では、遺構上面で土師器片が多量に出土し、土坑底面からはほぼ完形に近い土師器皿・杯・鉢・甕等が一括して出土した。土師器皿は口径14cm~15cmで、断面弓状になるもの(25・26・30・31・48・49)と口縁端部が外反するもの(27~29)があり、調整はすべてe手法である。土師器杯は底径が小さく口縁部がまっすぐのびるもので口縁端部の形態によって外反するもの(32~43)、まっすぐのびるもの(47・50~54)があり、口径が14cm前後のものとは15cm前後ものがある。器面の調整はいずれもe手法である。土師器鉢(55)は口径29.4cm、器高13.9cmで体部はやや丸みをもつものである。体部外面は細かい縦ハケメで底部もハケメ調整し、内面は体部上半を横方向のハケメ調整して底部はヘラケズりする。土師器甕(56)は、口径16.0cm、器高15.4cmと小型で球形に近いものである。体部外面は細かい縦ハケメ、下半部はヘラケズリを施す。



第27図 出土遺物実測図 SK6743: 25~56

(3) SK6762出土土器 (57・58)

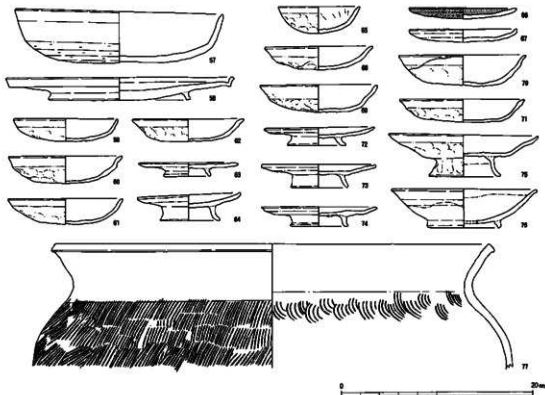
(57) は口径21.9cm、器高5.4cmで底部外面にロクロヘラケズリを施すものである。(58) は、口径24.0cm、器高2.4cmで底部に高台が付く。平安時代初期～前I期とみられる。

(4) SK6752出土土器 (59～65)

平安時代中期のSK6752からは土師器杯・皿・台付皿、灰軸陶器片、緑軸陶器片等が出土している。土師器杯は口縁部がまっすぐのびるもの(59～61)が主体となるが、(62)は口縁端部がやや屈曲し外反するもので調整はすべてe手法である。(65)は口径8.6cm、器高が2.8cmの碗である。台付皿には極めて平坦なもの(63)や高台が付くもの(64)がある。

(5) SD6750出土土器 (66～76)

平安時代中期のSD6750からは土師器杯・皿・台付皿、黒色土器、灰軸陶器・緑軸陶器片等が出土している。黒色土器B類の皿(66)や土師器皿(67)は口径11cm前後で浅い。土師器杯(68～71)は口縁部が外方にほぼまっすぐ開くもので口径は12cm～13cm、器高3cm前後で調整はすべてe手法であるが、口縁部のヨコナアの範囲は器高の3分の1程度と狭い。(72～74)は口径約12cmの土師器台付皿で、(75)は口径15.8cmとやや大型で深い杯部に高台が付くものである。灰軸陶器碗(76)は口径15.2cm、器高4.1cmで灰軸をツケガケするものである。



第28図 出土遺物実測図 SK6762: 57・58 SK6752: 59～65 SD6750: 66～76 SD6810: 77

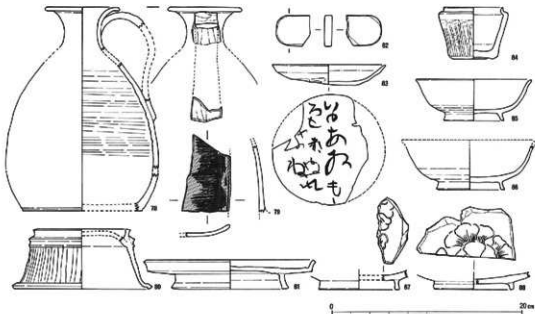
### (6) SD6810出土土器(77)

須恵器甕(77)は平安時代前Ⅱ期のSD6810から出土したもので、口縁部から体部にかけて約4分の1が残存し、口径は45.2cmである。体部外面は平行タタキ、内面は同心円文タタキ後ナデ調整を施す。

### (7) 特殊遺物等(78~88)

特殊な遺物としては、緑釉陶器74点、円面硯3点、風字硯1点、墨書土器6点、製塩土器6点、青磁片1点、用途不明の銅製金具5点等がある。

緑釉陶器のうち把手付甕(78)は、調査区中央付近のピット内を含む周辺の包含層から出土した口縁部、体部、底部の破片13点で同一個体と見られる。口径7.2cm、推定器高21.5cmで猿投産と考えられる。椀(85・86)は平安時代中期のSD6750、SK6752からの出土で東濃産とみられる。除刻花文を有する椀(87・88)はいずれも底部のみで猿投産である。円面硯(80)は硯面が欠損するが、口径9.2cm、器高6.4cmと小型で脚部外面にヘラ描きによる透しが施される。風字硯(79)は黒色土器で体部にヘラミガキが施され、脚部の貼付痕跡が見られる。転用硯は4点あるが、(81)は口径17.6cm、器高3.1cmの須恵器台付盤で体部内面を硯面として使用し、墨痕が残る。SD6750から出土した墨書土器(83)は口径12.0cm、器高2.2cmの土師器杯で底部外面に仮名習書がみられ、判読可能な文字としては「い□あるも□ろ□□□□や□ね」である。SK6753の土師器小型壺(84)は口径6.2cm、器高5.5cm、体部外面にヘラケズリを施す。石帯(82)は淡黄色を呈し、幅3.2cmの鈍尾で一部欠損する。



第29図 出土遺物実測図 その他の出土遺物：78~88

#### 4. まとめ

今回の調査では、史跡東部に想定される奈良時代後期から平安時代前半を中心とする方格地割において中核部とされる方形区画の内側で、2回の建替えに及ぶ大規模な欄列(板扉)や大型の掘立柱建物等が多数検出されるなど、「斎宮内院」を考えるうえでは画期的な成果を得たといえる。また、方格地割の成立以前の奈良時代古道を再確認したことも注目される。

なお、今回の調査結果については、これまでの調査成果もあわせて検討していきたい。

##### (1) 奈良時代古道

奈良時代古道については、これまで史跡西部から東部までほぼ直線的に延び、総延長約1km以上に及ぶものとされてきたが、道路の両側溝については、特に南側溝が浅く部分的にしか確認されなかったり、古道の側溝 S D0170 が南、北いずれの側溝に相当するのかなど、不明瞭な点が多々あった。今回検出した道路 S F 6800 では南、北の側溝が明瞭であり、これまでの調査成果を踏まえて再度検討することとなった。その結果は、第5表及び第23図のとおりである。

S F 6800 の道路幅は両側溝の心々間で約9.0mを測り、溝方向はE15°Sであるが、第28次・第83次・第92次・第88次調査では、道路の北側溝 S D 6801 の延長上には S D 1327・5855・2404 が、また、南側溝 S D 6802 の延長上には S D 1395・5857・6252 が位置することがわかった。しかし、第12-2次・第78次・第47次調査で南側溝はほぼ S D 6802 の延長上にあたるが、北側溝までの道路幅がやや狭まり約8.0mとなる。さらに第8-11次・第8-7次・第49次調査では道路幅が約6.0mとかなり狭くなっている。道路幅が第49次調査区と第12-2次・第78次調査区の間で大きく変わっているが、その間は現時点で想定する東西7列、南北4列の方格地割において、北西角の4つの方形区画のほぼ中央に相当し、この区画が存在するならば推定区画道路の交差付近にあたることから古道の存続期間と方格地割の変則的な様相を考えるうえで、問題を提起したいえよう。

調査次数	北側溝	南側溝	道路幅	備考
第8-11次	番号なし	S D0170	6.0m	
第8-7次	S D0220	S D0170	6.0m	
第49次	S D2987	S D0170	6.0m	
第12-2次	番号なし	S D0170	8.0m	
第78次	S D5256・5255	S D5266	8.0m	
第47次	S D2858	S D2862 (S D0170)	8.0m	( )可能性有り
第28次	S D1327	S D1395	9.0m	
第83次	S D5855	S D5857	9.0m	
第96次	S D6801	S D6802	9.0m	道路 S F 6800 とする
第92次	S D2404	—	—	南側溝は調査区外
第88次	S D2404	S D6252	9.0m	

第5表 奈良時代古道検出調査区一覧表

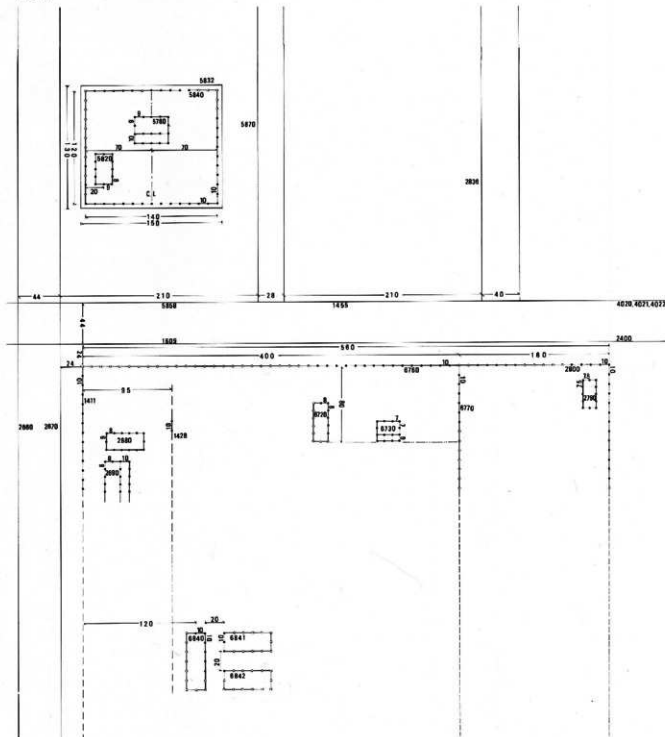
## (2) 欄列と掘立柱建物（配置Aと配置Bについては、第30図参照）

今回の調査で検出した欄列 S A 6760・6770と S A 6780・6790によって、これまで方格地制の中核部とされた鍛冶山地区で東西辺約130mとする方形区画の変則的な様相が明らかとなった。東西欄列 S A 6760は第88次調査の S A 2800の北東角から西側延長線上に位置し、第44次調査で検出した南北欄列 S A 1411の北端からさらに1間分北の柱穴（未検出）を北西角とすることが判明した。この欄列の総延長は56間分（約165m）に及ぶが、S A 2800の東端から S A 6760が南折する南北欄列 S A 6770までは16間分（約47.5m）で柱間は2.97m（10尺）、S A 6770から S A 1411までは40間分（約117.6m）、柱間は2.94m（10尺）を測る。また、南北欄列 S A 2800・6770・1411は、それぞれ12間、6間、13間以上南側へ延長するが、柱間は S A 2800・6770が3.00m（10尺）であるのに対し、S A 1411では2.95m（10尺）となる。次に、今回新たに確認した東西欄列 S A 6780は S A 6760の建替えと考えられるが、北東角から第44次調査で検出した S A 2675の北西角までは40間分（約117.6m）で柱間は2.94m（10尺）を測る。南北欄列となる S A 6790・2675は、S A 6770・1411と重複しており、それぞれ5間、12間以上南側へ延びるもので柱間はいずれも2.95m（10尺）である。ここで問題となるのは、南北欄列 S A 6770・6790とこれらの東側約7mに並行する南北方向の区画道路である。この道路は第92次調査で西側溝とみる S D 6520が、また第21-1次調査で東側溝 S D 1097が部分的に検出されているが、S D 6520が S A 2800の柱穴を切る以外時期も明瞭でない。したがって、東西辺約130mとするこの方形区画の内側に2時期の欄列が存在するが、S A 6760を北辺の欄列とする時期には S A 2800によってさらに東側へ張り出す形状を呈するものと考え、配置Aを想定する。しかし、各辺を構成する欄列の柱間においては、構成尺の単位が29.4cm/尺～30.0cm/尺と様々であり、配置Aとした欄列の形状や造営時期を細分することも可能であろう。配置Bにおいては、東辺に相当する南北方向の区画道路が存在し、東西辺約130mの方形区画が構成されるものである。この区画の内側を取り囲む欄列は、西辺が S A 2675、北辺が S A 6780、東辺が S A 6790にあたる。なお、A配置に属する S A 6760・6770の柱穴埋土からの出土遺物としては、わずかな土師器細片だけで時期は不明瞭であるが、B配置に属する S A 6780・6790からは、微量ながら奈良時代後期～平安時代初期の土師器小片が比較的多く認められる。

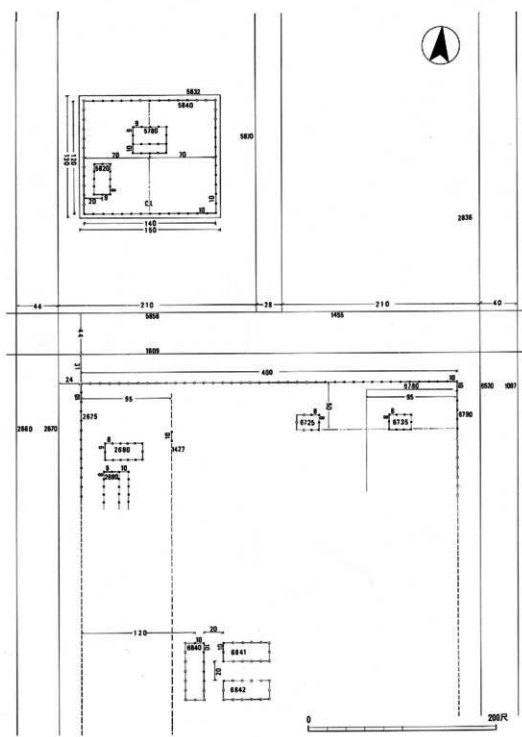
次に、掘立柱建物については、柱穴からの出土遺物は細片かつ微量であるため、明確な時期区分が困難な状況であったが、棟方向がほぼ欄列の柱筋と同じで、建物配置に規格性をもち、新旧関係が明らかなのを対象に欄列と対応させ、配置A、Bとしたものである。

配置Aに属する建物では、S B 6720～6722の南妻柱筋が S B 6730・6731の南面庇の柱通りの延長線上に位置する。また、S B 6720～6722の柱穴からは、極少量ながら平安時代初期～前II期の、S B 6730・6731では、平安時代前I期～前II期に及ぶ土師器小片が混在する。

配置A



配置B



第30図 周辺連携配置図 (1 : 1,200)

(単位：尺 4桁数字は連携番号)



配置Bに属する建物では、S B 6725・6726が柱穴の切合いからS B 6720～6722よりも新しく、しかもS B 6735・6736とは同規模で、約21.6mの間隔を置いて並び建つ。S B 6725・6726は平安時代前半の、S B 6735・6736では平安時代前Ⅰ期～前Ⅱ期の土器器小片がわずかながら認められる。したがって櫛列の新旧とは直接的な関係を持っておらず、今後の調査の進展によっては配置の細分化も充分ありうるだろう。

さて、これまで配置A、Bの概略を述べたが、やはり問題となるのはその造営時期である。配置Aについては、この初現は史跡西部から東部南東へ直線的に延びる奈良時代古道が史跡東部に方格地割が造営されたため寸断される時期であり、奈良時代後期に遡るものと考え、存続期間としては平安時代初期までと考えたい。すなわち現在の斎宮の土器編年観では770年頃～815年頃をその目安として想定する。次に、配置Bについては、平安時代初期～前Ⅱ期とやや幅のある期間を考える。大規模な櫛列を新たに建替える時期をいつとみるかは現時点では明確にできないが、平安時代前Ⅰ期が造営の中心的時期となるであろう。また、廃絶期については、平安時代中期と考える掘立柱建物が前代のものと比較すると小型でしかも建物配置にも規格性が薄れることから、平安時代前Ⅱ期までとした。

### (3) 溝・土城

調査区東半部に位置する「形状」の区画溝S D 6810は、時期区分としては平安時代前Ⅱ期としたが、その掘削は重複する土城や出土遺物から検討すると、少なくとも平安時代前Ⅰ期まで遡るものと考えられ、該当する時期から配置Bに属するものと考え。S D 6810の南北方向の溝は配置Bにおける方形区画内の東辺にあたる南北櫛列S A 6790と並行し、その間は約28m (95尺)を測る。ここで問題となるのは、この区画内の西辺に相当する南北櫛列S A 2670から東へ約28mに並行するS B 1427 (第29次調査)とした1間分の柱列である。この柱列を南北方向へ延びる櫛列とみるならば、この区画内で左右対称の位置関係を呈するものであり、その存在が特に注目され、今後この地区の調査が望まれる。

土城についていえば、S K 6753からは、別の場所で焼いたとみられる炭及び炭化物を含む焼土と共に平安時代初期の土器器杯・皿が出土し、平安時代前Ⅱ期のS K 6743からは炭・炭化物が土器の間に詰まったままでしかも廃棄にセット関係がみられる状態で検出された。炭・炭化物については分析結果を待たねばならないが、土城の廃棄状態から祭祀形態を考えるうえでは重要な資料となったといえよう。

以上、主要遺構を中心に概述したが、今回の調査では大規模な櫛列と大型の掘立柱建物の発見により、方格地割の中枢部とされる方形区画北半部の様相や造営時期がかなり明確となったといえる。今後は細部にわたる問題点について検証するため、この区画南半部での発掘調査が展開されることがいっそう期待される。

(野原宏司)



## 掘立柱建物・櫓列一覧表

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時期	備	考
					桁行	梁行			

### 第95次調査 (6ADN)

S B6660	2×2	N4°W	3.6	3.6	1.8	1.8	平安初期	南庇出1.8m	
S A6646	5	E2°S	10.5		2.1		平安前Ⅰ		
S B6649	4×2	N1°E	11.2	4.6	2.8	2.3	+		
S B6663	5×2	E2°S	9.5	4.0	1.9	2.0	+		
S B6670	4×(1)	E2°S	8.8	(2.2)	2.2	2.2	平安前Ⅱ		
S B6679	(1)×(1)	N1°W	(2.3)	(2.3)	2.3	2.3	+	総柱建物	
S B6642	3×2	E2°S	6.6	4.4	2.2	2.2	平安後Ⅱ		
S B6650	2×2	E2°N	4.6	3.6	2.3	1.8	+		
S B6637	5×(2)	N4°E	11.5	(5.0)	2.3	2.5	平安末	総柱建物	
S B6643	3×2	E7°N	6.9	4.0	2.3	2.0	+	北庇出2.1m	
S B6648	5×2	N2°E	8.5	3.6	1.7	1.8	+		
S A6674	5	N1°W	10.5		2.1		+		
S B6675	4×(1)	N0°S	8.0	(2.1)	2.0	2.1	+		S B6678より古い
S B6676	(2)×2	E1°N	(3.4)	4.2	1.7	2.1	+		
S B6677	3×(2)	N2°W	6.0	(4.2)	2.0	2.1	+		
S B6678	(1)×2	E1°S	(2.0)	4.2	2.0	2.1	+		

### 第97次調査 (6ABG・6ABI-A・B)

S B6713	(3)×(1)	E33°S	(7.5)	(3.0)	2.5	3.0	奈良前		
S B6709	3×(1)	N19°E	5.4	(1.6)	1.8	1.6	奈良中		
S B6708	(1)×3	E2°S	(2.0)	4.5	2.0	1.5	+	総柱建物	
S B6688	(2)×3	E39°S	(4.4)	4.8	2.2	1.6	室町後	総柱建物	
S B6701	-×2	N10°E	-	3.6	-	1.8	不明		

### 第98次調査 (6AFM-C・E)

S B6720	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	奈良後 ~平安初		
S B6721	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	+	S B6720より古い	
S B6722	5×(1)	N4°W	12.0	(2.4)	2.4	2.4	+	S B6721より古い	
S B6730	3×2	E5°N	6.3	4.3	2.1	2.15	+	南庇出2.7m	
S B6731	3×2	E5°N	6.3	4.3	2.1	2.15	+	南庇出2.4m	S B6730より新しい
S B6740	3×-	E4°N	5.4	-	1.8	-	+		
S A6760	00	E4°N	(41.2)		2.94		+	14間分検出	
S A6770	(5)	N4°W	(15.0)		3.00		+	5間分検出	
S B6723	3×2	E4°N	7.2	3.0	2.4	1.5	平安初		
S B6724	4×2	E3°N	7.6	3.3	1.9	1.6	+		
S B6745	9×2	E4°N	18.45	4.6	2.05	2.3	+	南庇出2.4m	S B6742より古い
S A6805	00	E5°N	(41.2)		2.94		+	14間分検出	
S B6725	-×2	E4°N	-	4.8	-	2.4	平安初~ 平安前Ⅱ		S B6720より新しい
S B6726	-×2	E4°N	-	4.8	-	2.4	+		S B6725より古い
S B6735	3×2	E4°N	7.2	5.0	2.4	2.5	+		
S B6736	3×2	E4°N	7.2	5.0	2.4	2.5	+		S B6735より古い
S A6780	09	E4°N	(44.2)		2.94		+	15間分検出	
S A6790	(5)	N4°W	(14.7)		2.94		+	5間分検出	S A6770より新しい
S B6727	3×2	E3°N	6.3	3.6	2.1	1.8	平安前Ⅰ		

遺構番号	規模	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時期	備 考
					桁行	梁行		
S B 6726	4 × (1)	N 4° W	8.0	( 2.3)	2.0	2.3	平安 中	総柱建物 南庇出2.4m S B 6731より新しい
S B 6729	2 × 2	E 4° N	3.6	3.2	1.8	1.6	*	
S B 6732	4 × 2	E 5° N	8.4	4.0	2.1	2.0	*	
S B 6733	4 × 2	E 6° N	6.8	3.6	1.7	1.8	*	
S B 6734	3 × 2	E 7° N	5.1	3.4	1.7	1.7	*	
S B 6737	3 × 2	E 6° N	5.1	3.0	1.7	1.5	*	
S B 6738	3 × 2	E 9° N	6.0	4.3	2.0	2.15	*	
S B 6739	3 × 2	E 1° N	5.1	3.0	1.7	1.5	*	
S B 6741	4 × 3	E 5° N	6.8	6.6	1.7	2.2	時期不明	
S B 6742	2 × 2	N 4° W	4.6	4.0	2.3	2.0	*	東庇出1.4m 総柱建物

### 竪穴住居一覧表

遺構番号	規模 (m)	長軸方向	深さ(cm)	柱 穴	カマド	時期	備 考
第95次調査 ( 6 A D N )							
S B 6640	3.1 × -	N 6° E	20	-	-	奈良後期	
第97次調査 ( 6 A B G ・ 6 A B I - A ・ B )							
S B 6706	- × -	N 22° E	20	-	-	飛 鳥	
S B 6686	6.6 × -	N 17° W	15	-	-	奈良前期	
S B 6690	- × -	N 14° E	10	○	東 壁	*	
S B 6693	2.6 × (2.5)	N 14° W	20	-	北 壁	*	
S B 6694	3.0 × 3.0	N 33° W	25	○	北 壁	*	
S B 6714	(3.2) × -	N 33° E	28	-	-	奈良中期	

## 遺物（土器）観察表

### 第95次調査

No.	出土場所	形 態	品 量	形状・技法の特徴	土 質	色 調	用 途	備 考	調査者
1	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.8cm (底径) 2.3cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R60
2	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.4cm (底径) 2.1cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R62
3	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.6cm (底径) 2.3cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R66
4	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.2cm (底径) 2.4cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R63
5	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.3cm (底径) 2.3cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: 内ふい黄	貯蔵	約90%	R62
6	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.8cm (底径) 2.4cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R64
7	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.4cm (底径) 2.3cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R60
8	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.9cm (底径) 2.4cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R67
9	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 17.4cm (底径) 2.4cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R61
10	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 18.0cm (底径) 2.3cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R56
11	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 14.9cm (底径) 2.4cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R64
12	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 13.2cm (底径) 2.1cm	口縁部コナガ、條部ナガ ・オサエ	中砂質を含む 粘質	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R59
13	S X 0000	土師器 鉢	(口徑) 13.8cm (底径) 2.1cm (底径) 14.2cm	外周部コナガ、内面コナガ ・オサエ、内面ナガ・オサエ、 下半部に条状工具の痕	粘質	黒 灰 内: オリーブ褐色 外: 白色の付着物あり	貯蔵	約90%	R60
14	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.5cm (底径) 2.1cm	内外面コナガ、内面コナガ	1cm程度の砂粒を 多量に含む	黒 灰 内: 内ふい黄 外: 黒	貯蔵	約90%	R15
15	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.6cm (底径) 2.1cm	内外面コナガ、内面コナガ	1cm程度の砂粒を 多量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R17
16	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.3cm (底径) 2.1cm	内外面コナガ、内面コナガ	1cm程度の砂粒を 多量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: 黒	貯蔵	約90%	R16
17	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 8.5cm (底径) 1.3cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R20
18	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.6cm (底径) 1.1cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	中砂質 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R24
19	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.3cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R18
20	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.2cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 白 外: "	貯蔵	約90%	R10
21	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.8cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 白 外: "	貯蔵	約90%	R9
22	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.5cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R8
23	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.3cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R12
24	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.5cm (底径) 1.6cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	中砂質 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R19
25	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.2cm (底径) 2.2cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 灰 白 外: "	貯蔵	約90%	R13
26	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.5cm (底径) 1.3cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R11
27	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.7cm (底径) 1.5cm	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 灰 白 外: "	貯蔵	約90%	R32
28	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.1cm (底径) 2.2cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	黒 灰 内: 灰 黄 外: "	貯蔵	約90%	R14
29	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 9.4cm (底径) 2.2cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	中砂質 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R26
30	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 10.6cm (底径) 4.4cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	粘質 内: 灰 白 外: 灰白リブ	貯蔵	約90%	R28
31	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 13.4cm (底径) 3.4cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	中砂質 内: 灰 白 外: "	貯蔵	約90%	R7
32	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 14.7cm (底径) 3.4cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	粘質 内: 灰 黄 外: "	貯蔵	約90%	R6
33	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 14.4cm (底径) 3.0cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	粘質 内: 黒 黄 外: "	貯蔵	約90%	R27
34	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 15.4cm (底径) 3.3cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	中砂質 内: 灰 白 外: "	貯蔵	約90%	R29
35	S D 0044	土師器 小皿	(口徑) 14.1cm (底径) 3.3cm)	内外面コナガ、内面コナガ	微細な砂粒を多 量に含む	粘質 内: 内ふい黄 外: "	貯蔵	約90%	R5

No.	品名	品名	仕様	取付・接続の特長	品 土	類 成	色 類	標準寸	備 考	取付番号	
40	S D1044	ロクロ土 細砂	(口径) 14.2mm (高さ) 2.3mm	内外面ロクロナデ、底部に 砂紙を貼り付	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/3 1978 7/3	完全	口部に磁器の黒色物 (油膜) が付着	R 3
41	S D1044	ロクロ土 細砂	(口径) 14.4mm (高さ) 2.3mm	内外面ロクロナデ、底部に 砂紙を貼り付	質1.0以下の砂 紙を多量に含む	良好	内：濃い黄緑 外：黄	1978 7/3	約95%		R 1
42	S D1044	ロクロ土 細砂	(口径) 14.4mm (高さ) 4.0mm	内外面ロクロナデ、底部に 砂紙を貼り付	質1.0以下の砂 紙を多量に含む	良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 7/2 1978 7/3	約95%		R 2
43	S D1044	ロクロ土 細砂	(口径) 14.2mm (高さ) 4.2mm	内外面ロクロナデ、底部に 砂紙を貼り付	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/3 1978 7/3	約95%		R 4
44	S D1044	土砂 中砂	(口径) 15.2mm (高さ) 7.2mm (高さ) 4.3mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 黄 外：黄 黄	2.97 6/3 2.97 7/3	約95%		R20
45	S K1056	土砂 粗砂	(口径) 15.2mm (高さ) 9.2mm	内外面ロクロナデ、口部細 コナデ、外部ナデ	磁器	良好	内：灰 白 外：黄	97 7/1 1978 7/3	約95%	内部に磁器の黒色物	R132
46	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 19.4mm (高さ) 9.2mm	口部細コナデ、内面ナ デ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：濃い緑 外：黄緑	7.976 6/4 1978 6/4	約95%	外部に一部黒化油付着、 内外面に磁器が多い	R140
47	S K1058	土砂 中砂	(口径) 9.1mm (高さ) 1.9mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：濃い黄緑 外：黄	1978 6/4	完全		R134
48	S K1058	土砂 中砂	(口径) 8.9mm (高さ) 1.9mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/3	ほぼ完全	磁器の黒色物	R143
49	S K1058	土砂 中砂	(口径) 9.1mm (高さ) 2.1mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	1978 7/8	約95%	外部面に磁器の黒色の多 量を含む	R142
50	S K1058	土砂 中砂	(口径) 9.4mm (高さ) 2.3mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：濃い緑 外：黄	2.976 7/4	完全		R135
51	S K1058	土砂 中砂	(口径) 9.4mm (高さ) 2.3mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/3	ほぼ完全		R144
52	S K1058	土砂 中砂	(口径) 10.8mm (高さ) 2.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄緑 外：黄	1076 6/3	ほぼ完全	内部に黒色物 (油膜) が 付着	R136
53	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 12.6mm (高さ) 2.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 外：黄	976 6/3	約95%	磁器の黒色物が多い	R127
54	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 12.4mm (高さ) 4.1mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：灰 白 外：黄	97 6/1 1978 7/3	約95%	口部に磁器の黒色物 が付着	R126
55	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 14.2mm (高さ) 2.4mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：濃い黄緑 外：黄	1978 7/3	ほぼ完全	磁器の黒色物が多い、磁器 の黒色物が多い	R128
56	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 2.4mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 黄 外：黄 黄	2.97 6/3 2.97 6/1	約95%	内部に黒色物 (油膜) が 付着	R133
57	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 14.2mm (高さ) 4.3mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：灰 白 外：黄	2.97 6/3	約95%		R122
58	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 12.8mm (高さ) 3.9mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 外：黄	976 6/3	約95%		R141
59	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 2.3mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	1978 6/4	約95%	磁器の黒色物が多い	R129
60	S K1058	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 2.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/3	約95%		R130
61	S K1062	ロクロ土 細砂	(口径) 8.1mm (高さ) 2.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	1978 6/4	約95%		R166
62	S K1062	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 3.3mm	全面ナデ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄 黄 外：黄	2.97 6/4	約95%	磁器の黒色物	R144
63	S K1062	土砂 粗砂	(口径) 15.4mm (高さ) 3.2mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	7.976 6/4	約95%		R165
64	S K1062	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 2.8mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄 外：黄	7.976 7/8	約95%		R169
65	S K1062	土砂 粗砂	(口径) 19.2mm (高さ) 3.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄 外：黄	976 7/8	約95%		R168
66	S K1062	土砂 粗砂	(口径) 14.8mm (高さ) 2.6mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	1978 6/4	約95%		R167
67	S K1065	土砂 中砂	(口径) 8.5mm (高さ) 1.7mm	全面ナデ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	中々良好	内：黄緑 外：黄	1978 6/4	約95%		R161
68	S K1065	土砂 粗砂	(口径) 13.8mm (高さ) 2.4mm	口部細コナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を多 量に含む	良好	内：黄緑 外：黄	1978 6/4	約95%		R160
69	S X1062	土砂 中砂	(口径) 6.8mm (高さ) 1.6mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：濃い黄色 外：黄	7.976 6/4	約95%		R16
70	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.8mm (高さ) 1.3mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	976 7/8	ほぼ完全		R116
71	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.2mm (高さ) 0.8mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	7.976 7/8	完全		R168
72	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.8mm (高さ) 1.3mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	7.976 7/8	約95%		R165
73	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.2mm (高さ) 1.1mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	7.976 7/8	約95%		R16
74	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.6mm (高さ) 1.2mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：濃い黄色 外：黄	7.976 7/4	約95%		R17
75	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.2mm (高さ) 1.1mm	外面ナデ・オオエ、内面ナ デ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	7.976 7/8	約95%		R17
76	S X1062	土砂 中砂	(口径) 7.1mm (高さ) 0.9mm	口部細ナデ、外部ナデ ・オオエ	磁器の砂紙を含む	良好	内：黄 色 外：黄	7.976 6/3	約95%		R18

No.	山土番号	部 類	品 名	用途・採出の特長	新 土	用 途	色 調	採 取 産 地	備 考	登録番号
77	S X 692	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R108
78	S X 693	土砂類 小粒	(口徑) 1.4mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 6/9	埋設OK	R107
79	S X 694	土砂類 小粒	(口徑) 1.3mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R101
80	S X 695	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R126
81	S X 696	土砂類 小粒	(口徑) 1.2mm (篩孔) 1.1mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 4/9	埋設OK	R106
82	S X 697	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.2mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R102
83	S X 698	土砂類 小粒	(口徑) 1.4mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄褐色 外： "	7.9% 6/4	埋設OK	R132
84	S X 699	土砂類 小粒	(口徑) 1.7mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	砂が少な過ぎい R111
85	S X 700	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.3mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R116
86	S X 701	土砂類 小粒	(口徑) 1.4mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R123
87	S X 702	土砂類 小粒	(口徑) 1.3mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R100
88	S X 703	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 6/4	埋設OK	R108
89	S X 704	土砂類 小粒	(口徑) 1.2mm (篩孔) 1.3mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R100
90	S X 705	土砂類 小粒	(口徑) 1.2mm (篩孔) 1.1mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R119
91	S X 706	土砂類 小粒	(口徑) 1.2mm (篩孔) 1.1mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄褐色 外： "	7.9% 6/4	埋設OK	R121
92	S X 707	土砂類 小粒	(口徑) 1.1mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 6/9	埋設OK	R109
93	S X 708	土砂類 小粒	(口徑) 1.3mm (篩孔) 1.3mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R105
94	S X 709	土砂類 小粒	(口徑) 1.4mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 6/9	埋設OK	R104
95	S X 710	土砂類 小粒	(口徑) 1.3mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄褐色 外： "	9/9% 6/4	埋設OK	R109
96	S X 711	土砂類 小粒	(口徑) 1.8mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R102
97	S X 712	土砂類 小粒	(口徑) 1.6mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	外層の腐植土多い R114
98	S X 713	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.1mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R115
99	S X 714	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	9/9% 7/9	埋設OK	R102
100	S X 715	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	9/9% 7/9	埋設OK	砂が少な過ぎい R102
101	S X 716	土砂類 小粒	(口徑) 1.6mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R117
102	S X 717	土砂類 小粒	(口徑) 1.6mm (篩孔) 1.2mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R112
103	S X 718	土砂類 小粒	(口徑) 1.2mm (篩孔) 1.3mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R101
104	S X 719	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R101
105	S X 720	土砂類 小粒	(口徑) 1.6mm (篩孔) 1.5mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R112
106	S X 721	土砂類 小粒	(口徑) 1.6mm (篩孔) 1.1mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	2.9% 7/9	埋設OK	R115
107	S X 722	土砂類 小粒	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.3mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄褐色 外： "	7.9% 6/4	埋設OK	R120
108	S X 723	ロクロ土 調整 品	(口徑) 1.5mm (篩孔) 1.5mm	外層ヨコナヅ、内層ナゾ 土層に赤粉を混ぜたナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄褐色 外： "	3.97 6/9	埋設OK	R125
109	S X 724	土砂類 品	(口徑) 12.0mm (篩孔) 3.1mm	口籠部コナヅ、外層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R104
110	S X 725	土砂類 品	(口徑) 12.0mm (篩孔) 2.5mm	口籠部コナヅ、外層ナゾ ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：黄 色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R120
111	S X 726	土砂類 品	(口徑) 12.0mm (篩孔) 2.5mm	口籠部コナヅ、外層ナゾ ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/4	埋設OK	R109
112	S X 727	土砂類 品	(口徑) 11.0mm (篩孔) 2.7mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	7.9% 7/9	埋設OK	R103
113	S X 728	土砂類 品	(口徑) 11.0mm (篩孔) 2.8mm	外層ナゾ・オサエ、内層ナゾ	埋設を妨げない	良好	内：濃い褐色 外： "	9/9% 7/4	埋設OK	R105

No.	品名	規格	特徴・用途の特長	用途	仕様	色	価格	備	備考	仕掛番号
114	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周オキ ス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・緑色 外：黒	1078 7/4	90%		R176
115	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.1cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒色 外：黒	978 7/8	90%	庭園専用	R171
116	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	外周オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%		R172
117	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周オキ ス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%		R173
118	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.7cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒色 外：黒	7.978 7/8	90%		R181
119	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周オキ ス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%		R178
120	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周オキ ス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%		R174
121	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.4cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%	実 券	R179
122	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒色 外：黒	7.978 7/8	90%		R178
123	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.3cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%	90%	R182
124	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.5cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%	実 券	R177
125	S X 6682	土壌改良 (口徑) 15.5cm (高さ) 2.1cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黒色 外：黒	7.978 7/8	90%		R180
126	S X 6686	土壌改良 小袋 (口徑) 8.5cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%	満了する数量迄	R188
127	S X 6686	土壌改良 小袋 (口徑) 8.35cm (高さ) 2.1cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%	満了する数量迄	R188
128	S X 6686	土壌改良 小袋 (口徑) 8.4cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%	満了する数量迄	R187
129	S X 6686	土壌改良 小袋 (口徑) 8.3cm (高さ) 1.7cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	1078 6/3	90%		R188
130	S K 6671	土壌改良 目 (口徑) 8.15cm (高さ) 1.8cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	良好	内：黄褐色 外：黒	2.978 6/3	90%	実 券	R184
131	S K 6671	土壌改良 目 (口徑) 14.1cm (高さ) 4.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：こぶった黄褐色 外：黒	1078 6/4	90%	庭園専用	R186
132	S K 6671	土壌改良 目 (口徑) 14.3cm (高さ) 4.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：こぶった黄褐色 外：黒	1078 7/3	90%		R181
133	S K 6671	土壌改良 目 (口徑) 16.4cm (高さ) 4.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	2.97 7/4	90%	口徑の1/4 以下は	R188
134	S K 6681	土壌改良 小袋 (口徑) 9.5cm (高さ) 1.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	やや悪い	内：灰白色 外：黒	2.97 6/2	90%		R187
135	S K 6684	口径土 層改良 小袋 (口徑) 8.5cm (高さ) 1.8cm	口徑部ココナツ、外周口 コナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黄褐色 外：黒	3.97 6/3	90%	庭園専用特約品、口 径土改良	R148
136	S K 6684	口径土 層改良 小袋 (口徑) 9.7cm (高さ) 1.4cm	口徑部ココナツ、外周口 コナツ	庭	良好	内：灰白色 外：黒	3.97 6/2	90%	庭園専用特約品	R154
137	S K 6686	口径土 層改良 特約品 (口徑) 8.1cm (高さ) 2.5cm (口徑) 4.5cm	口徑部ココナツ、外周口 コナツ、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	良好	内：灰白色 外：黒	2.97 6/2	90%	庭園専用特約品	R186
138	S K 6681	土壌改良 特約品 (口徑) 8.6cm (高さ) 2.5cm	砕砕混合部ココナツ ・外周口コナツ	庭	良好	内：黄褐色 外：黒	2.97 6/3	90%	混合部のみ 実 券	R186
139	S K 6684	土壌改良 目 (口徑) 13.5cm (高さ) 3.7cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭	良好	内：黄褐色 外：黒	2.97 6/3	90%	庭園専用・内周に丸 心、実券	R148
140	S K 6684	土壌改良 目 (口徑) 14.5cm (高さ) 3.7cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：黄褐色 外：黒	2.97 6/3	90%		R149
141	S K 6681	土壌改良 目 (口徑) 8.5cm (高さ) 1.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ	庭園や砂場含む	良好	内：灰白色 外：黒	2.97 6/2	90%	庭園専用特約品	R183
142	S K 6684	土壌改良 小袋 (口徑) 9.7cm (高さ) 1.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%	庭園専用特約品に 含む	R147
143	S K 6684	土壌改良 小袋 (口徑) 9.7cm (高さ) 2.8cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	良好	内：黒い・黄褐色 外：黒	1078 7/4	90%	庭園専用特約品に 含む	R148
144	S K 6681	土壌改良 目 (口徑) 15.3cm (高さ) 2.5cm	口徑部ココナツ、外周ナツ ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む 庭に含む	良好	内：黄褐色 外：黒	7.978 6/3	90%	実 券	R150
145	S K 6681	土壌改良 目 (口徑) 12.8cm (高さ) 2.3cm	外周ナツ・オキス、内周ナツ	庭園や砂場含む	やや悪い	内：黒色 外：黒	7.978 7/8	90%		R181
146	S K 6647	口径土 層改良 特約品 (口徑) 14.4cm (高さ) 5.5cm (口徑) 6.7cm	口徑部・砕砕混合部ココ ナツ、外周口コナツ	庭園や砂場含む	やや悪い	内：黄褐色 外：黒	2.97 6/4	90%	庭園専用特約品	R186
147	J-27 特約品	庭園改良 内周改良 (口徑) 11.8cm (高さ) 2.5cm	砕砕ココナツ、砕砕部に 砕砕・砕砕・砕砕、砕砕に内 周ナツ	庭園の中心改良 ココナツ	良好	内：くすんだ灰白色 外：黒	97 7/3	90%	口徑の1/4 以下	R181
148	J-25 特約品	庭園改良 内周改良 (口徑) 16.4cm (高さ) 3.4cm	砕砕ココナツ、砕砕改良	庭	良好	内：灰白 外：黒	97 6/2	90%	口徑の1/4 以下	R182

No.	出土遺物	形 態	検 査	調査・採集の時期	出 土	産 地	色 澤	保存度	備 考	登録番号
149	H-2 鉄器	鉄製 (口徑) 5.8cm (高さ) 1.8cm		内内面のクロナデ	鉄	良 好	内：黒褐色 外：灰土 鉄土：灰白	57 4/7	磁器の心	R171
150	瓦 土	青 磁 (口徑) 12.2cm (高さ) 2.7cm (厚さ) 3.2cm		磁出し瓦板、内面に黒い斑	磁	良 好	内：灰褐色 外： 鉄土：灰白	57 7/1	陶器の1/4 全周縁部 磁器瓦板	R172
151	S 03094	青 磁 (口徑) 6.5cm (高さ) 4.2cm		磁出し瓦板、内面に黒い斑	磁	良 好	内：灰褐色 外： 鉄土：灰1-F	57 4/2	磁器の1/4 全周縁部 磁器瓦板	R174
152	O-22 F1+2	磁器の破 片1枚 (口徑) 6.7cm (高さ) 4.7cm		外周のクロナデ 内へラケツキ	磁	良 好	内：黒褐色 外： 鉄土：灰白	57 4/1	磁器の1/3	R173
153	S 03095	磁器の破 片1枚 (口徑) 29.5cm (高さ) 14.5cm		内周のクロナデ 内周のクロナデ	磁	良 好	内：磁器内面にのみ黒い斑 外： 鉄土：灰白	57 7/1	磁器の1/4	R175
154	S 03094	土 磁 (口徑) 4.1cm (高さ) 1.9cm (厚さ) 2.8g		磁器ナデ	磁	良 好	黄黒 2.977/3 - 黄黒 2.979/1		定 存	R176
155	S 03094	土 磁 (口徑) 4.1cm (高さ) 1.4cm (厚さ) 3.5g		磁器ナデ	磁	良 好	に白い斑	1978 4/3	定 存	R177
156	S 03094	土 磁 (口徑) 4.1cm (高さ) 1.1cm (厚さ) 3.7g		磁器ナデ	磁	良 好	灰 57 4/1		定 存	R178
157	S 03071	土 磁 (口徑) 5.1cm (高さ) 1.2cm (厚さ) 3.9g		磁器ナデ	磁	良 好	黄黒 2.974/1 - 黄黒 2.976/3		定 存	R179
158	S 03071	土 磁 (口徑) 6.2cm (高さ) 1.3cm (厚さ) 18.7g		磁器ナデ	磁	良 好	に白い斑	1978 7/4	定 存	R179

### 第 9 次調査

No.	出土遺物	形 態	検 査	調査・採集の時期	出 土	産 地	色 澤	保存度	備 考	登録番号	
1	S 03094	土製磁 器 (口徑) 22.8cm (高さ) 2.8cm		磁器のコナデ、内外面ナ デ	磁器	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	7.978 7/4	約95%保存	R12	
2	S 03094	土製磁 器 (口徑) 26.5cm (高さ) 2.0cm		ナデ法が 磁器のため表面 磁器不明	磁器	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	978 7/5	約95%保存	R1	
3	S 03094	土製磁 器 (口徑) 11.4cm (高さ) 3.4cm		磁器のコナデ、内面ナ デ、外周ナ、オサエ	磁器	良 好	内：褐色 外：に黒い黄褐色	1978 4/1 1978 4/4	約75%保存 内面に磁器の付着	R13	
4	S 03094	土製磁 器 (口徑) 14.1cm (高さ) 11.4cm		磁器のコナデ、内面ナ デ、外周ナ、オサエ	磁器の破片磁器の 中ナデ	良 好	内：に白い褐色 外： 鉄土：灰	978 4/4	約95%保存 一部褐色の付着	R15	
5	S 03094	土製磁 器 (口徑) 26.8cm (高さ) 3.8cm		磁器のコナデ、内面ナ デ、外周ナ、オサエ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	978 4/4	約95%保存	R17	
6	S 03094	磁器の 破片 (口徑) 17.5cm (高さ) 3.9cm (厚さ) 12.6cm		磁器のコナデ、内外面 ナデ、磁器コナデ	磁	良 好	内：褐色 外：オリーブ褐色	8 4/2 197 3/2	磁器の1/4	R16	
7	S 03094	磁器の 破片 (口徑) 3.6cm		磁器のコナデ、外周 のナデ、内面ナ	磁	良 好	内：オリーブ灰色 外： 鉄土：灰	2.987 4/1	約95%保存	つまみ磁器	R18
8	S 03094	磁器の 破片 (口徑) 18.4cm (高さ) 3.6cm		磁器のコナデ、内外面 ナデ	磁	あまり破	内：オリーブ色 外： 鉄土：灰	97 4/2	約95%保存	R19	
9	S 03094	土製磁 器 (口徑) 12.8cm (高さ) 2.1cm		磁器のコナデ、内外面 ナデ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.978 5/9	約95%保存	つまみ磁器	R11
10	S 03094	土製磁 器 (口徑) 26.4cm		磁器のコナデ、内外面 ナデ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	978 6/9	約95%保存	全周縁部黒い	R110
11	S K0095	黄 銅 器 (山形城) (口徑) 18.9cm (高さ) 5.7cm		磁器のコナデ、外周 のナデ、内面ナ、磁器 コナデ	磁	良 好	内：灰白色 外： 鉄土：灰	978 7/1	約95%保存	内面足込み等付着に褐色 の付着	R14
12	S K0095	土製磁 器 (口徑) 25.9cm (高さ) 18.2cm		磁器のコナデ、内外面 ナデ、オサエ	約1cm以下の砂 粒を多数含む	良 好	内：褐色 外：黄褐色	2.97 7/3 1978 5/2	磁器の1/4	外周ナデ付着	R115
13	S K0092	土製磁 器 (口徑) 7.8cm (高さ) 8.9cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	R125	
14	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.6cm (高さ) 2.7cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	同心内面に磁器の付着	R116
15	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.8cm (高さ) 2.3cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	R117	
16	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.6cm (高さ) 2.8cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	破片完了	R118	
17	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.6cm (高さ) 2.4cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	破片完了	R119	
18	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.4cm (高さ) 2.9cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	完了	R120	
19	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.6cm (高さ) 3.1cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	破片完了	R121	
20	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.3cm (高さ) 2.6cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	R122	
21	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.4cm (高さ) 2.7cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	R123	
22	S K0092	土製磁 器 (口徑) 11.2cm (高さ) 2.8cm		内面ナデ、外周ナデ、オサ エ	磁	良 好	内：褐色 外： 鉄土：灰	2.97 4/3	約95%保存	R124	

No.	出土地名	産種	産量	産種・産法の特長	産土	産成	色調	採寸	備考	産物番号	
33	S K 692	土師器 (古瓦)	30.5m (容積) 11.2m	口縁コナダ、内外面ナダ ・オエ	産物化砂質多量に含む	良好	内：に濃い黄褐色 外：一混褐色	100 7/3 100 7/1	口縁のみ	R29	
34	S X 698	土師器 (古瓦)	31.5m (容積) 12.9m	口縁コナダ、内面ナダ	産物	良好	内：に濃い黄褐色 外：一混褐色	100 7/3 100 4/2	口縁のみ	内面にうすく産物化付着	R32
35	S X 698	土師器 (古瓦)	30.5m (容積) 12.2m	口縁コナダ、内面ナダ	産物	良好	内：に濃い黄褐色 外：混褐色	100 6/2 100 4/1 100 4/2	口縁のみ	外面に多量にオエ付着	R33
36	S D 476	土師器 小皿	3.1m (容積) 1.1m	口縁コナダ、内外面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：に濃い黄褐色 外：一混褐色	100 5/4	口縁のみ		R41
37	S D 476	土師器 (古瓦)	15.1m (容積) 5.5m	口縁コナダ、内面ナダ 内面ナダ・オエ	産物化砂質多量に含む	やや悪まい	内：黄褐色 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ		R32
38	S D 476	コロコロ 形器	2.8m (容積) 0.9m	内外面コロコロナダ	産物	良好	内：黄褐色 外：一混褐色	100 4/4	口縁のみ	産物化砂質多量に含む	R25
39	S D 476	陶器 小瓶	3.8m (容積) 4.2m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：に濃い黄褐色 外：混褐色	90 4/4 91 8/1	口縁のみ	内面に産物化付着	R44
40	S D 476	陶器 蓋	4.1m (容積) 0.9m	内面コロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白色 外：一混褐色	91 4/1	口縁のみ	外面に産物化付着	R31
41	S D 476	陶器 小皿	3.3m (容積) 2.1m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含むが産物化 量多い	良好	内：灰白色 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ		R44
42	S D 476	陶器 小皿 (古瓦)	3.8m (容積) 2.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白色 外：一混褐色	91 4/1	口縁のみ	内面に産物化付着	R42
43	S D 476	陶器 小皿 (古瓦)	3.8m (容積) 2.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ		R39
44	S D 476	陶器 小皿 (古瓦)	3.8m (容積) 2.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ	口縁部上面に一部産物 化付着	R47
45	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	15.3m (容積) 5.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含むが 産物化量多い	やや悪まい	内：黄褐色 外：一混褐色	2.0 7/2	口縁のみ		R27
46	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	14.2m (容積) 5.2m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	2.0 7/1	口縁のみ		R33
47	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	14.8m (容積) 5.2m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：やや白い灰白 外：一混褐色	2.0 7/1	口縁のみ		R31
48	S D 476	陶器 上蓋 (古瓦)	15.2m (容積) 5.2m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む 2.0m程度の産物化 層が付着	良好	内：やや白い灰白 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ	内面に自然産物の粉チレ	R32
49	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	5.4m (容積) 6.1m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰 外：一混褐色	91 4/1	口縁のみ		R34
49	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	15.2m (容積) 5.4m	口縁コナダ、内面ナダ 内面コロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ		R29
41	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	15.6m (容積) 5.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ		R25
42	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	15.6m (容積) 5.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰黄 外：一混褐色	2.0 7/2	口縁のみ	口縁部、外周下半部に産物 化付着	R24
42	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	4.8m (容積) 0.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ、底面ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ		R31
44	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	18.9m (容積) 3.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：濃褐色の自然産 物・灰白	91 7/1	口縁のみ		R39
45	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.4m (容積) 7.7m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：黄褐色 外：一混褐色	2.0 7/2	口縁のみ		R49
46	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.5m (容積) 7.9m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む 2.0m程度の産物化 層が付着	良好	内：灰 外：一混褐色	91 4/1	口縁のみ		R27
47	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.4m (容積) 7.8m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/2	口縁のみ	内面に一混褐色の付着 層	R26
48	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.8m (容積) 4.7m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：黄灰 外：一混褐色	2.0 4/1	口縁のみ		R48
49	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	2.8m (容積) 4.7m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	7.0 4/1	口縁のみ	内面に自然産物の付着	R46
50	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.8m (容積) 5.9m	口縁コナダ、内外面コ ロナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ	内面に産物化付着	R43
51	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.4m (容積) 4.2m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ	口縁部欠損部打直しの上 で使われ、内面から産物 化に産物化砂質多量に付着する	R44
52	S D 476	陶器 蓋 (古瓦)	3.1m (容積) 6.1m	内外面コロナダ、底面 ナダ	産物化砂質多量に含む	良好	内：灰白 外：一混褐色	91 7/1	口縁のみ		R28



No.	品名	規格	寸法	特徴・採寸の特長	産土	形状	色	重量	取付寸	備	記号	取付寸
93	A型T-3 土砂管	土砂管 品	(口径) 31.4mm (高さ) 35.0mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ハケ、底面付ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
94	S-D4500	土砂管 品	(口径) 11.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径平端ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
95	S-D4500	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径平端ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
96	S-D4500	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 5.3mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
97	S-D4500	土砂管 品	(口径) 14.8mm (高さ) 3.2mm	自動洗浄コナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
98	S-D4500	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 18.2mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
99	S-D4500	土砂管 品	(口径) 12.2mm (高さ) 15.5mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
100	S-D4500	土砂管 品	(口径) 11.2mm (高さ) 11.8mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
101	S-D4500	土砂管 品	(口径) 18.4mm (高さ) 11.8mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
102	S-D4500	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 18.7mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
103	S-D4500	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 18.2mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
104	S-D4500	汚濁浄 器	(口径) 8.8mm (高さ) 2.3mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	4.7g/本	取付寸			取付寸
105	S-D4500	汚濁浄 器	(口径) 18.8mm (高さ) 18.2mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	5.3g/本	取付寸			取付寸
106	S-D4502	汚濁浄 器	(口径) 2.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
107	S-D4502	汚濁浄 器	(口径) 11.2mm (高さ) 11.8mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	9.7g/本	取付寸			取付寸
108	S-K4700	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 3.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
109	S-K4700	土砂管 品	(口径) 14.1mm (高さ) 4.1mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
110	S-K4700	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
111	S-K4700	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 12.9mm	自動洗浄コナダ、内径コ ハケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
112	S-K4700	土砂管 品	(口径) 21.8mm (高さ) 14.7mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
113	S-K4700	土砂管 品	(口径) 24.8mm (高さ) 23.2mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
114	S-K4700	土砂管 品	(口径) 28.8mm (高さ) 23.2mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
115	S-K4700	土砂管 品	(口径) 25.8mm (高さ) 23.2mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
116	S-K4700	土砂管 品	(口径) 11.8mm (高さ) 3.4mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
117	S-K4700	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 3.5mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
118	S-K4700	汚濁浄 器	(口径) 18.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
119	S-K4700	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 17.8mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
120	S-K4710	土砂管 品	(口径) 16.2mm (高さ) 2.4mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
121	S-K4710	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 2.7mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	2.97g/本	取付寸			取付寸
122	S-K4710	土砂管 品	(口径) 11.8mm (高さ) 2.9mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
123	S-K4710	土砂管 品	(口径) 21.8mm (高さ) 12.7mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	976g/本	取付寸			取付寸
124	S-B4700	汚濁浄 器	(口径) 6.7mm (高さ) 12.7mm	自動洗浄コナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	3.97g/本	取付寸			取付寸
125	S-B4700	土砂管 品	(口径) 14.8mm (高さ) 25.8mm	自動洗浄コナダ、内径コハ ケ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	1076g/本	取付寸			取付寸
126	S-K4715	土砂管 品	(口径) 18.8mm (高さ) 2.8mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
127	S-K4715	土砂管 品	(口径) 14.8mm (高さ) 3.2mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
128	S-K4715	土砂管 品	(口径) 13.8mm (高さ) 2.1mm	自動洗浄コナダ、内径ナダ 外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	7.97g/本	取付寸			取付寸
129	F底 6-2 F1-2	土砂管 品	(口径) 12.8mm (高さ) 5.7mm	内径ナダ、外径ナダ	福岡合併管工 事所	良好	内：黒 外：黒	976g/本	取付寸			取付寸

第98次調査

No.	出土遺物	数量	形状・使用の時期	出土	構成	色	器	保存度	備考	登録番号	
1	5-K-6753	土師器 片	(口徑) 11.5cm (底径) 7.4cm (高さ) 2.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%	器底面に黒色物ヤナブ付	R18
2	5-K-6754	土師器 片	(口徑) 14.7cm (底径) 10.7cm (高さ) 2.0cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黒い黄 外：黄	7.00% 6/9 7.00% 6/9	900%		R17
3	5-K-6755	土師器 片	(口徑) 14.5cm (底径) 10.5cm (高さ) 2.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 7/9 7.00% 6/9	900%	器底面に黒色物	R19
4	5-K-6756	土師器 片	(口徑) 15.5cm (底径) 11.5cm (高さ) 2.3cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	100% 6/9	900%	全面黒色ヤナブ	R14
5	5-K-6757	土師器 片	(口徑) 14.7cm (底径) 10.7cm (高さ) 2.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9 5.00% 6/9	900%	器底面に黒色物ヤナブ付	R19
6	5-K-6758	土師器 片	(口徑) 16.5cm (底径) 12.5cm (高さ) 1.9cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 6/9	900%		R13
7	5-K-6759	土師器 片	(口徑) 16.5cm (底径) 12.5cm (高さ) 2.7cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9 7.00% 7/9	900%		R21
8	5-K-6760	土師器 片	(口徑) 15.5cm (底径) 11.5cm (高さ) 2.7cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	100% 6/9	900%		R15
9	5-K-6761	土師器 片	(口徑) 11.5cm (底径) 7.5cm (高さ) 2.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%	器底面に黒色物の透かし状の痕跡	R11
10	5-K-6762	土師器 片	(口徑) 17.5cm (底径) 13.5cm (高さ) 2.4cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%		R16
11	5-K-6763	土師器 片	(口徑) 9.5cm (底径) 5.5cm (高さ) 2.3cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%		R12
12	5-K-6764	土師器 片	(口徑) 12.5cm (底径) 8.5cm (高さ) 3.0cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黒い黄 外：黄	7.00% 7/9 7.00% 6/9	900%	器底面に黒色物	R18
13	5-K-6765	土師器 片	(口徑) 13.5cm (底径) 9.5cm (高さ) 2.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9 7.00% 7/9	完好		R19
14	5-K-6766	土師器 片	(口徑) 12.4cm (底径) 8.4cm (高さ) 3.0cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 6/9 7.00% 7/9	完好		R11
15	5-K-6767	土師器 片	(口徑) 12.2cm (底径) 8.2cm (高さ) 3.1cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%	外周に黒色物が若干付	R10
16	5-K-6768	土師器 片	(口徑) 12.5cm (底径) 8.5cm (高さ) 3.4cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%	外周に黒色物が器底面に 若干欠く欠損部がある	R18
17	5-K-6769	土師器 片	(口徑) 11.7cm (底径) 7.7cm (高さ) 3.3cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 7/9	900%		R17
18	5-K-6770	土師器 片	(口徑) 12.5cm (底径) 8.5cm (高さ) 3.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%		R13
19	5-K-6771	土師器 片	(口徑) 12.9cm (底径) 8.9cm (高さ) 3.3cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%	内面に黒付、器底面に黒	R17
20	5-K-6772	土師器 片	(口徑) 13.5cm (底径) 9.5cm (高さ) 3.4cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	100% 6/9	900%	内面に黒ヤナブの透かし状 と黒色物付、内面に黒 色物がゴマム気に行	R16
21	5-K-6773	土師器 片	(口徑) 13.4cm (底径) 9.4cm (高さ) 3.1cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 6/9 7.00% 6/9	900%		R14
22	5-K-6774	土師器 片	(口徑) 12.5cm (底径) 8.5cm (高さ) 2.7cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	50% 7/9	900%		R1
23	5-K-6775	土師器 片	(口徑) 12.6cm (底径) 8.6cm (高さ) 3.2cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黒い黄 外：黄	7.00% 6/9 7.00% 6/9	900%		R17
24	5-K-6776	土師器 片	(口徑) 12.8cm (底径) 8.8cm (高さ) 3.2cm	口縁部コナダ、底部ナダ	陶器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 6/9	900%	内面に黒色物がゴマム気 に付	R13
25	5-K-6743	土師器 片	(口徑) 14.2cm (底径) 10.2cm (高さ) 1.8cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	7.00% 7/9	900%		R10
26	5-K-6744	土師器 片	(口徑) 14.1cm (底径) 10.1cm (高さ) 1.5cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	完好		R14
27	5-K-6745	土師器 片	(口徑) 14.5cm (底径) 10.5cm (高さ) 1.4cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%		R12
28	5-K-6746	土師器 片	(口徑) 15.5cm (底径) 11.5cm (高さ) 1.9cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	50% 7/9	900%		R17
29	5-K-6747	土師器 片	(口徑) 13.5cm (底径) 9.5cm (高さ) 1.8cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	50% 6/9	900%		R14
30	5-K-6748	土師器 片	(口徑) 14.5cm (底径) 10.5cm (高さ) 1.6cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	50% 7/9	900%		R16
31	5-K-6749	土師器 片	(口徑) 14.5cm (底径) 10.5cm (高さ) 2.0cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	50% 7/9	900%		R13
32	5-K-6750	土師器 片	(口徑) 14.5cm (底径) 10.5cm (高さ) 3.1cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	7.00% 7/9	900%		R11
33	5-K-6751	土師器 片	(口徑) 14.3cm (底径) 10.3cm (高さ) 3.0cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	黒野	内：黄 外：黄	50% 7/9	900%		R13
34	5-K-6752	土師器 片	(口徑) 14.2cm (底径) 10.2cm (高さ) 2.8cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	100% 6/9	900%		R11
35	5-K-6753	土師器 片	(口徑) 15.2cm (底径) 11.2cm (高さ) 3.1cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	7.00% 6/9	完好		R17
36	5-K-6754	土師器 片	(口徑) 12.5cm (底径) 8.5cm (高さ) 2.8cm	口縁部コナダ、底部ナダ	器	中々高さい	内：黄 外：黄	100% 6/9	完好		R14

No.	品名	規格	寸法	特徴・使用の注意	原土	用途	色	単位	在庫	備考	発注番号
37	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.8mm (高さ) 2.3mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 7/6	完売		R181
38	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.1mm (高さ) 2.8mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	7.97 7/6	ほぼ完売		R88
39	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.8mm (高さ) 2.5mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	やや赤い	悪まい	内：黄 外：黄	2.97 6/9	約9%		R99
40	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.8mm (高さ) 2.1mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	7.97 6/9	完売		R88
41	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.2mm (高さ) 2.4mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	植物多量に含む やや赤	悪まい	内：黄 外：黄	7.97 7/1	約9%		R99
42	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.2mm (高さ) 2.7mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	クサリ雑草多量に 含む	悪まい	内：暗黄 外：黄	2.97 6/9	完売	底部の砂が少し多く、砂 裏面が硬質らしい。	R88
43	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.8mm (高さ) 2.4mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	クサリ雑草多量に 含む	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 7/1 2.97 7/6	完売		R186
44	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.8mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 7/9	完売		R114
45	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.6mm (高さ) 2.6mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	7.97 6/9	ほぼ完売		R99
46	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.6mm (高さ) 2.3mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	悪まい	内：黄 外：黄	97 7/9	約9%		R99
47	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.7mm (高さ) 2.4mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 6/9	約9%		R64
48	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.7mm (高さ) 1.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 7/6	約9%		R81
49	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.6mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 7/6	約9%		R88
50	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.7mm (高さ) 3.3mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 7/6 2.97 7/9	完売		R185
51	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.6mm (高さ) 2.8mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	97 6/9	約9%		R110
52	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.7mm (高さ) 2.4mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 6/9	ほぼ完売		R120
53	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.8mm (高さ) 2.5mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 7/6	ほぼ完売		R119
54	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 14.4mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	97 7/9	約9%		R121
55	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 29.4mm (高さ) 12.6mm	体部コナダ、4mmのハケ、下 部コナダ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/6	約9%		R126
56	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 15.6mm (高さ) 15.6mm	体部コナダ、6mmのハケ、内 部コナダ、下部コナダ	黄	やや悪まい	内：黄 外：黄	107 6/4	約9%	底部の砂が少し多く、内 部に植物の根が伸びる	R123
57	S K 4743	腐敗 腐敗	(口径) 21.9mm (高さ) 5.6mm	体部コナダ、内部コナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 6/1 2.97 6/1	約9%	コロコロ物	R213
58	S K 4743	腐敗 腐敗	(口径) 24.8mm (高さ) 14.9mm	体部コナダ、内部コナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 7/9	約9%	コロコロ物	R209
59	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 11.2mm (高さ) 3.2mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/4	約9%	底部の砂が少し	R179
60	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.8mm (高さ) 3.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 7/4 107 6/4	完売		R172
61	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 12.1mm (高さ) 2.7mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 7/6 107 6/4	ほぼ完売		R173
62	S K 4743	土壌腐 敗	(口径) 17.6mm (高さ) 2.7mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	2.97 6/4	約9%		R176
63	S K 4752	土壌腐 敗	(口径) 10.7mm (高さ) 4.6mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ、肥料混合	黄	良好	内：黄 外：黄	97 7/6	完売		R172
64	S K 4752	土壌腐 敗	(口径) 15.7mm (高さ) 4.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ、肥料混合	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 7/4	約9%		R174
65	S K 4752	土壌腐 敗	(口径) 8.6mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	2.97 6/9 97 7/6	約9%	内面にへばり付く	R187
66	S D 4750	腐敗土腐 敗	(口径) 11.2mm (高さ) 1.2mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 6/1 97 6/1	約9%	腐敗土腐	R227
67	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 11.2mm (高さ) 1.4mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 7/9 107 6/4	約9%		R186
68	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 11.4mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/9 2.97 6/9	約9%		R192
69	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 12.4mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/4 107 6/2	約9%		R193
70	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 13.2mm (高さ) 3.7mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/4 2.97 7/9	約9%	粘土層が少し	R181
71	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 12.8mm (高さ) 2.9mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ	黄	良好	内：黄 外：黄	107 6/9	約9%		R191
72	S D 4750	土壌腐 敗	(口径) 11.7mm (高さ) 4.1mm	口腐部コナダ、体部ナダ ・オオエ、肥料混合	黄	良好	内：黄 外：黄	7.97 6/4	約9%		R184

No.	出土遺物	器種	体 量	形状・技法の特徴	出 土	備 考	色 調	保存度	備 考	登録番号	
72	S D476	土師器 合付瓶	(口径) 11.8cm (口径) 9.8cm (高さ) 2.6cm	口縁部コナデ、底部ナデ ・オウエ、貼付高台	雑器	良好	内：黄、黒 外：-	7.9/6/9 -	約80%		R196
74	S D478	土師器 合付瓶	(口径) 12.2cm (口径) 9.9cm (高さ) 2.1cm	口縁部コナデ、底部ナデ ・オウエ、貼付高台	雑	良好	内：淡黄緑 外：-	7.9/6/3 -	約70%		R198
75	S D475	土師器 合付瓶	(口径) 15.8cm (口径) 7.2cm (高さ) 4.7cm	口縁部コナデ、底部ナデ ・オウエ、貼付高台	雑	良好	内：にぶい黄緑 外：淡黄緑	10/6/3 10/6/3	約80%		R182
76	S D470	灰土師器 瓶	(口径) 15.2cm (口径) 7.7cm (高さ) 4.1cm	口縁部コナデ、底部コ ロナデ、底部ナデ、貼付高 台、灰土師器ツボナデ	雑	良好	胎：明オリブ灰 胎土：黄 黒	2.9/1/1 2.9/1/3	約60%		R183
77	S D4810	濃赤土 器	(口径) 45.2cm (口径) 13.8cm	外周平リクワキ、内周防 止文字ナデ中央ナデ、口縁部 凸リクワキ	雑器	良好	内：灰 白 外：灰 白	9/1/1 9/1/1	口縁部1/4		R187
78	N-12 P11 22他	磁器向形 平手杯底	(口径) 7.2cm (口径) 12.4cm (高さ) 21.5cm	外周でいっぺんミガキ、内 周リクワキ、ナズミ、口 縁部コナデ	雑器	良好	胎：淡緑灰一硝黄鉄 胎土：灰	9/1/1	約20%	口縁部は破損 、縁部、縁片に存	R219
79	S-7 惣倉遺址	高赤土器 高字杯	(口径) —— (口径) —— (高さ) ——	厚肉陶器に如く上方内ミ ガキ、底部中央ナデ、口 縁部高台の痕跡	雑器	良好	内：黒 外：-	7.9/2/1	約40%		R228
80	S K474 S K4747	濃赤土 内周縁 瓶	(口径) 9.2cm (口径) 14.6cm (高さ) 6.4cm	外部リクワキ、内周縁部 部に中中形するへつぎ非 対称文	雑器	良好	内：灰 白 外：-	9/1/1	約70%		R225
81	S K476	濃赤土 合付瓶 (瓶用瓶)	(口径) 17.6cm (口径) 11.2cm (高さ) 2.1cm	外部リクワキ、口縁部コ ロナデ、底部リクワキ 貼付高台	雑器	良好	内：灰 外：-	8/1/9 -	約60%	足込み部に遺存	R224
82	S D470	土師器 杯	(口径) 12.9cm (口径) 2.2cm	口縁部コナデ、底部ナデ ・オウエ	雑	ややあま	内：淡黄緑 外：-	10/6/4	約70%	底部外周に非対称 「1066666666 □P10」	R222
84	S D470	土師器 杯	(口径) 8.2cm (口径) 4.2cm (高さ) 9.5cm	口縁部コナデ、底部外周 ヘラクザリ、内周ナデ・オ ウエ、底部ナズミ	雑器	良好	内：黒 外：-	10/6/9 -	約60%		R223
85	S D470	磁器向形 瓶	(口径) 11.8cm (口径) 4.1cm (高さ) 4.1cm	口縁部コナデ、底部平 外周リクワキ、足込み 部ミガキ、貼付高台	雑器	良好	胎：地質陶 胎土：灰	7.9/5/1	約60%	足込み部に三叉トシ 痕跡	R218
86	S K472	磁器向形 瓶	(口径) 4.6cm (口径) 4.6cm (高さ) 2.1cm	口縁部コナデ、底部平 外周リクワキ、足込 み部ナデ、貼付高台	雑器	ややあま	胎：淡緑鉄 胎土：灰	9/1/1	約40%	足込み部に三叉トシ 痕跡	R217
87	N-13 惣倉遺	磁器向形 瓶	(口径) 8.4cm (口径) 2.1cm	外部リクワキ、貼付高台	雑器	良好	胎：淡緑鉄 胎土：灰 白	7.9/3/1	台部1/4	自然文 彫刻	R216
88	N-9 惣倉遺	磁器向形 瓶	(口径) 7.9cm (口径) 1.9cm	外部ミガキ、底部高台	雑器	ややあま	胎：淡緑 胎土：灰 白	9/1/1	台部1/3	自然文 彫刻	R229

注) ○ №は本書遺物実測図の番号と一致する。

○ 器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。

○ 法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ長さを示す。

○ 色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』（1988年度版）を参照した。

○ 登録番号は遺物・図面の整理及び管理上の番号で、各調査回数ごとに実測された遺物すべてに通して付されている。

### 斎宮跡発掘回数一覧表

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区
1	S45	試掘	13-6	51	中垣内375-1(南)
2	46	古里A地区	13-7		東 裏328(小川)
3		◇ B地区	13-8		西加藤2771-1(細井)
4	47	◇ C地区	13-9		◇ 2773(細井)
5	48	◇ D地区	13-10		東 裏362-1(児島)
6-1		Aトレンチ	13-11		西加藤2681-1(浮田)
6-2		Bトレンチ	13-12		◇ 2721-3、2724-2(森川)
6-3		Cトレンチ	13-13		東前沖2506-2(宮下)
6-4		Dトレンチ	14-1	52	2 Eトレンチ
6-5		Eトレンチ	14-2		2 Fトレンチ
7	49	古里B地区	14-3		2 Gトレンチ
8-1		Fトレンチ	14-4		2 Hトレンチ
8-2		Gトレンチ	14-5		2 Iトレンチ
8-3		Hトレンチ	15		斎宮小学校
8-4		Iトレンチ	16-1		竹川町道A
8-5		Jトレンチ	16-2		◇ B
8-6		Kトレンチ	16-3		◇ C
8-7		Lトレンチ	16-4		◇ D
8-8		Mトレンチ	16-5		◇ E
8-9		Nトレンチ	16-6		◇ F
8-10		Oトレンチ	17-1		竹神社社務所
8-11		Pトレンチ	17-2		竹神社防火用水
9-1	50	Qトレンチ	17-3		西加藤2721-6(西沢)
9-2		Rトレンチ	17-4		楽 殿2894-1(中川)
9-3		Sトレンチ	17-5		◇ 2895-1(西口)
9-4		Tトレンチ	17-6		出在家3237-3(吉川)
9-5		Uトレンチ	17-7		◇ 3237-1(里中)
9-6		Vトレンチ	17-8		楽 殿2894-1(西村)
9-7		Wトレンチ	17-9		東海造機
9-8		Xトレンチ	18	53	6 A E L-E・I(下層)
9-9		Yトレンチ	19		6 A E N-M・N・O(御館)
9-10		Zトレンチ	20		6 A E O-I・J(柳原)
10		広域園道路	21-1		6 A G N-B(鍛冶山、北山)
11-1		西加藤2661-1(山中)	21-2		6 A E I-D(西加藤2711-2、2717-4他、山麓)
11-2		◇ 2681-1(山名)	21-3		6 A F D-D(西前沖2649-1、大西)
11-3		東前沖2483-2(前田)	21-4		6 A F H-F(西加藤2676、2679-3、森下)
11-4		下 園2926-9(吉木)	21-5		6 A G D-K(東前沖、渡部)
12-1	51	2 Aトレンチ	21-6		6 A C A-T(古里3269-2、中西)
12-2		2 Bトレンチ	21-7		6 A F E-F(東前沖2631-1、鈴木)
12-3		2 Cトレンチ	21-8		6 A E G-A(楽殿2909-3、大西)
12-4		2 Dトレンチ	21-9		6 A E D-R(篠林3218-3、宇田)
13-1		東加藤2436-7(沢口)	22-1		6 A G U
13-2		◇ 2436-4(中村)	22-2		6 A G U
13-3		古 里3283(村上)	22-3		6 A G W
13-4		楽 殿2916-2917(松井)	23	54	6 A E L-B(下層)
13-5		舞 館2974-1(川本)	24		6 A G F-D(西加藤)

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区	
25-1	54	6ADP-K(牛養3029-1、三重土地水-4)	37-12	56	6AFH-J(西加那2661-1・3・4、渋谷)	
25-2		6ACA-Y(古里3270、脇田)	37-13		6AGK-F(西加那285-3、386-3、竹内)	
25-3		6ADD-F(篠林3139-3、池田)	38		6ACD-S(塚山)	
25-4		6AER-H(牛養3014、牛養公民館)	39		6ABD-R・S・T(古里)	
25-5		6AGN-H(鍛冶山2392、丸山)	40		6AGH-L・M(東加座)	
25-6		6AFH-A(西加那2675-5、谷口)	41		6AGJ-J他(斎宮地内)	
25-7		6AEK-V(下園2926-10、奥田)	42-1		57	6AEI-D・F(桑殿)
25-8		6AFC-D(西前沖2064-5、山本)	42-2			6AEK-A・B(桑殿)
25-9		6ACN-C(広瀬3387-1、北出)	43-1			6ADC-C(出在家3235-2、永田)
25-10		6AEV-A(鈴池339-1、永島)	43-2			6ADT-B(木葉山308-1、山本)
25-11		6ACF-B(東裏364-1、沢)	43-3			6ACP-T(南裏241-1、辻)
25-12		6AEE-Y(桑殿2892-3、山本)	43-4	6ADS-D(牛養123-3、西山)		
25-13		6AEJ-E(西加那2766-1、山内)	43-5	6ADE-D(篠林3220-3、澄野)		
26-1		6AFR(中西)	43-6	6AGE(東前沖、町道側溝)		
26-2		6AEX-6ACQ(鈴池、木葉山、南裏)	43-7	6ABD-F(古里588-6、今西)		
26-3		6AEV・W・X(鈴池)	43-8	6ADQ-H(牛養3025-2、大西)		
26-4		6ACR(木葉山、南裏)	44	6AFL-A・B(鍛冶山2759-1、他)		
27		6ACG-S・T(東裏)	45	6AEG-P・Q(桑殿2904-2、他)		
28		6AEO-D(柳原)	46	6AGN-C・D(鍛冶山2737-1、他)		
29		6AFI、6AFL、6AFK、6AFM、6AGJ	47	6ADJ-D・G他(加加野、駒橋、宮ノ原、上園)		
30		55	6ABJ-M・X・W(中畑内)	48-1	58	6AGM-M(広瀬3385、斎宮小)
31-1			6ADO-M(内山3038-13、岩見)	48-2		6ADP-Q(牛養3033-1・2、吉田)
31-2			6ACP-I(南裏227-2、鈴木)	48-3		6ABL-M(中畑内434-6、西川)
31-3			6ABD-A(古里588-4、北畠)	48-4		6AGL-B(東前沖2480、倉田)
31-4			6ADQ-T(牛養3018-2、百五銀行)	48-5		6AGD-6AFE(東前沖、町道側溝)
31-5			6ACC-G(塚山338-3、水谷)	48-6		6AGC-A(西前沖3550-1、今西)
31-6			6ABO-X(古里576-1、油田)	48-7		6ADT-H(木葉山307、森西)
31-7			6AGI-L(東加那2427-1、竹内)	48-8		6ACL-E・F・G(東裏334-15、他)
31-8			6ACN-G(広瀬3388-1・5・8・9、森)	48-9		6AEV-J(鈴池341-1、乾)
31-8	6AGD-L(北野2487-1、中川)		48-10	6AGT(牛養、町道側溝)		
31-10	6ADM-O(内山3043-3、斎宮駅)		48-11	6ADP-E(鍛冶山2351-1、2352-1、神原)		
31-11	6ADT-I(木葉山304-2、澄野)		48-12	6AFC-H(西前沖2604-8・9、清水)		
31-12	6ADT-J(木葉山304-7、宇田)		48-13	6ACM-O(東裏、斎宮小)		
32	6ACE-D・E・F(塚山)		48-14	6AET(牛養、町道側溝)		
33	6ADE-C・D他(篠林)		49	6ADI-D・U・V・W・X(上園3083、他)		
34	6ADE-F・G・H(西加那)	50	6ACH-H(東裏294、297、山本)			
35	6AFE他(西前沖)	51	6AFF-D(西加那2663-1・4、2664、森下)			
36	56	6ABI-F(中畑内)	52	6AGF-D(西加那2703、他)		
37-1		6AFC-M(西前沖2064、日本経木)	53-1	59	6ACM-P(東裏284、体育館)	
37-2		6ADQ-R(牛養3021-2、野田)	53-2		6ACA-M(古里3280-2、中西)	
37-3		6AFC-F(西前沖2604-6、神田)	53-3		6ABE(古里573-2、永橋)	
37-4		6AFC-M(西前沖2604、日本経木)	53-4		6ACL-S(東裏271-1、田所)	
37-5		6AFC-G(西前沖2064-7、中村)	53-5		6ACR(木葉山97-5、田中)	
37-6		6ABD-A(古里588-2、北畠)	53-6		6AGO(鍛冶山、町道側溝)	
37-7		6AEC-M(海干2861-2、東王公民館)	53-7		6ADD-U(篠林3147-3、野呂)	
37-8		6ADR-P(木葉山128-8・13・14、宮山)	53-8		6AGE-O(東前沖2470-2、上田)	
37-8		6AGK-E(東加那2355-1、竹内)	53-9		6ACS-O(木葉山95-2、浅尾)	
37-10		6AED-O(桑殿3217-1、渡部)	53-10		6ACAR(古里3267-1、西川)	
37-11		6ADN-O(内山3043-3、斎宮駅)	53-11		6ADR-W(木葉山131-7、西村)	

次	年度	調 査 地 区	次	年度	調 査 地 区	
53-12	59	6 ABL-K (中畑内464-2、沢)	70-10	62	6 AFD-B-D (西前沖2649-4、大西)	
53-13		6 ADQ-L (牛薬3022、辻)	70-11		6 AGO-H (鍛冶山2363-2、川合)	
53-14		6 ACM-O (東裏287-3、体育庫)	70-12		6 ADD-F-G (篠林3158、長谷川)	
53-15		6 AFK-C-D (西加座2721-1、鈴木)	70-13		6 AEC-N-G (刈干、佐藤)	
54		6 AFE-N (西前沖2630、他)	70-14		6 ABL-R (中畑内459、北岡)	
55		6 AEN-P (御原、御館2785-1、他)	70-15		6 AFD-A (西前沖2644-1、山本)	
56		6 ACH-S (東裏289-1、他)	70-16		6 ACB-A他(町道塚山線拡張)	
57	6 AGF-H-I (東加座2441、他)	71	6 ABE (古里501、他)			
58-1	60	6 AFK-C-D (西加座2721-1、鈴木)	72-1	6 ABE (古里500、他)		
58-2		6 AFH-N (西加座2681-8、三村)	72-2	6 ABF (古里523、他)		
58-3		6 ACM-N (東裏3385-2、斎宮小)	72-3	6 ABF (古里551-2、他)		
58-4		6 ABL-A (中畑内4731-1、小家)	72-4	6 ABF (古里528-1、他)		
58-5		6 ADQ-Q (牛薬、町道側溝)	73	6 AFF-B-C-E-G (西加座2663-5、他)		
58-6		6 ADR-V (木葉山131-3、西山)	74-1	6 ABF (古里523、他)		
58-7		6 AGS-G (中西611、山路)	74-2	6 ABF (古里522、他)		
58-8		6 ABM-A (中畑内430-3他、近鉄)	74-3	6 ABE-F (古里524、他)		
59		6 ACJ-I (広瀬3379-1、他)	74-4	6 ABE (古里548-1、他)		
60		6 AGJ-B-D-G (東加座2450-1、他)	74-5	6 ABE (古里543、他)		
61		6 AFF-H-I-D (西加座2663-1、他)	75	6 AGF-C (西加座2702、他)		
62		6 AGI-J-K (東加座2425、他)	76-1	63	6 ADB-A-D (町道塚山線拡張)	
63		6 AFG-M-N (西加座2659-1、他)	76-2		6 ADE-F-G (篠林3158、長谷川)	
64-1		61	6 ACO-H (牛薬3395-1、トカイ)		76-3	6 ABE (古里554、明和町)
64-2			6 AGL-F (東加座2435-1、大和谷)		76-4	6 ACK (東裏354-13、山際)
64-3			6 ADD-A (篠林3136-1、山路)		76-5	6 AEE-W (東裏577、岡田)
64-4			6 AGR-N (笹川2340、丸山)		76-6	6 ACB-A (塚山3276-1、今西)
64-5	6 ACM-R-Q-P (東裏3385-2、斎宮小)		76-7		6 ACM-M (広瀬3385-2、斎宮小)	
64-6	6 ACK (東裏361-2、竹川自治会)		76-8		6 AFM-G (鍛冶山2736-3、近鉄)	
64-7	6 AIG-G (東加座2435-2、大和谷)		76-9		6 ACQ (南裏144-1、田所)	
64-8	6 AGR-J (笹川2341-6、山下)		76-10		6 ABD-U (古里579、池田建設)	
64-9	6 ADQ-M (牛薬、町道側溝)		76-11		6 ABE (古里554、明和町)	
64-10	6 ACF-A (東裏365-1、樋口)		76-12		6 AEE (東殿、町道下水管)	
64-11	6 ACM-O (東裏3385-2、斎宮小)		76-13		6 ADD-K (篠林3143、中西)	
64-12	6 ADE-B (篠林3162-3、江崎)		76-14		6 AEE-S (東殿2878-3、山路)	
65-1	6 ACC-M (塚山3331-1)		76-15		6 ABF-F6 ABH (中畑内、県道拡張)	
65-2	6 AEG-S (東殿2908-2、他)		76-16		6 AKE-B (下瀬2936-2、明和町)	
65-3	6 AEI-L-M (東殿2917-4、他)		76-17		6 AEV-A (鈴池339-5、永島)	
66	6 AGG-C (東加座2437-1、他)		77	6 AGJ-D (東加座2453、他)		
67	6 ABF (古里523、他)		78	6 ADL (宮ノ前3054、他)		
68	6 ABF (古里502、他)	79	6 AGG-A-B (東加座2440、他)			
69	6 AGM-E~H (東加座2373、他)	80	6 AFG-F~I (西加座2696、他)			
70-1	62	6 ACC-X (塚山3335-1、江崎)	81-1	H1	6 AEC-F (町道塚山線拡張)	
70-2		6 AEE-W (東殿2875-2、岡田)	81-2		6 ABJ、6 ABK (古里、県道拡張)	
70-3		6 ADR-I (木葉山129-5、大西)	81-3		6 ADS-M (木葉山137、中川)	
70-4		6 ACN-A-B-E-L (広瀬3388-8、林)	81-4		6 AED-L (東殿2881-2、山本)	
70-5		6 AEW-A (鈴池333-1、八田)	81-5		6 AFG-C (中西597-2、木戸口)	
70-6		6 ABL-S (中畑内430-6、奥山)	81-6		6 ADD-F (篠林313、池田)	
70-7		6 AEE-T (東殿577、浅尾)	81-7		6 ABL-U (中畑内430-7、川本)	
70-8		6 AEU-6 AEX-A (牛薬、鈴池、三重県)	81-8		6 ABJ (古里、明和町)	
70-9		6 AEP-C-D (御館、林原、近鉄)	81-9		6 ACF (中畑内、三重県)	

次	年度	調査地区	次	年度	調査地区	
81-10	1	6ADR-V (木霊山297、明和町)	89-1	3	6ADM-O (内山3043-5、近鉄斎宮駅)	
81-11		6ACM-N (広瀬3385-2、明和町)	89-2		6AGI-M (東加座2432-2他、北村)	
81-12		6AED-A (猿林3225、中川)	89-3		6ADM-N・O (内山3060-4、近鉄斎宮駅)	
81-13		6ACB (塚山3276-19他、明和町)	90		6APH-A・B (西加座2680他)	
81-14		6AED-F (宗殿2844-2、遼野)	91		6ABH-F (中垣内393、他)	
81-15		6AED-U (宗殿2885-2、西山)	92		6AGN-A (鍛冶山2734-3)	
81-16		6AG (北野3655-1、他)	93		6ADN (内山3045-12、他)	
82-1		6ADI-F~J (上園3095、他)	94		6AEM (御館2942)	
82-2		6ADI-K・L (上園3100、他)	95		6ADN (内山3046-17、他)	
83		6AFJ-C~F (西加座2770-3、他)	96-1		6AGM (東加座2374 丸山)	
84-1		6AFJ-G (西加座2764-3)	96-2		6ADO (内山3068-3、他 明和町)	
84-2		6AFH-G・H (西加座2679-1、他)	96-3		6ACA-D (古里3260 清水)	
85-1		2	6ABD~6ACD (古里、三重県)		96-4	6AFN (中西2749-1 本山)
85-2			6ACA-P (古里3279、松本)		96-5	6ADR-T (木霊山128-3 加藤)
85-3	6ACJ-B・D (東表、明和町)		96-6	6ADD-D (猿林3138-1 藤井)		
85-4	6ABE (竹川573-1、永納)		97	6AEM (中垣内482、他)		
85-5	6AED-U (宗殿2885-2、西山)		98	6AFM-C・E (鍛冶山2745、他)		
85-6	6AFH-B (西加座、明和町)					
85-7	6ACB-C (塚山3276-3他、加藤)					
85-8	6ABI-N (中垣内427-1、小林)					
86	6AFH-F・G・H (西加座2679-1他)					
87	6ACE-N・Q・R (塚山3356他)					
88	6AGN-C・D (鍛冶山2411-1他)					



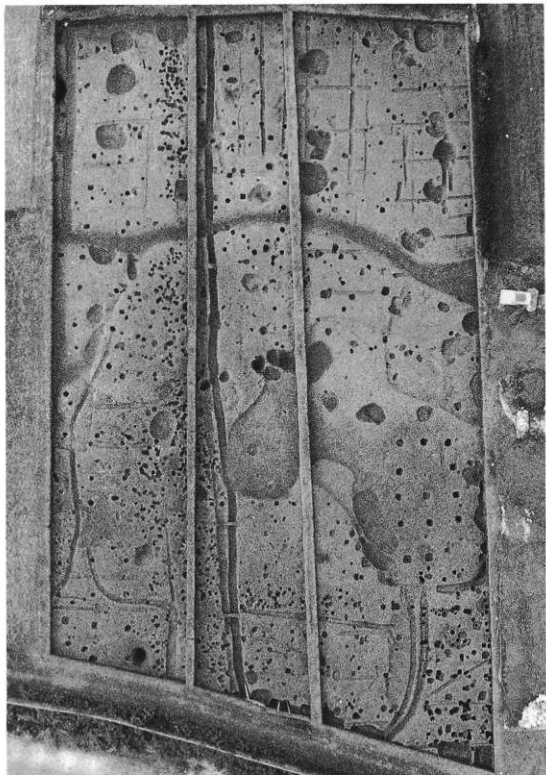


第31圖 查富跡地区表示



版





調査区全景（真上から）



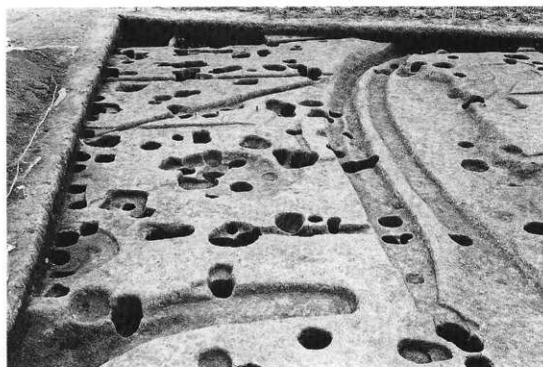
SB6637 (南から)



SB6642・6643 (北から)



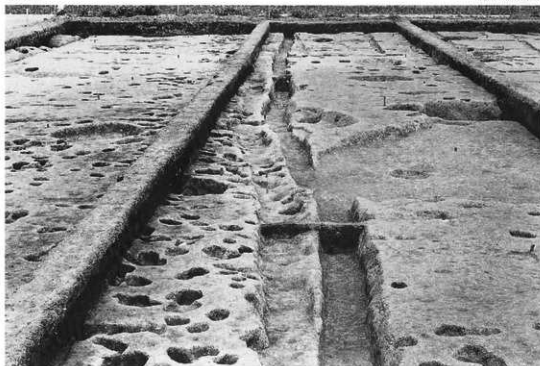
SB6660 (南から)



調査区東南部 (北から)

PL 4

第95次調査



SD0244・6671・SA6645 (南から)



SX6635 (東から)

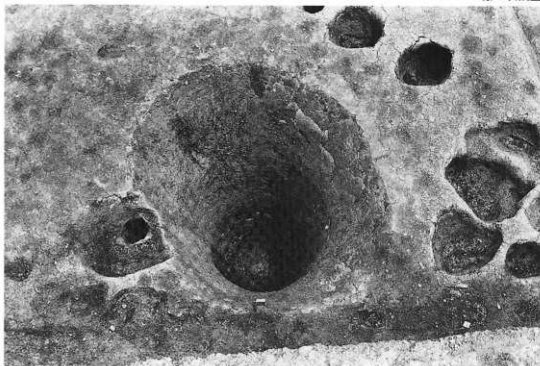


S X 6666 (東から)

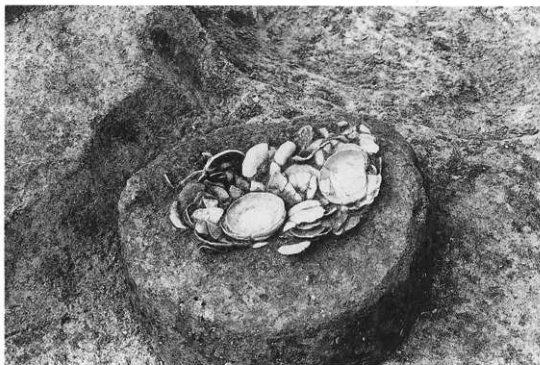


S X 6666 土師器壺半截状況 (東から)





SK6644 (南から)



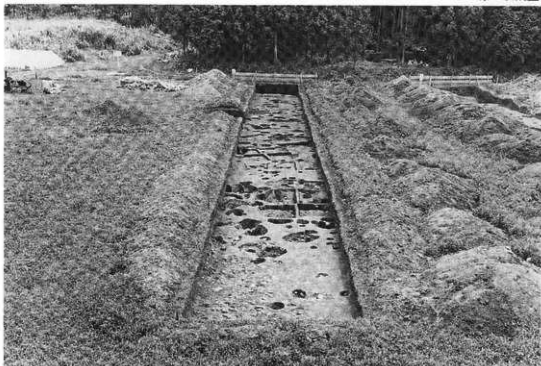
SX6652 (南から)



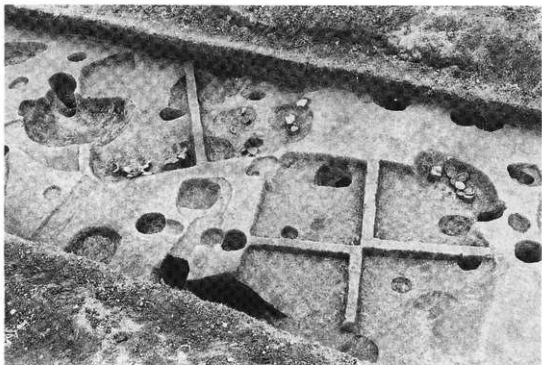
A区 全景 (北から)



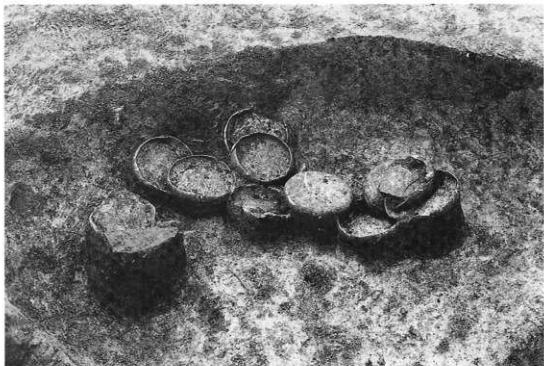
A区 SD6700 (東から)



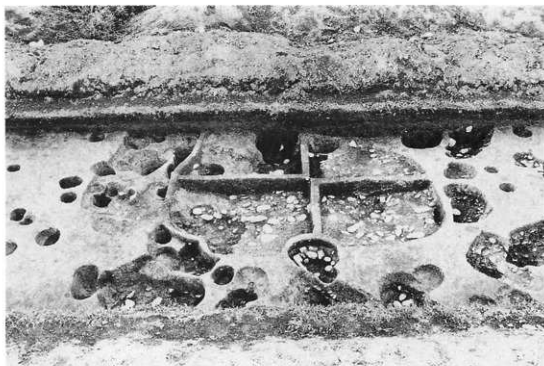
B区 全景 (北から)



SB6693・6694 (北東から)



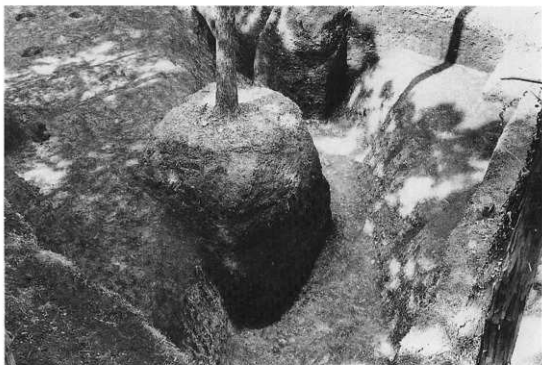
SK6692 (南から)



SK6689・SB6690 (東から)



S X6696 (東から)



C区 SD4500 (東から)



D区 全景 (南西から)



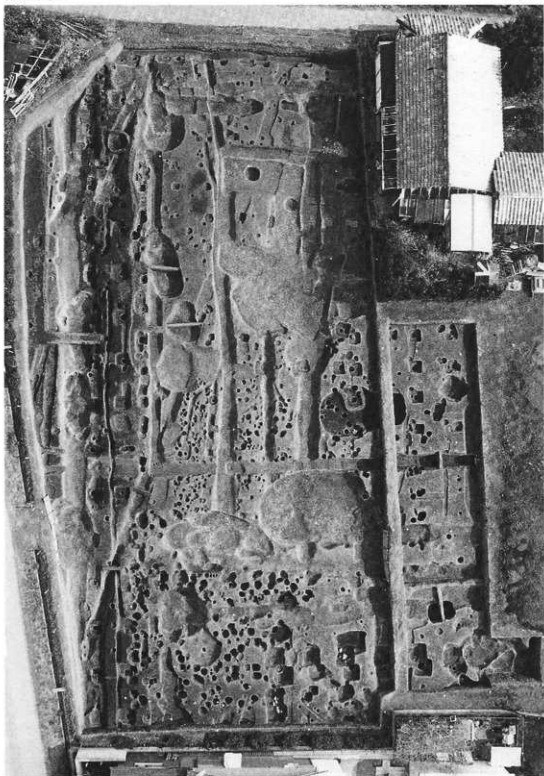
SB6706 (北西から)



SB6708・6709 (南西から)



SB6713・6714 (北西から)

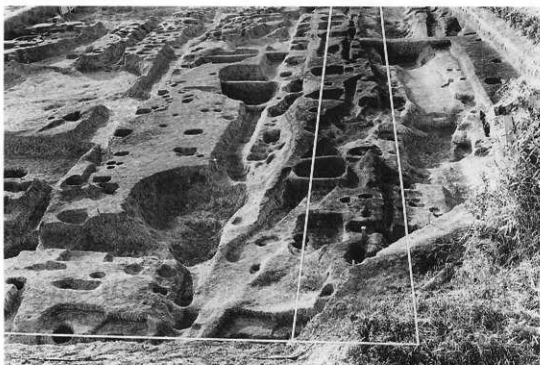


調査区全景（真上から）

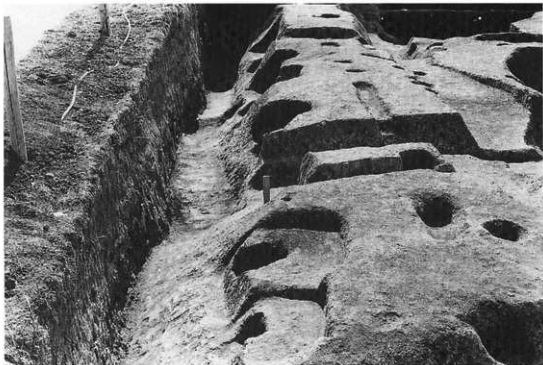




SF6800・SD6801・6802 (東から)



SA6760・6770・6780・6790 (東から)



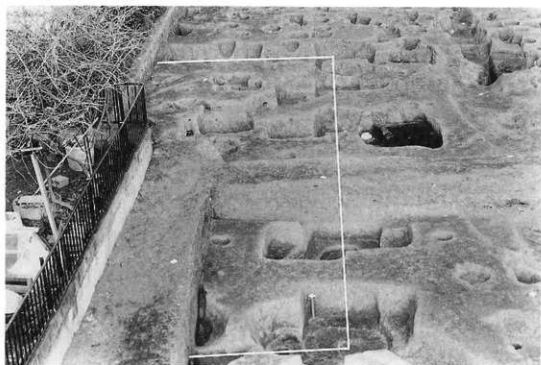
S A6770・6790 (北から)



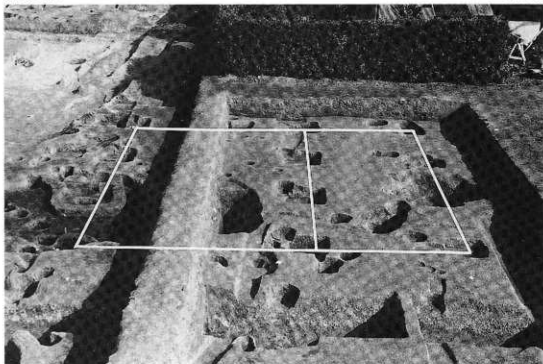
SD6810 (東から)



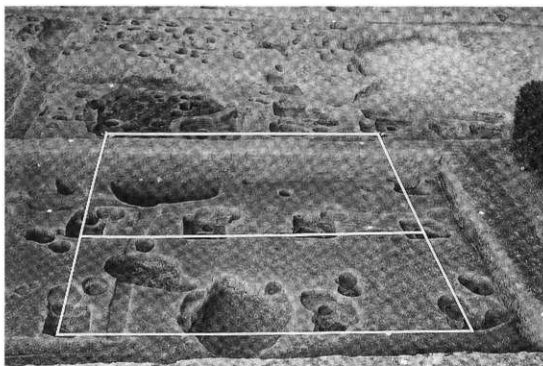
SB6720・6721・6722 (東から)



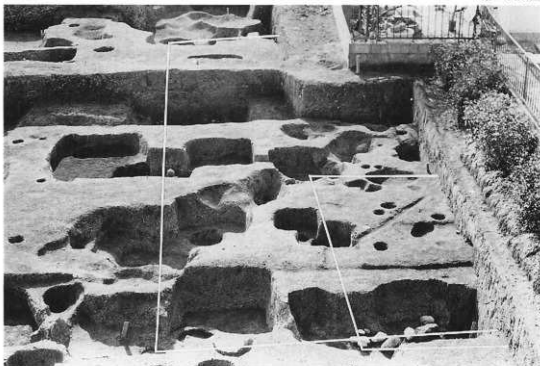
同 上 (南から)



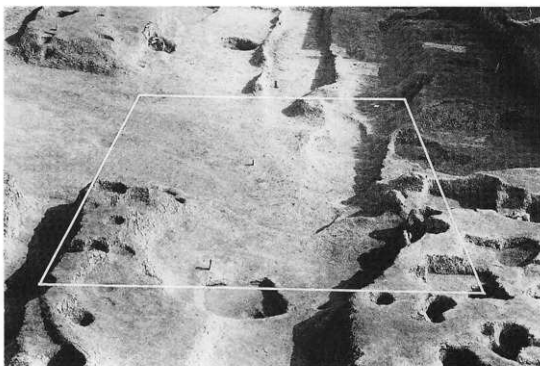
SB6730 (西から)



同 上 (南から)



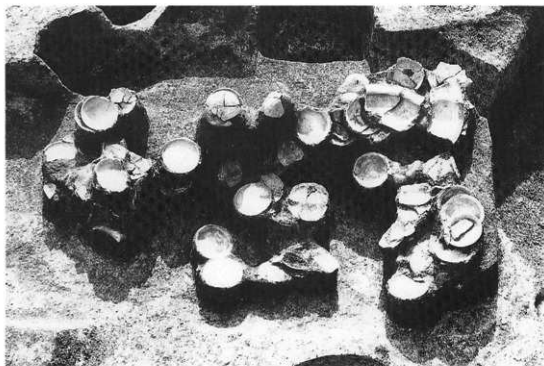
SB6720・6725 (北から)



SB6735 (西から)



SK 6753 (南から)



SK 6743 (北から)





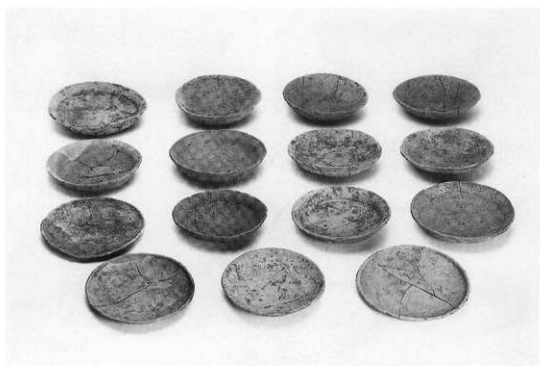








SK6753



SK6743



SD6750





83



82



80



SK6815

---

国史跡 斎宮跡

平成4年度

発掘調査概報

平成5年3月31日

編集発行 斎宮歴史博物館

印刷 光出版印刷株式会社

---

